

京都市
結婚と出産に関する意識調査
【結果報告書】



平成26年10月
京 都 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	調査結果の表示方法.....	1
II	調査のまとめ.....	2
III	調査結果.....	7
1	回答者の属性.....	7
2	少子化について.....	11
3	結婚について.....	20
4	出産について.....	46
5	「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について.....	61
6	最後に.....	82
IV	資料編.....	84

子どもを共に育む 京都市民憲章

わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、
慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを
大切にして、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、
京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、
子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが
求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、
命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で
臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、
学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、
共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。



京都はぐくみ憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

1 9 2 5
平成19年2月5日（育児ニコニコ笑顔の日）制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、子育て支援施策の総合的な計画として、平成22年3月に「京都市未来こどもプラン」（以下「現行プラン」といいます。）を策定し、子どもたちの笑顔のためにみんなで子育てを支え合えるまちづくりを進めてきました。

現行プランの計画期間は、平成26年度までとなっていることから、京都市では、現行プランを見直し、平成27年度から平成31年度までの5箇年を計画期間とする新たなプランを策定することとしています。

本調査は、この新たなプランの策定に際し、市民の皆様は結婚と出産に関する意識などを聞き、一層進行する少子化について、社会全体でどのように対応していくべきか検討し、次期プランの策定や今後の子育て支援施策の推進や少子化対策に活用することを目的に実施したものです。

2 調査概要

○調査地域：京都市全域

○調査対象者：京都市内在住の18歳から49歳までの市民

○調査期間：平成25年10月30日から11月13日まで

○調査方法：郵送配布・郵送回収（無記名回答）

	配布数	有効回収数	有効回収率
結婚と出産に関する意識調査	6,500人	1,842人	28.3%

3 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表により表示していますが、グラフ以外のクロス集計表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。

Ⅱ 調査のまとめ

1 少子化について

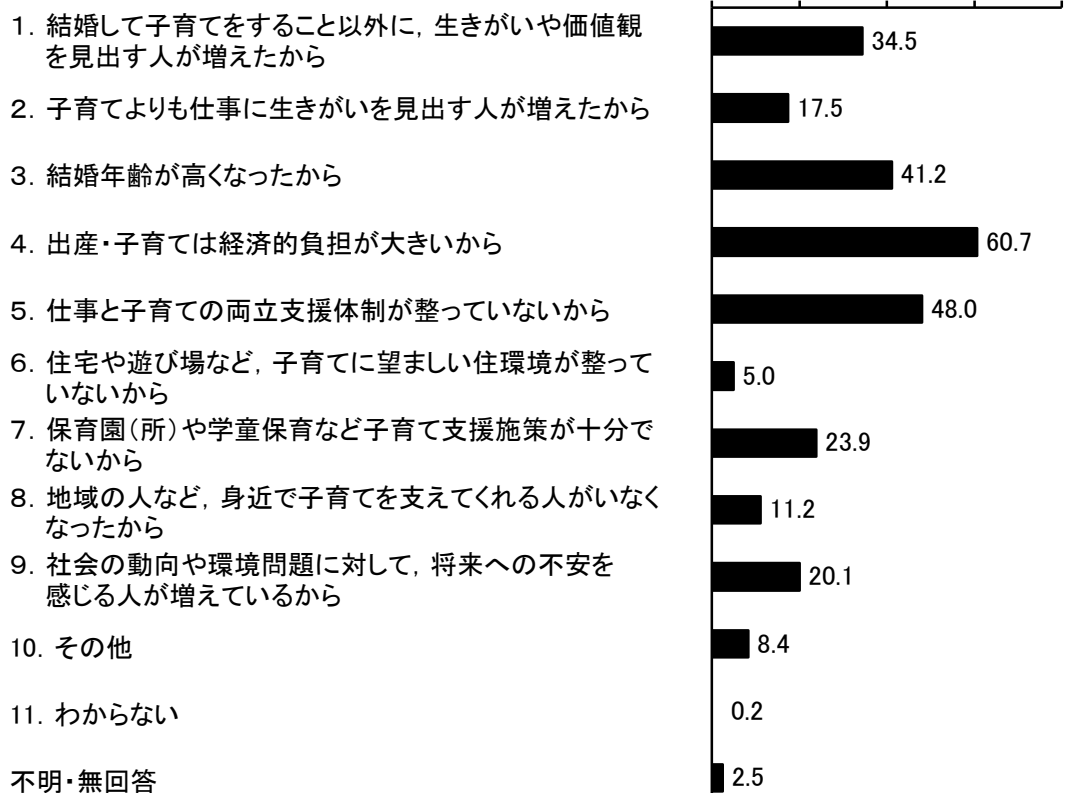
【調査結果からみえる現状】

少子化が社会に与える影響（問7）については、「2. 現行の年金制度や医療保障が成り立たなくなる」の割合が75.1%と高くなっており、出生率が低い主な原因（問8）としては、「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」という理由が60.7%と最も高く、次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」の割合が48.0%となっています。

出生率の増加を必要と考えるか（問9）については、「何としても増加させる必要がある（22.1%）」と「増加させたほうがよい（61.1%）」を合わせて83.2%となっており、そのための対策（問10）として、「（6）保育園（所）に入所しやすい環境づくり」や「（8）保育料の軽減」、「（21）子どもの教育費の軽減」などの割合が高くなっており、子育て当事者への支援が求められていることがうかがえます。

【出生率が低い主な原因】

N = 1,842



※ 問8結果から引用

2 結婚について

【調査結果からみえる現状】

未婚者に対する今後の結婚の意向（問１１－２）については、「３．結婚したくない」の割合が平成２０年調査結果と比較すると、６．３ポイント増加しています。結婚したくない理由（問１１－４）をみると、「６．結婚したい異性にめぐり逢えないから」の割合が最も高くなっており、次いで「１０．結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」の割合が高くなっています。

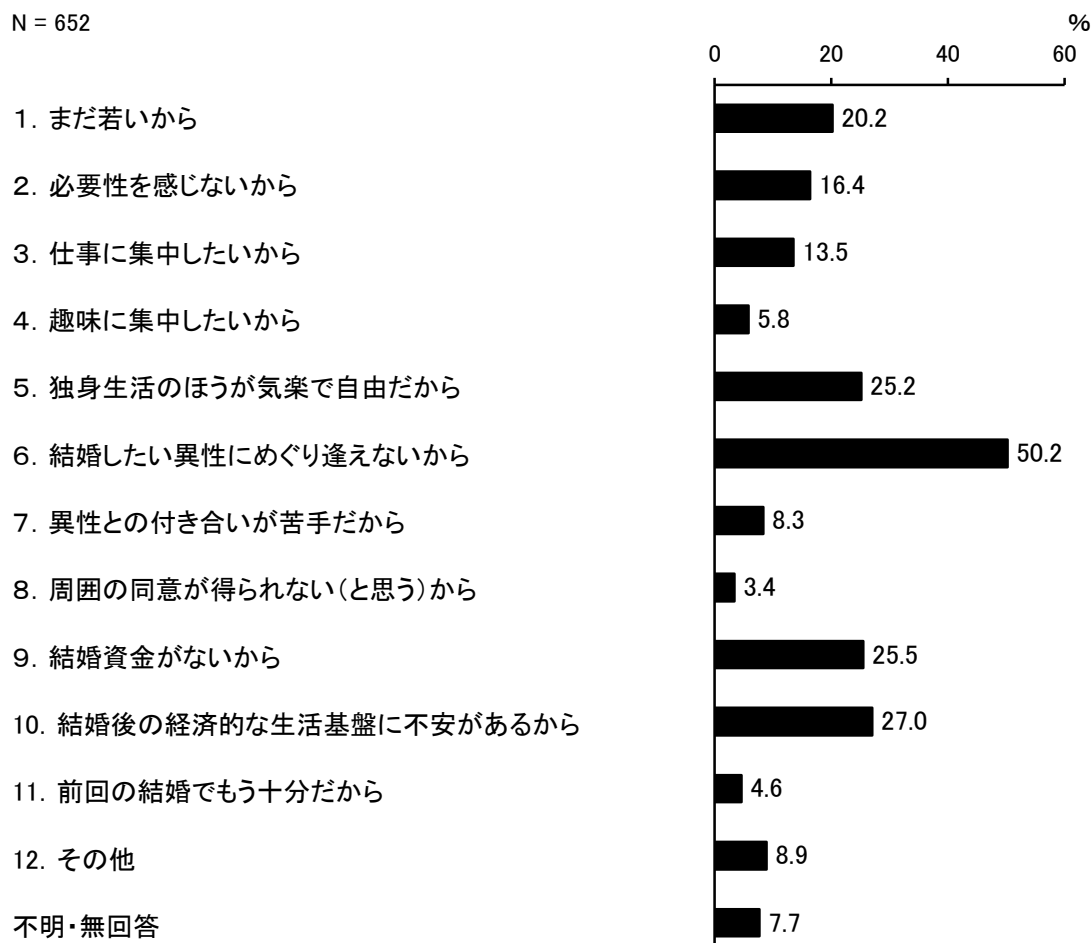
また、結婚を考える場合の心配や不安（問１５）については、「３．相手の家族や親戚とのつきあい」や「４．結婚後の生活費のこと」の割合が高く、人間関係や経済的な負担に対する心配や不安を抱えていることがうかがえます。

行政に求める結婚を支援するための政策（問２１）については、「７．保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくり」や「４．企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」の割合が高くなっています。

ライフスタイルが多様化していく中で、経済的な負担感や就労状況、人間関係により結婚を躊躇していることがうかがえるため、安心して結婚することができるよう、支援をしていくことが必要となっています。

【結婚していない、あるいは、結婚したくない理由】

N = 652



※ 問１１－４結果から引用

3 出産について

【調査結果からみえる現状】

現実にいる子どもの数又は予定している子どもの数（問24）が、理想と比べ「3. 少ない」の割合は約5割となっています。

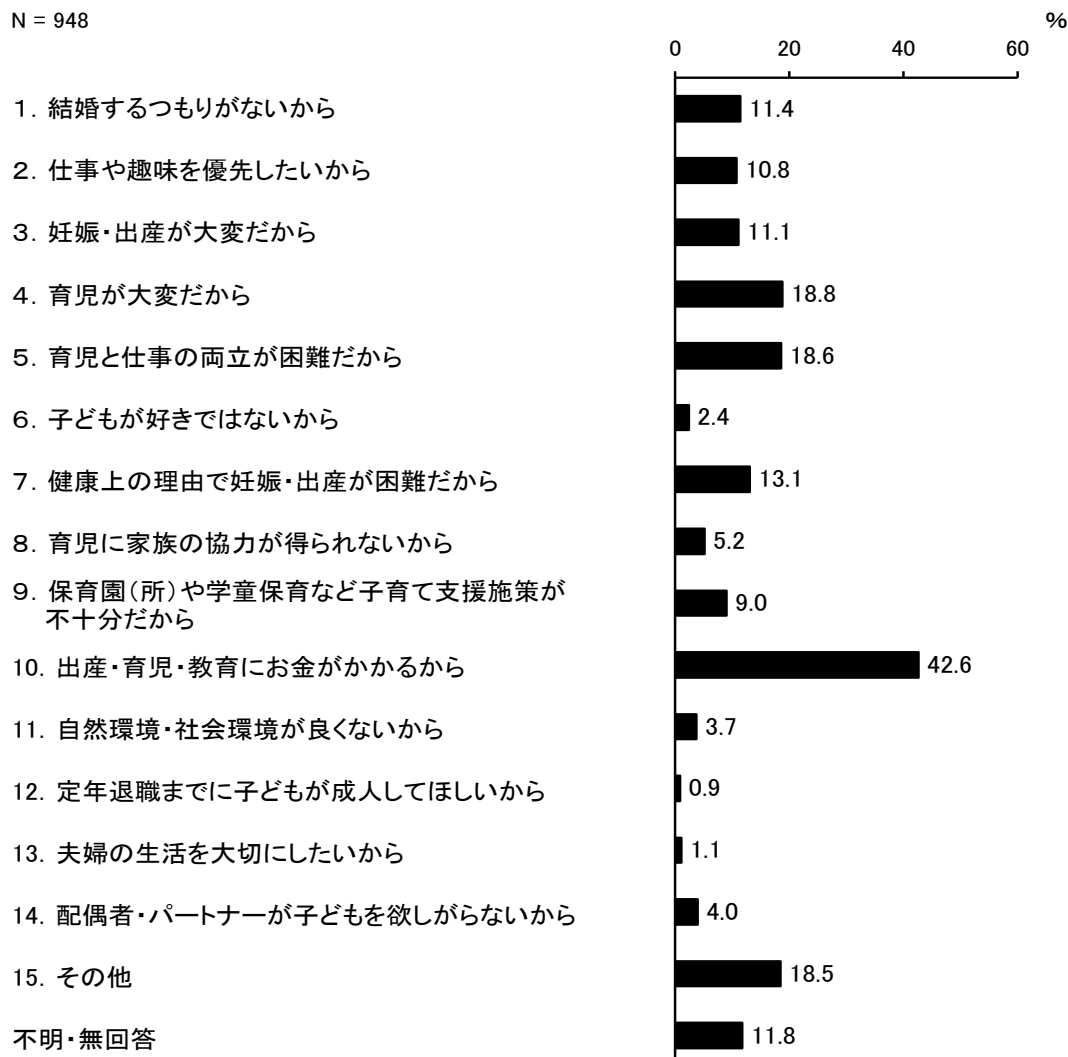
理想より少ない理由（問25）としては、「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」の割合が4割と最も高くなっており、次いで「4. 育児が大変だから」、「5. 育児と仕事の両立が困難だから」の割合がそれぞれ約2割となっています。

また、理想の数の子どもを持つ条件（問26）として「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」の割合が3割以上と最も高くなっており、次いで「3. 職場における理解や支援」の割合が2割となっていることから、経済的な問題とともに、育児と就労の両立が困難であることが子どもの人数に影響を与えていることがうかがえます。

出産後の実家との距離（問27）について、「2. 近くに住みたい」の割合が8割と高くなっており、子育ての支援について両親等から手助け等を受けたい（問17-（8））の割合も7割と高いことから、両親からの支援や協力を受けながらの子育てをしていきたいという意向がうかがえます。

【子どもを持たない理由、実際には理想より少なくなりそうな理由】

N = 948



※ 問25結果から引用

4 仕事と生活の調和の推進（ワーク・ライフ・バランス）について

【調査結果からみえる現状】

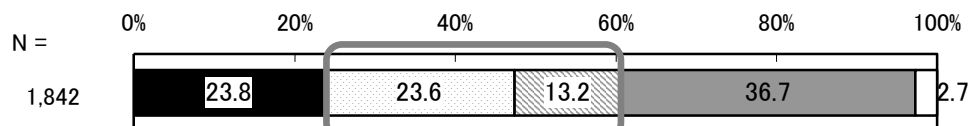
仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和が図られているか（問29）について、「1. 図られている」の割合が2割で、平成20年調査の4割から半減しています。図られていない理由（問29-2）として、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」の割合が6割と高くなっています。

また、結婚や出産後の仕事の状況（問31-3）について、「1. 働きはじめた」の割合が8割以上となっており、働きたいと思ったきっかけ（問31-4）として、「2. 経済的な理由が発生したから」の割合が4割以上となっており、経済的な理由から、仕事に復帰をしている人の割合が多くなっていることがうかがえます。

仕事と生活の調和を実現するために、企業等に取り組んでほしいこと（問32）については、「1. 長時間労働の抑制」の割合が最も高く、次いで「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」、「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」などの割合が高くなっており、働く人の状況に合わせた就業形態や休暇制度等の利用等、多様な働き方への対応が求められています。

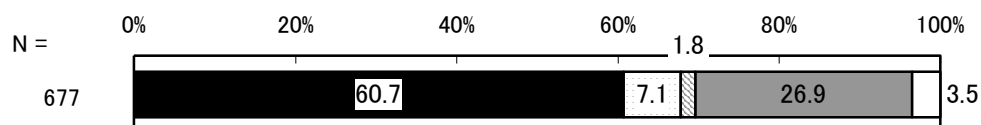
【自分自身や家族、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献との調和の状況】

- 1. 図れている
- ▨ 3. 全く図れていない
- 不明・無回答
- 2. 図ろうとしているがあまり図れていない
- 4. 考えたこともない



【調和が図れていない理由】

- 1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない
- 2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから
- ▨ 3. 仕事以外にやるべき(やりたい)ことがないから
- 4. その他
- 不明・無回答



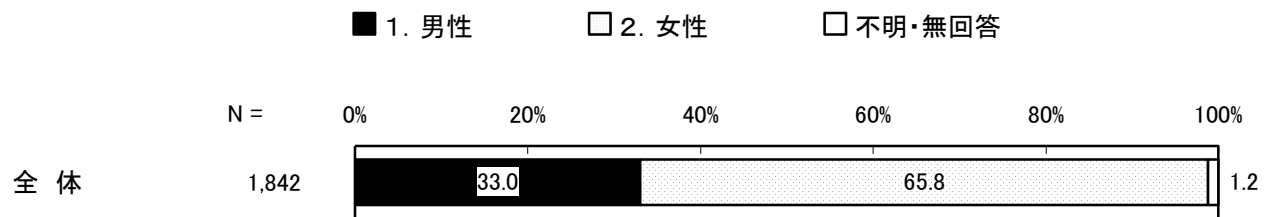
※ 問29、29-2結果から引用

Ⅲ 調査結果

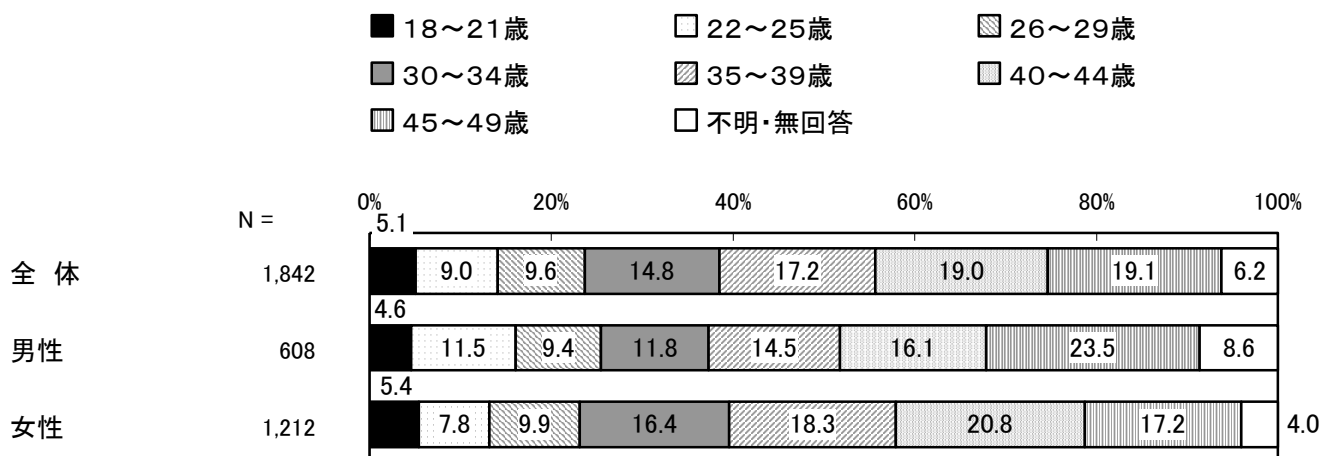
1 回答者の属性

問1 あなたの性別と年齢をお聞きます（年齢は平成25年10月1日現在）。

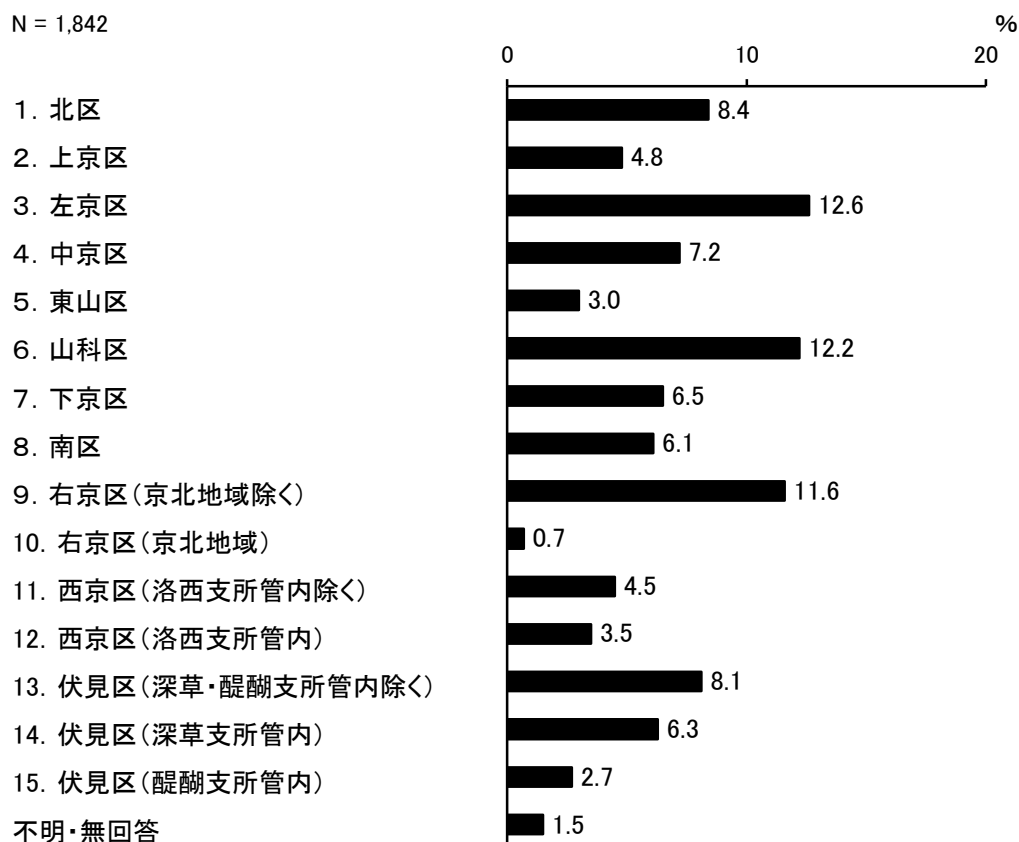
【性別】



【年齢】

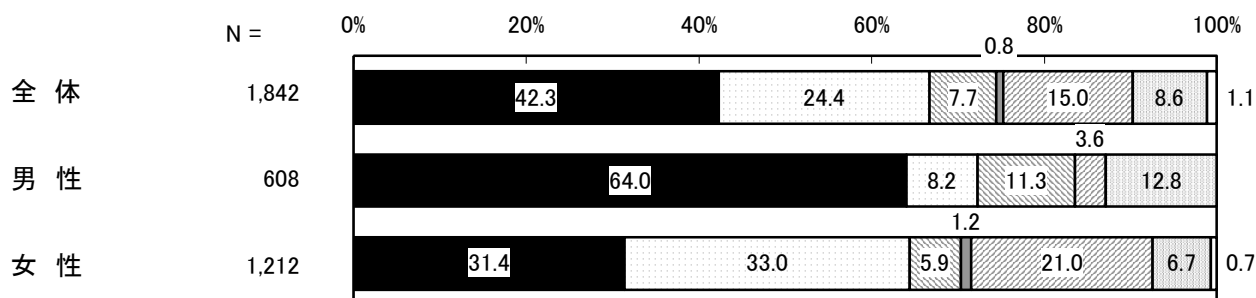


問2 お住まいの区等はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

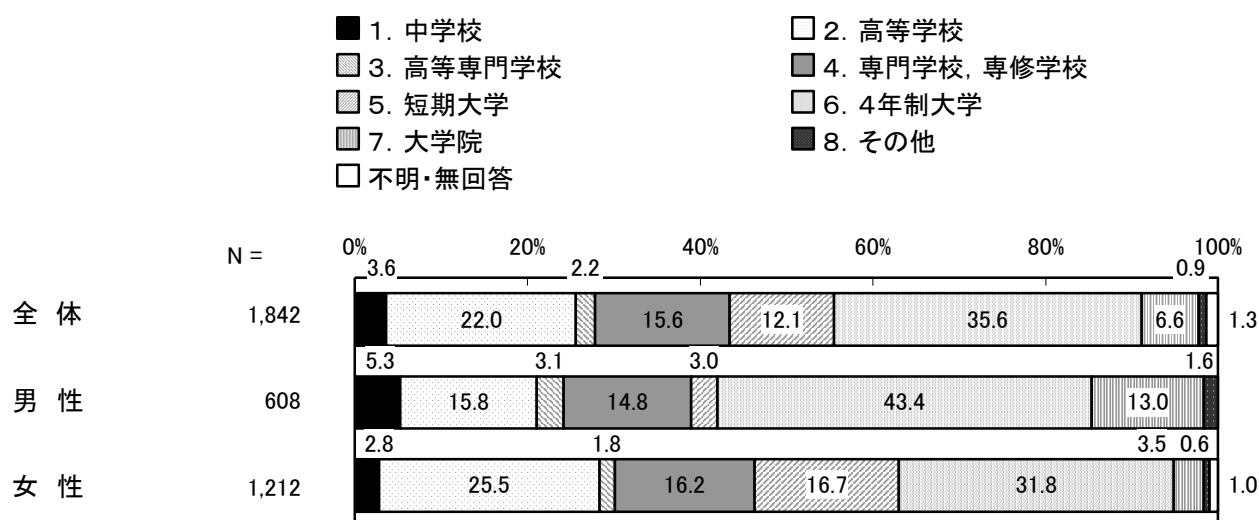


問3 あなたの職業をお聞きます。当てはまる番号1つに○をつけてください。

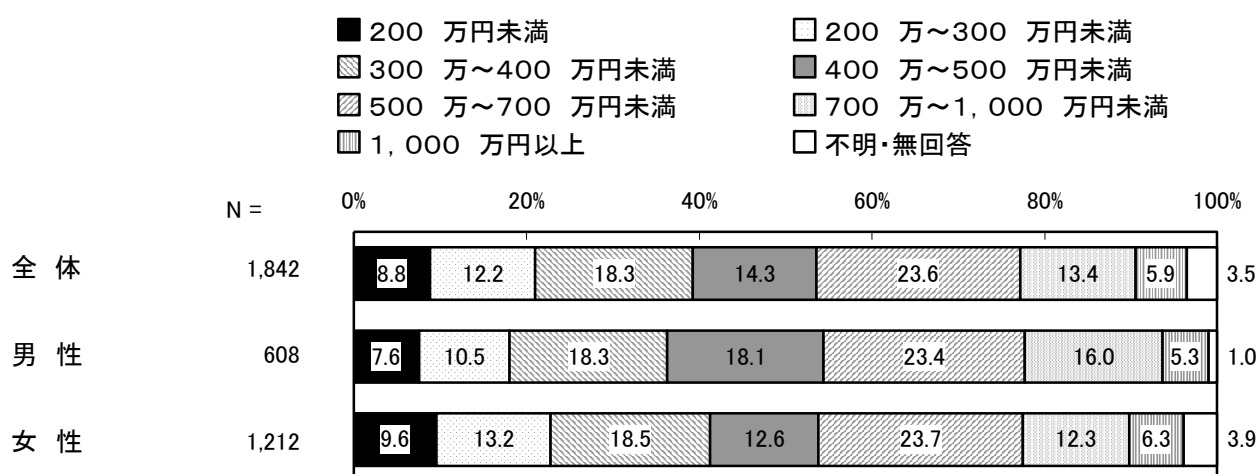
- ☒ 1. 常勤(正規職員等) ☐ 2. パート・アルバイト ☐ 3. 自営業
☐ 4. 在宅勤務・内職 ☐ 5. 無職・家事専業 ☐ 6. 大学生・大学院生
☐ 不明・無回答



問4 あなたの最終学歴をお聞きます。当てはまる番号1つに○をつけてください。



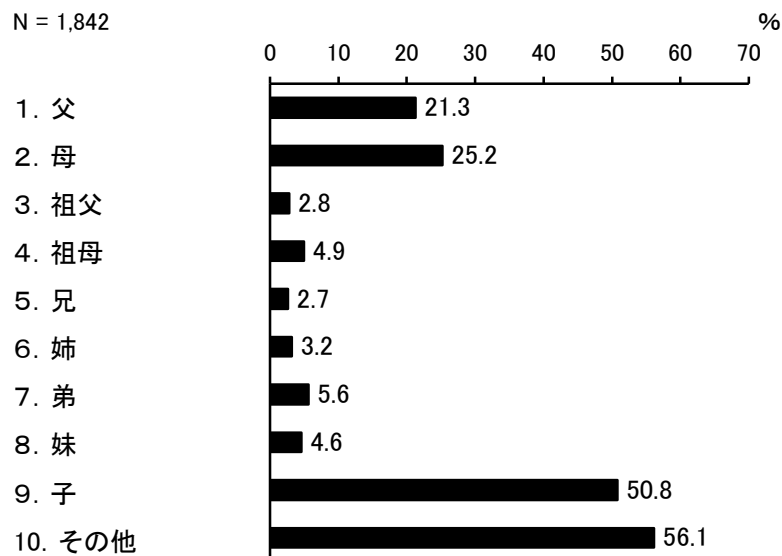
問5 同居しているご家族全員の総収入（世帯の年収）はいくらくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください（事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた金額）。



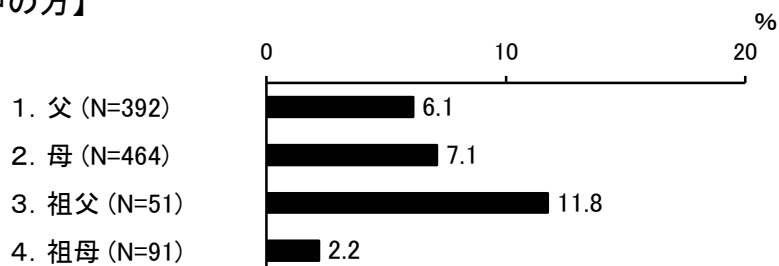
問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態及び心身の状況について、下記の選択肢番号を記入してください（年齢は平成25年10月1日現在）。

【同居の状況別】

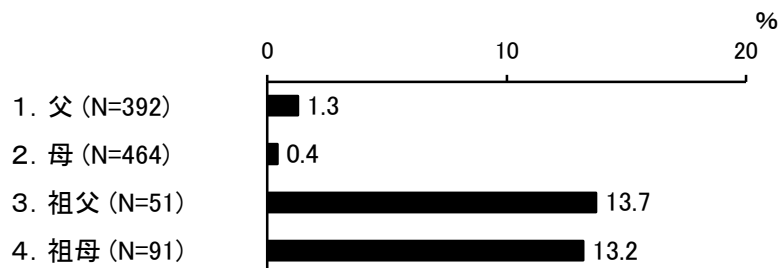
N = 1,842



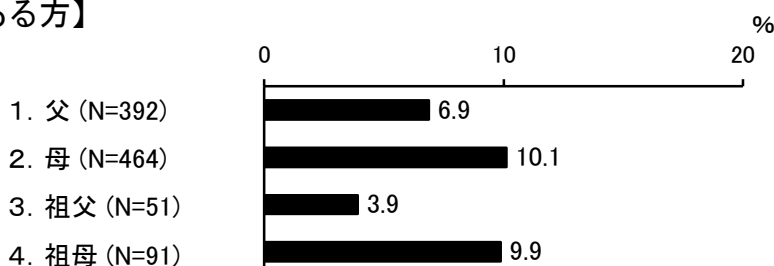
【現在 病気療養中の方】



【介護が必要な状態の方】



【心身に障がいがある方】



2 少子化について

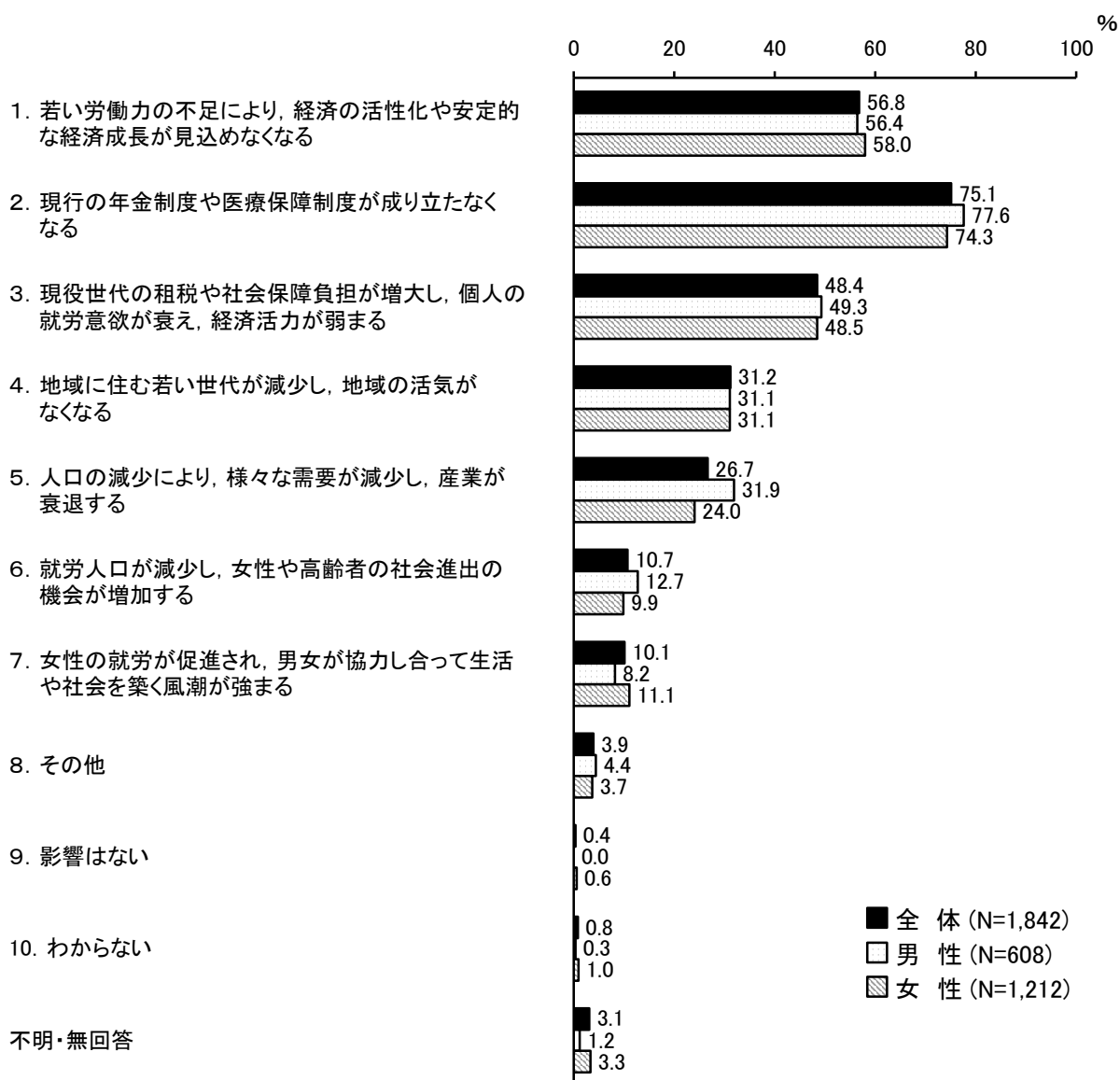
問7 少子化が社会に与える影響として、どのようなものがあると思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」の割合が75.1%と最も高く、次いで「1. 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」の割合が56.8%、「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる」の割合が48.4%となっています。

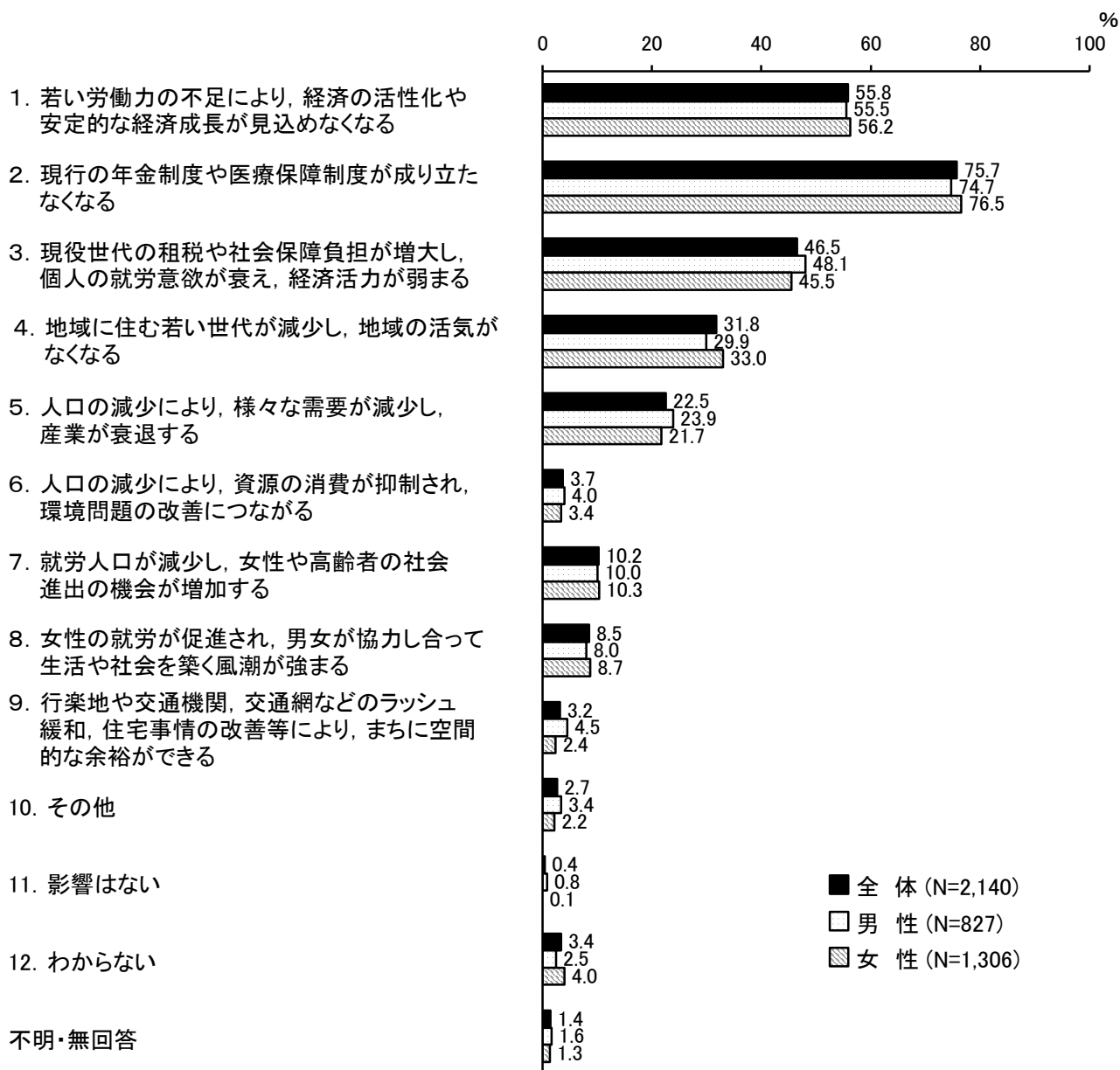
性別にみると、「5. 人口の減少により、様々な需要が減少し、産業が衰退する」については、「男性」が31.9%に対し、「女性」が24.0%と7.9ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「5. 人口の減少により、様々な需要が減少し、産業が衰退する」の割合が高くなっており、特に男性で8.0ポイント高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



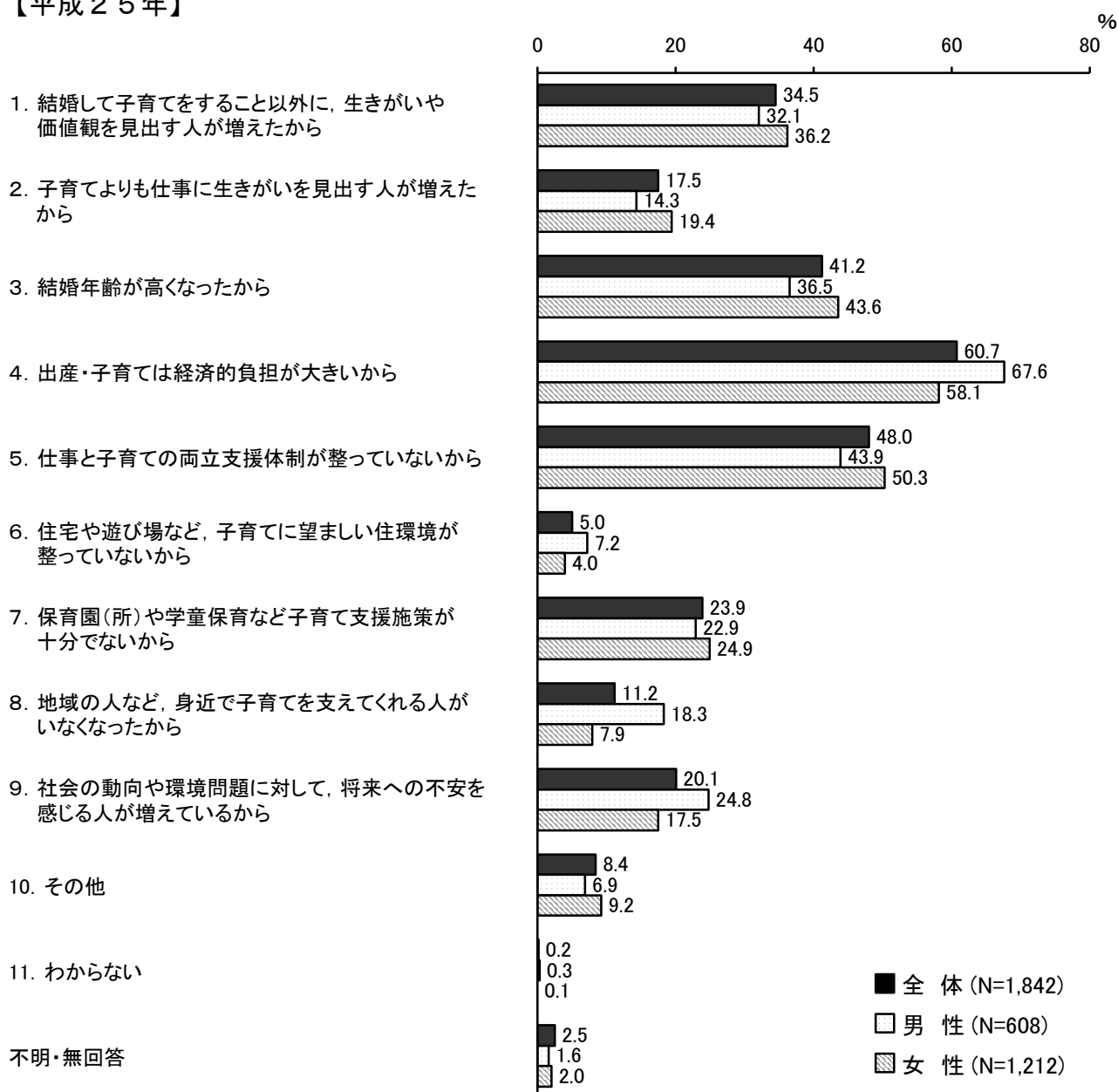
問 8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」の割合が60.7%と最も高く、次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」の割合が48.0%、「3. 結婚年齢が高くなったから」の割合が41.2%となっています。

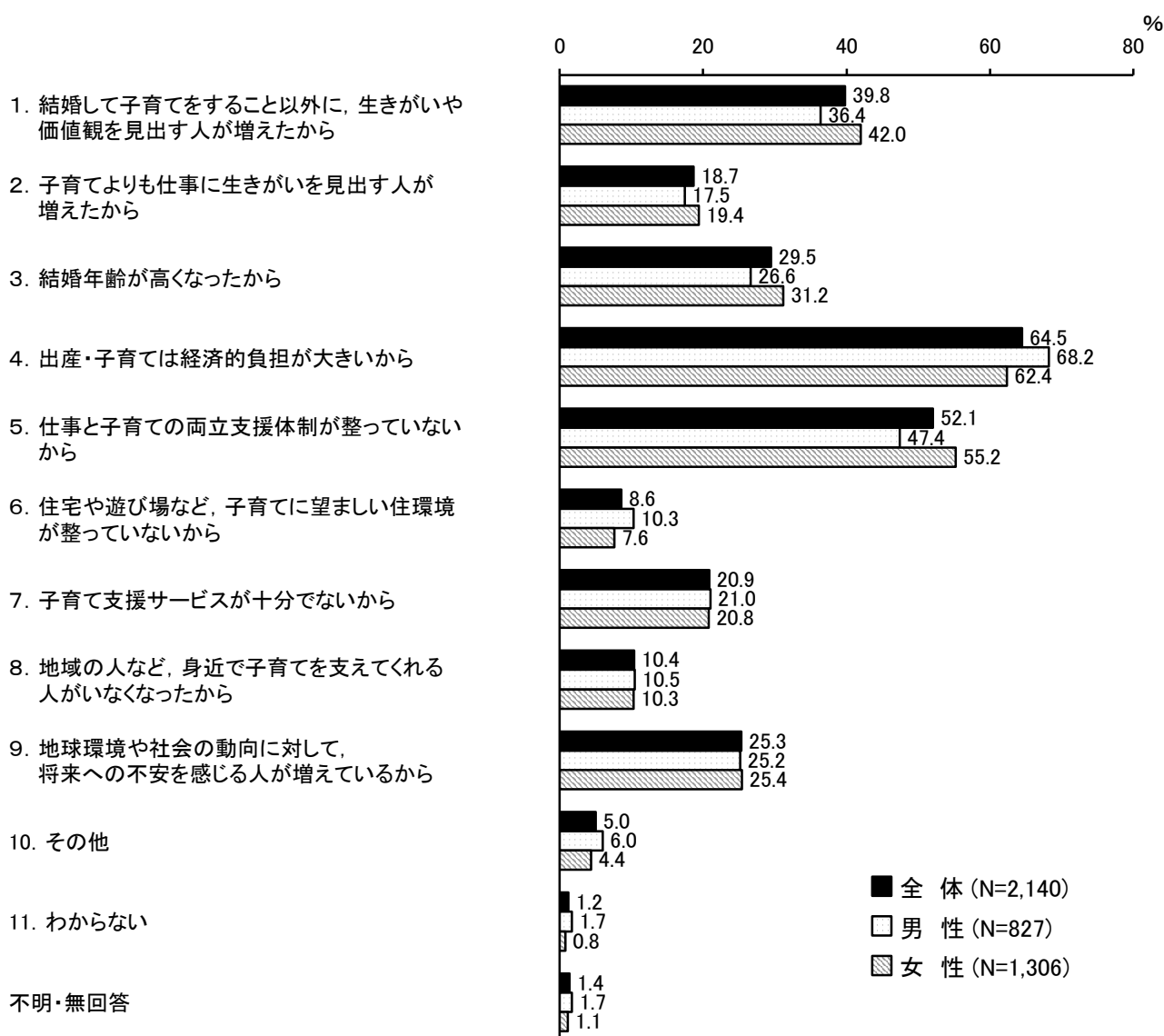
性別にみると、「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」については、「男性」が67.6%に対し、「女性」が58.1%、「8. 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから」については、「男性」が18.3%に対し、「女性」が7.9%とそれぞれ約10ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「3. 結婚年齢が高くなったから」の割合が高くなっています。また、男性で「8. 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから」の割合が7.8ポイント高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



問 9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

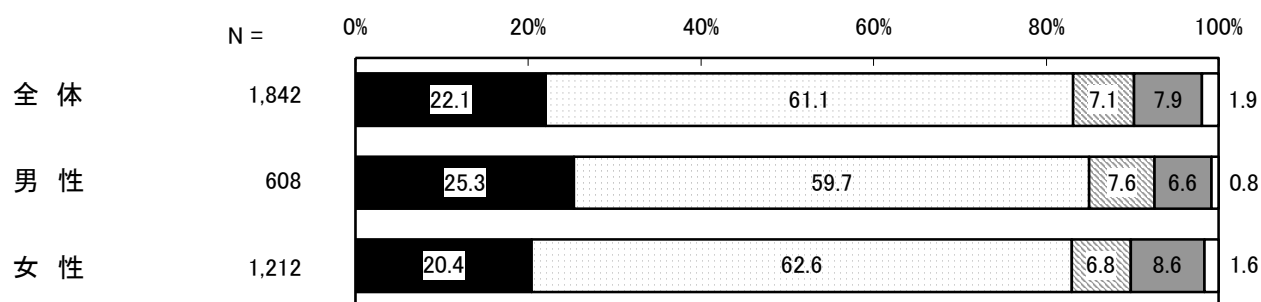
「2. 増加させたほうがよい」の割合が61.1%と最も高く、次いで「1. 何としても増加させる必要がある」の割合が22.1%、「3. 増加させなくてもよい」の割合が7.1%となっています。

性別による大きな差はみられません。

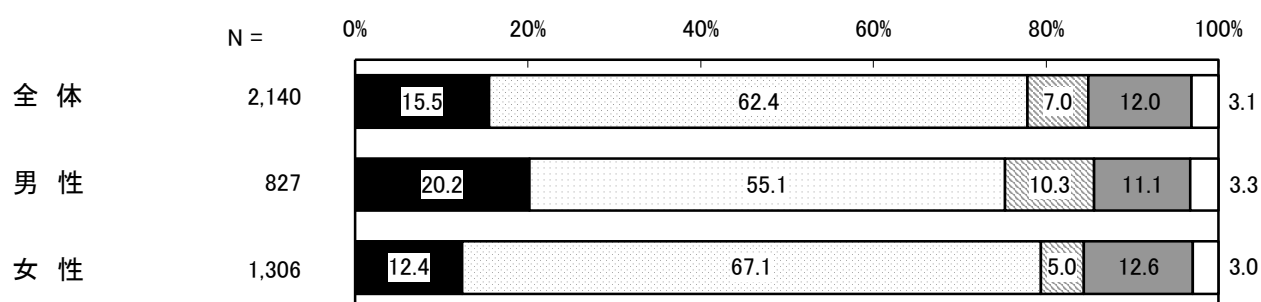
平成20年調査と比較すると、「1. 何としても増加させる必要がある」の割合が高くなっており、特に女性で8.0ポイント高くなっています。

■ 1. 何としても増加させる必要がある □ 2. 増加させたほうがよい
 ■ 3. 増加させなくてもよい ■ 4. わからない
 □ 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。各項目につき当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」を合わせた『効果がある』の割合が高い施策等は、「(6) 保育園(所)に入所しやすい環境づくり」が最も高く 91.5%、「(21) 子どもの教育費の軽減」が 88.2%となっています。

一方で、「3. あまり効果がない」と「4. 全く効果がない」を合わせた『効果はない』の割合が高い施策等は、「(29) 男女の出会いの場づくりの支援」が最も高く 39.2%、次いで「(15) 男性の育児・家事への参加の啓発」が 32.8%と高くなっています。

平成20年調査と比較すると、「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」を合わせた『効果がある』施策として、「男女の出会いの場づくりの支援」の割合が13.8ポイント高くなっています。

■ 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある ▨ 3. あまり効果はない
 ■ 4. 全く効果はない ▨ 5. わからない □ 不明・無回答

【平成25年】

N=1,842

(1)男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり

(2)育児休業中の賃金保障の引上げ

(3)育児休業中の代替要員の確保

(4)育児休業後復職時の前職保障

(5)育児休業期間の長期化・弾力化

(6)保育園(所)に入所しやすい環境づくり

(7)学童保育を利用しやすい環境づくり

(8)保育料の軽減

(9)長時間保育の拡充

(10)職場内保育施設の拡充

(11)子どもが病気のときの看護休暇

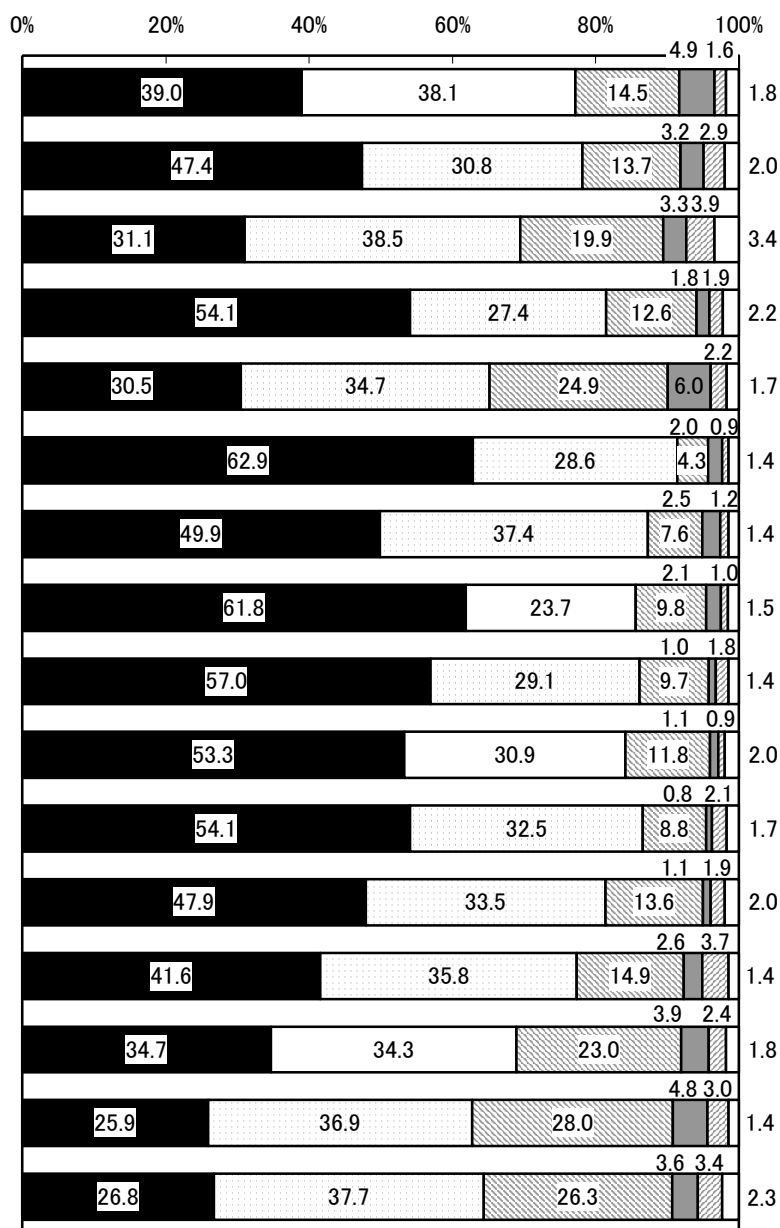
(12)病児・病後児の保育受入れ施設の拡充

(13)親が病気のときに子どもを預けられる施設の整備

(14)労働時間の短縮

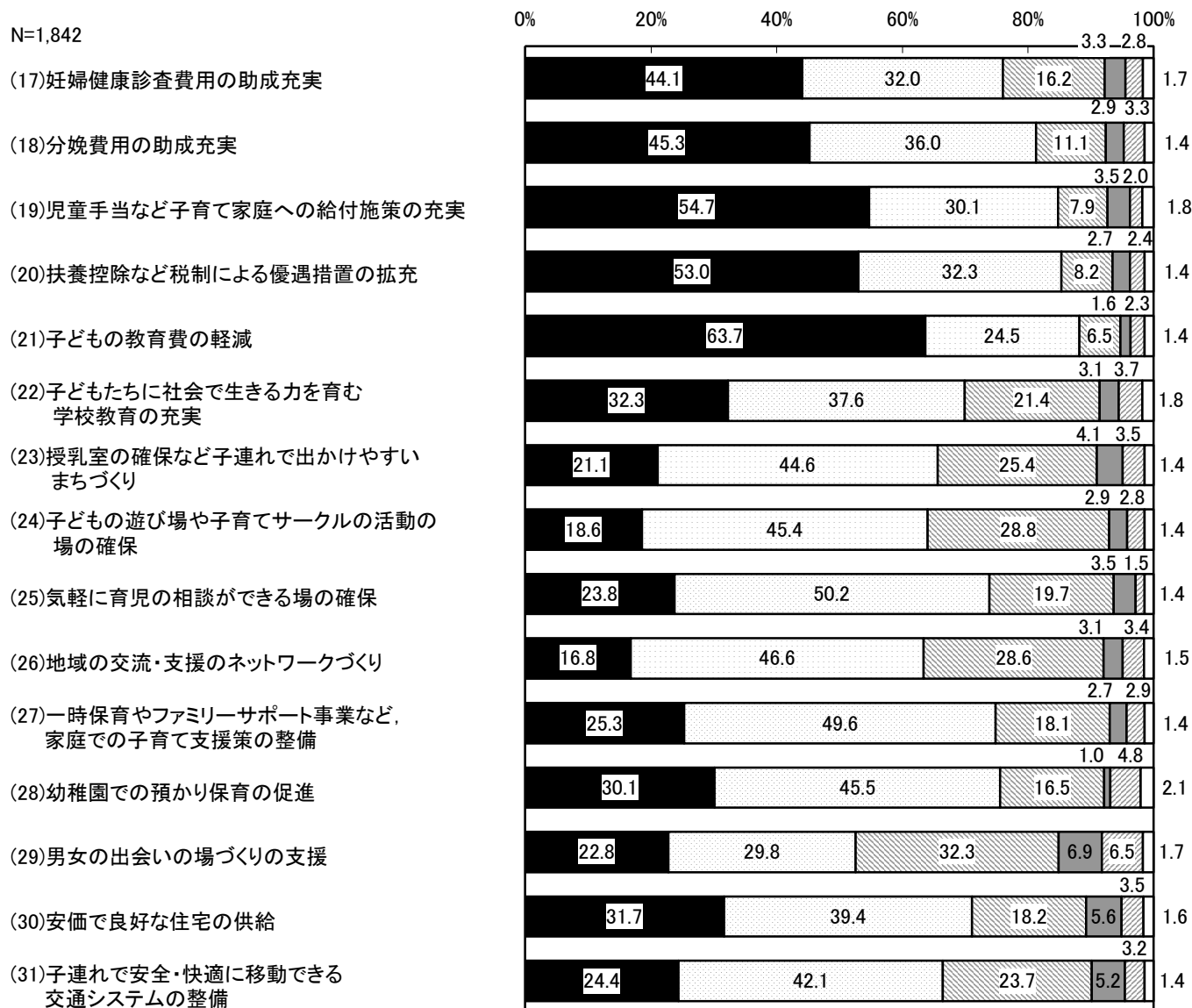
(15)男性の育児・家事への参加の啓発

(16)出産施設の受入れ体制の充実



■ 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある ▨ 3. あまり効果はない
 ■ 4. 全く効果はない ▨ 5. わからない □ 不明・無回答

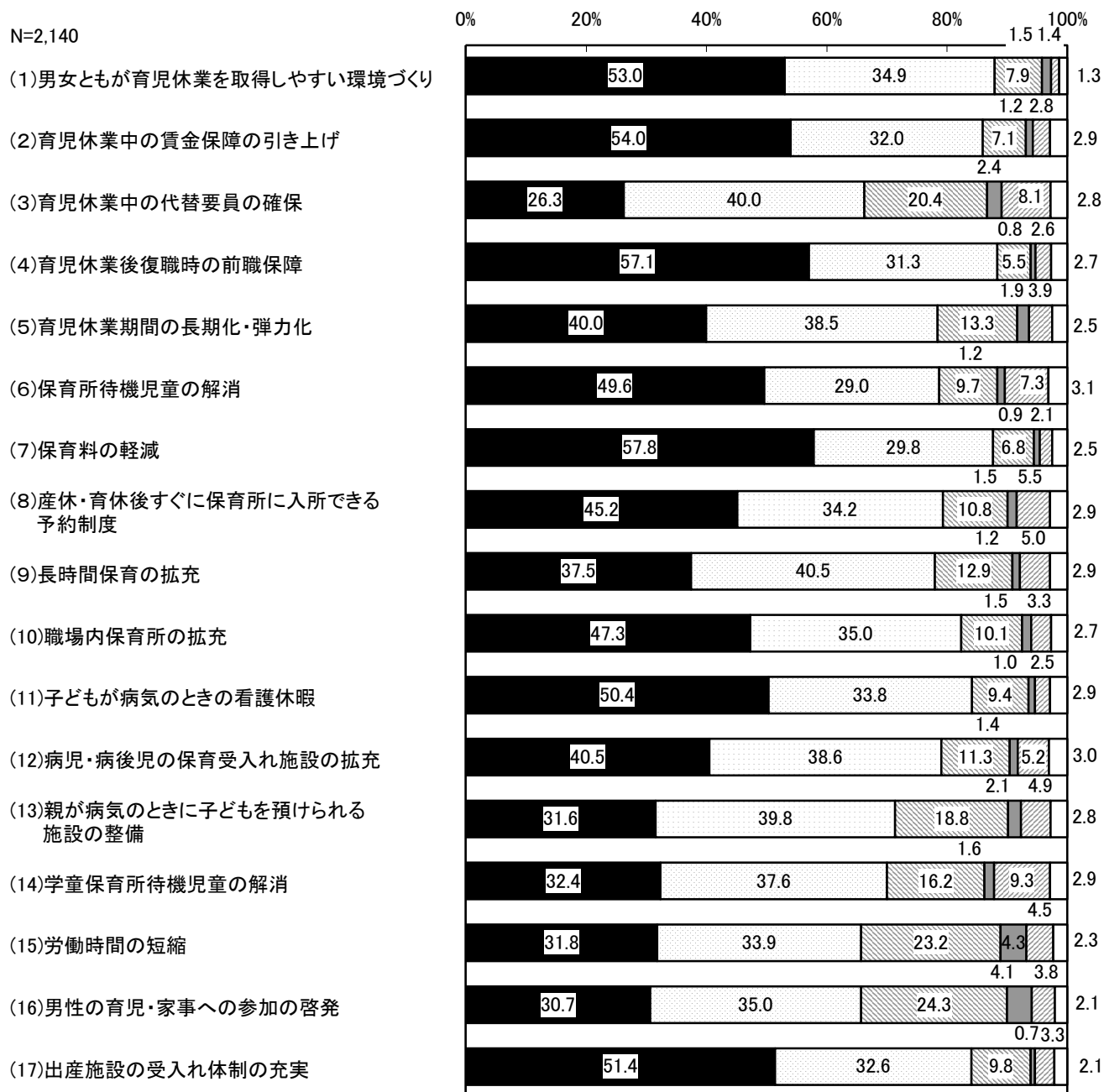
N=1,842



- 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある ▨ 3. あまり効果はない
 ▩ 4. 全く効果はない ▤ 5. わからない □ 不明・無回答

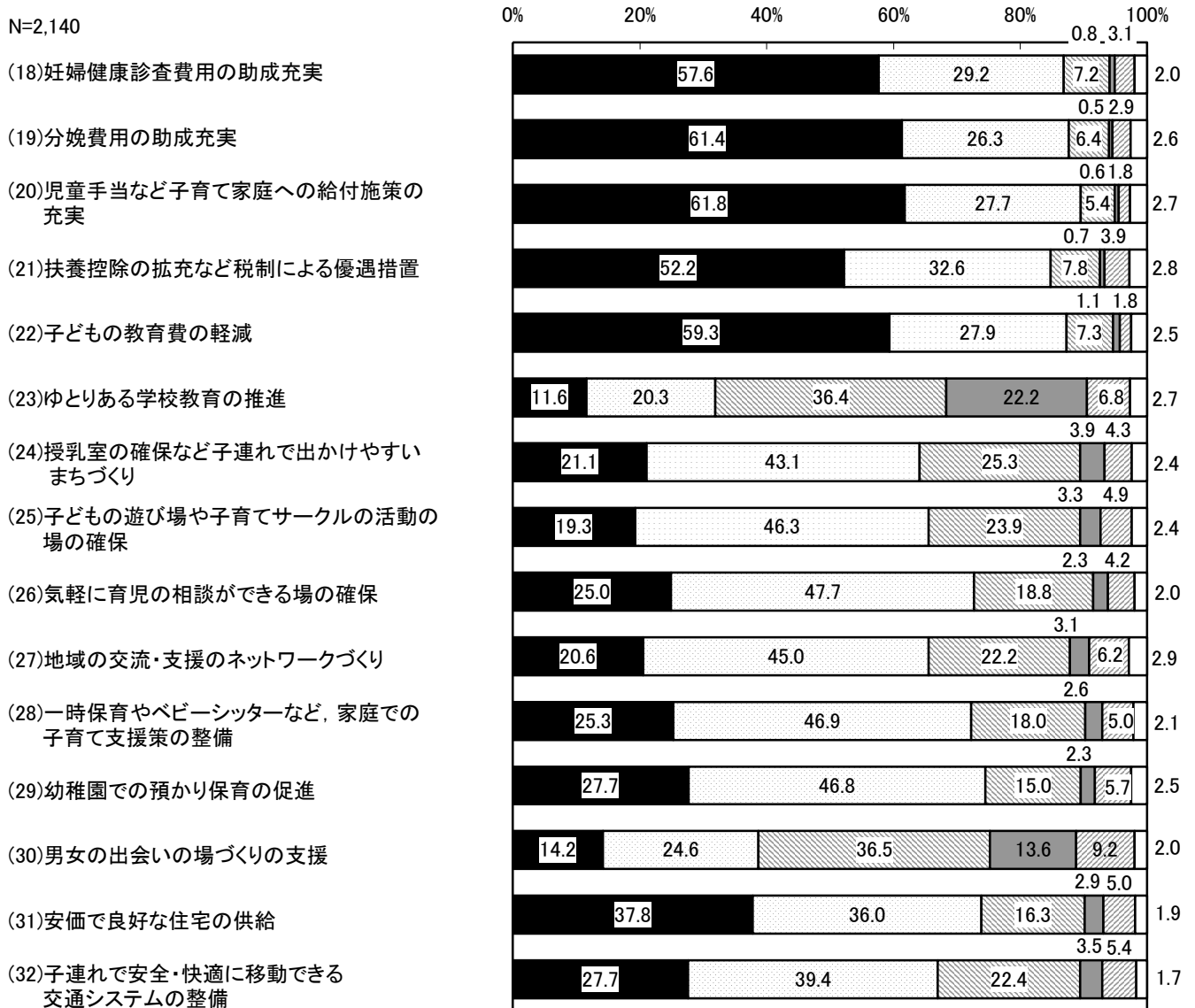
【平成20年】

N=2,140



- 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある □ 3. あまり効果はない
 ■ 4. 全く効果はない ■ 5. わからない □ 不明・無回答

N=2,140



3 結婚について

問 1 1 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

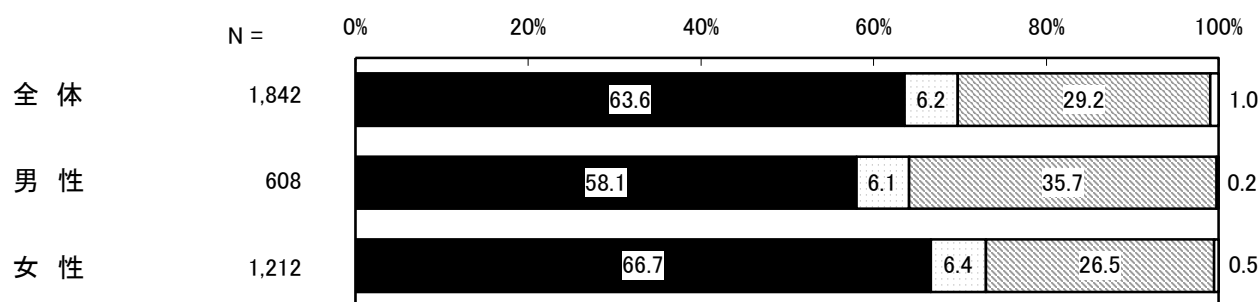
「1. 結婚している」の割合が63.6%と最も高く、次いで「3. 結婚していない」の割合が29.2%、「2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した」の割合が6.2%となっています。

性別にみると、「結婚している」については、「男性」が58.1%に対し、「女性」が66.7%と8.6ポイントの差が生じています。一方、「3. 結婚していない」については、「男性」が35.7%に対し、「女性」が26.5%と9.2ポイントの差が生じています。

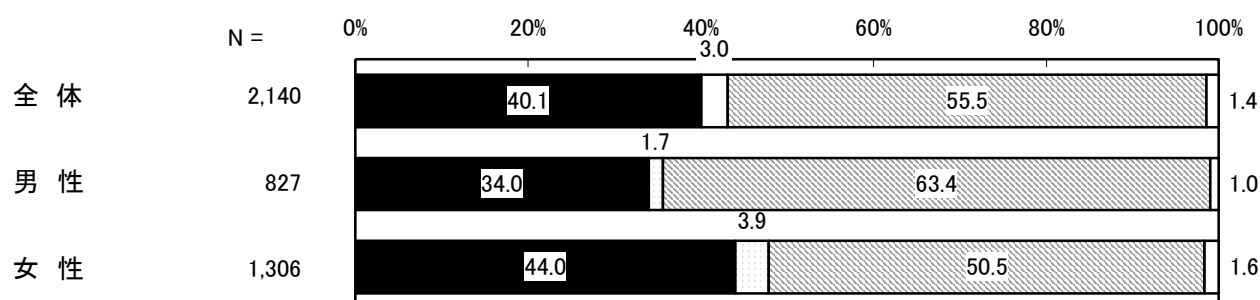
平成20年調査と比較すると、「結婚している」の割合が全体で23.5ポイント高くなっていますが、これには、調査間の対象年齢の変更が影響しているものと考えられます。

- 1. 結婚している
- 2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した
- ▨ 3. 結婚していない
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 11-2～問 11-4は、問 11で「結婚していたことはあるが、離（死）別した」または「結婚していない」を選ばれた方にお聞きします。

問 11-2 今後、結婚したいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

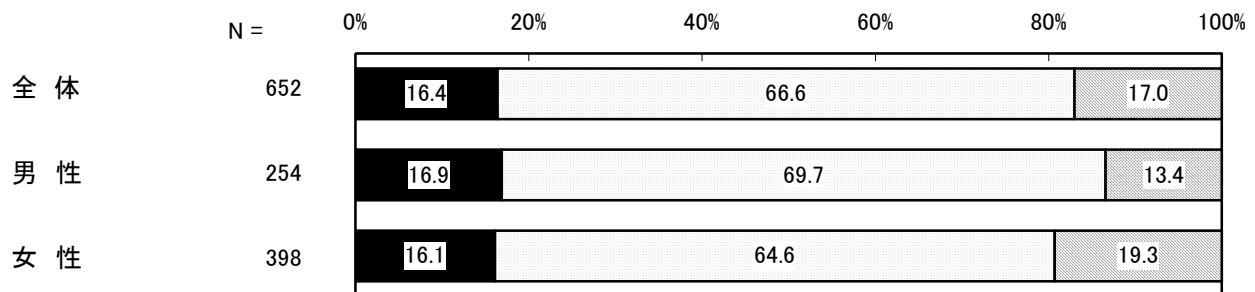
「2. いずれはしたい」の割合が 66.6%と最も高く、次いで「3. 結婚したくない」の割合が 17.0%、「1. すぐにでもしたい」の割合が 16.4%となっています。

性別による大きな差はみられません。

平成 20 年調査と比較すると、男性で「1. すぐにでもしたい」の割合が 6.1 ポイント高くなっているのに対し、女性で「3. 結婚したくない」の割合が 9.6 ポイント高くなっています。

■ 1. すぐにでもしたい □ 2. いずれはしたい ▨ 3. 結婚したくない
□ 不明・無回答

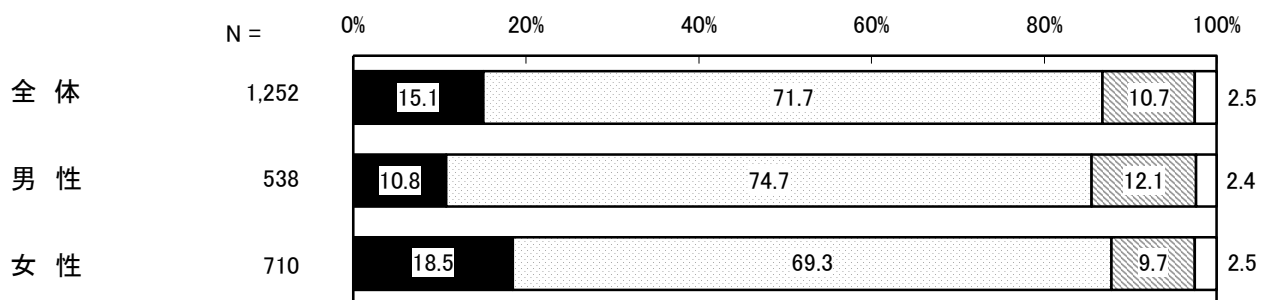
【平成 25 年】



単位：上段(件)/下段(%)

	全 体	すぐにでも したい	いずれは したい	結 婚 したくない	不明・無回答
全 体	652 100.0	107 16.4	434 66.6	111 17.0	0 0.0
男性	254 100.0	43 16.9	177 69.7	34 13.4	0 0.0
女性	398 100.0	64 16.1	257 64.6	77 19.3	0 0.0

【平成 20 年】



問 11-3 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

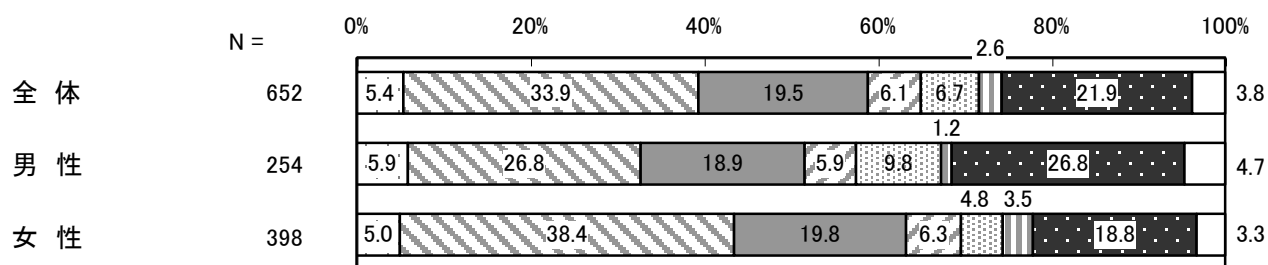
「25～29歳」の割合が33.9%と最も高く、次いで「30～34歳」の割合が19.5%、「40～44歳」の割合が6.7%となっています。

性別にみると、「25～29歳」について、「男性」が26.8%に対し、「女性」が38.4%と11.6ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「25～29歳」、「30～34歳」の割合が低くなっています。

■ 18～19歳 □ 20～24歳 ▨ 25～29歳 ■ 30～34歳
 ▨ 35～39歳 ▨ 40～44歳 □ 45歳以上 ■ わからない
 □ 不明・無回答

【平成25年】

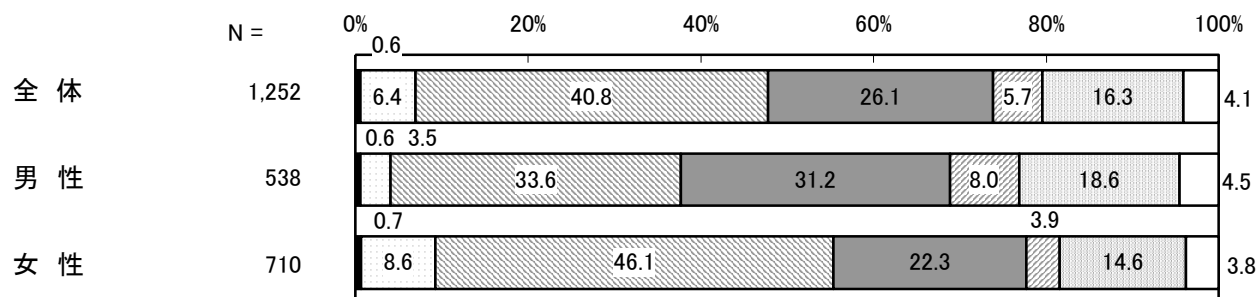


単位：上段(件)/下段(%)

	全 体	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	わからない	不明・無回答
全 体	652 100.0	0 0.0	35 5.4	221 33.9	127 19.5	40 6.1	44 6.7	17 2.6	143 21.9	25 3.8
男性	254 100.0	0 0.0	15 5.9	68 26.8	48 18.9	15 5.9	25 9.8	3 1.2	68 26.8	12 4.7
女性	398 100.0	0 0.0	20 5.0	153 38.4	79 19.8	25 6.3	19 4.8	14 3.5	75 18.8	13 3.3

■ 18～19歳 □ 20～24歳 ▨ 25～29歳 ■ 30～34歳
 ▨ 35歳以上 ▨ わからない □ 不明・無回答

【平成20年】



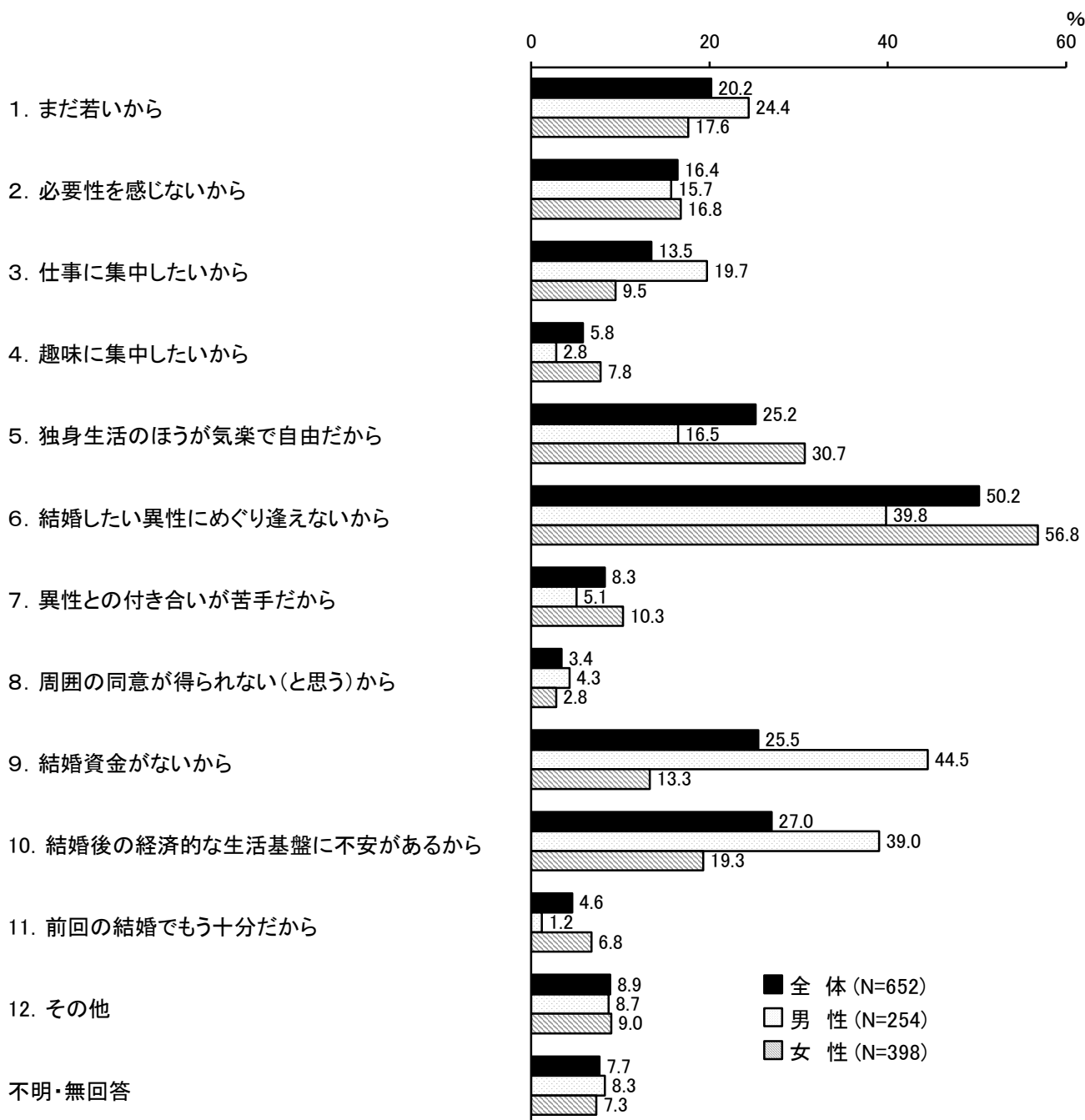
問 11-4 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をお聞きします。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」の割合が50.2%と最も高く、次いで「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」の割合が27.0%、「9. 結婚資金がないから」の割合が25.5%となっています。

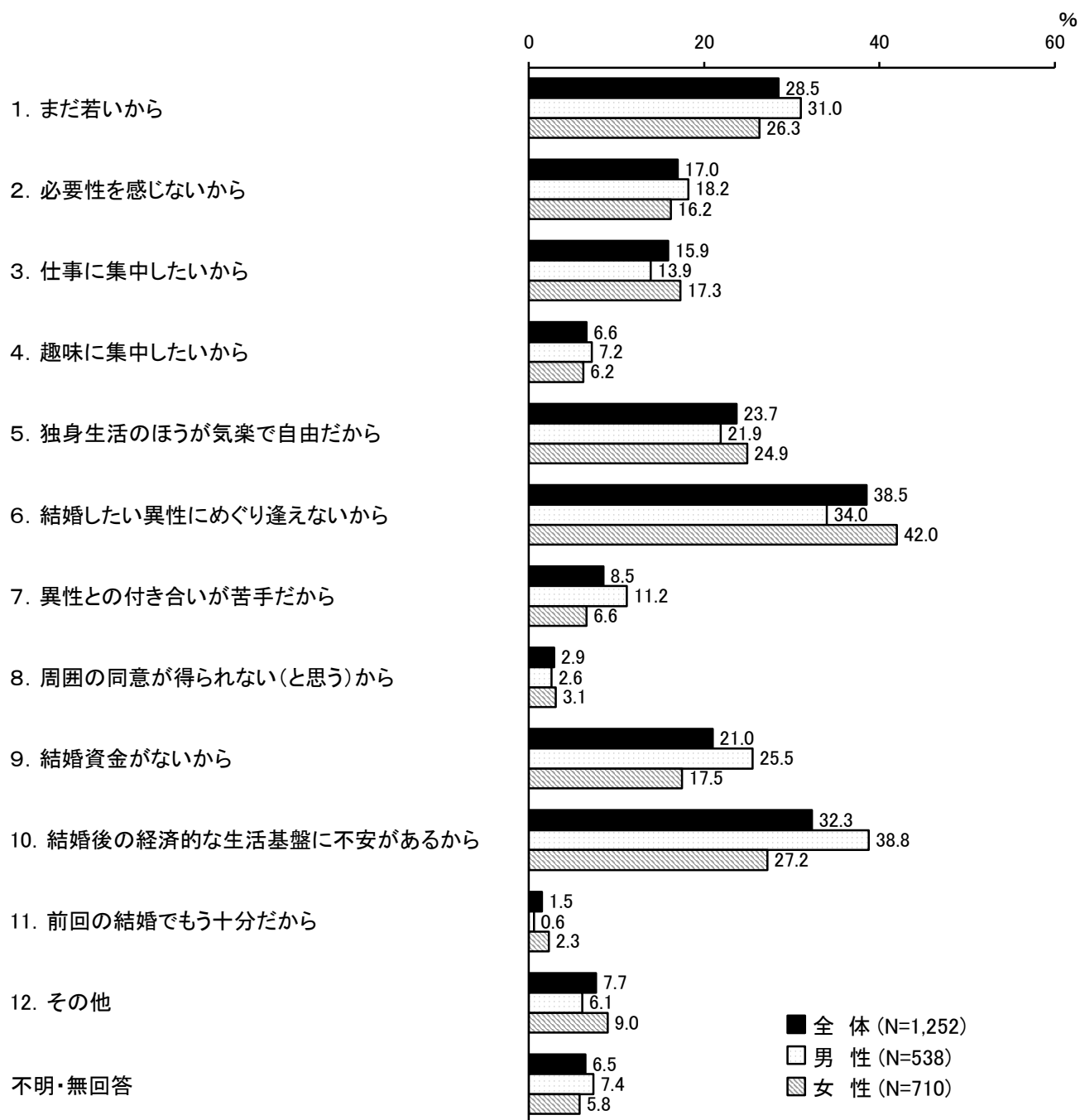
性別にみると、男性で「9. 結婚資金がないから」が、女性は「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が最も高くなっています。

平成20年調査と比較すると、女性で「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」の割合が高く、男性で「9. 結婚資金がないから」の割合が高くなっており、それぞれ15ポイント程度の増となっています。

【平成25年】



【平成20年】



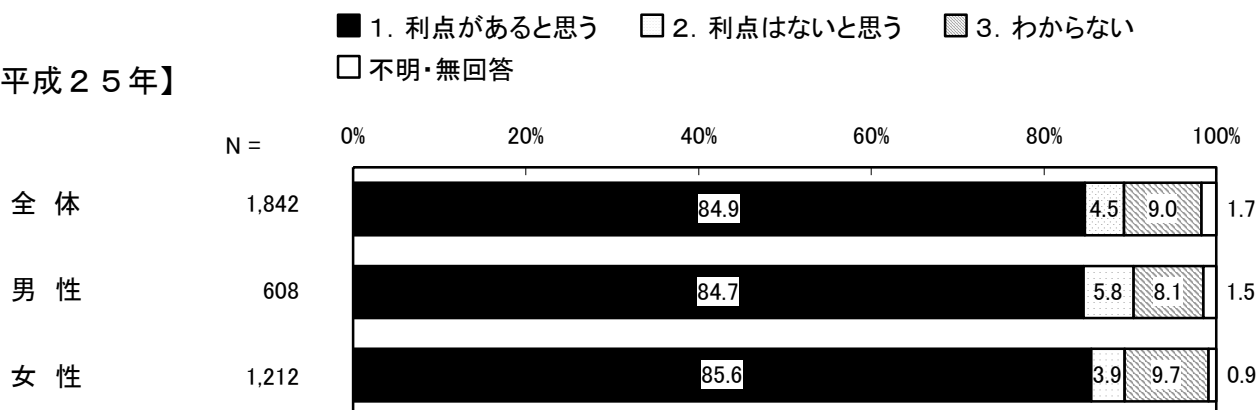
問１２～問１６までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問１２ 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

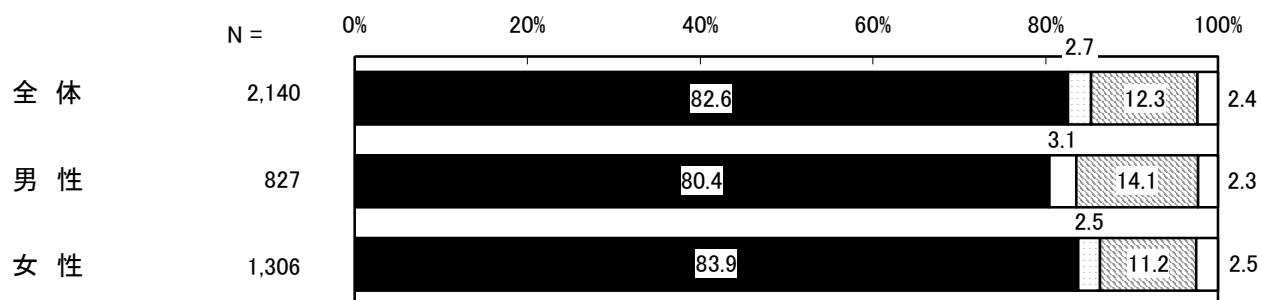
「１．利点があると思う」の割合が８４．９％と最も高く、次いで「２．利点はないと思う」の割合が４．５％となっています。

性別や平成２０年調査との比較において、大きな差はみられません。

【平成２５年】

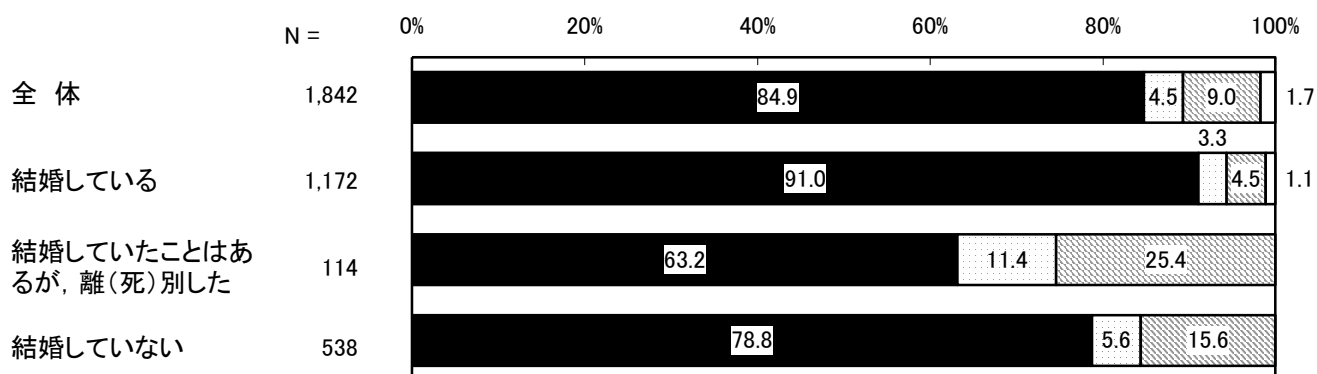


【平成２０年】



〔結婚の有無別〕

結婚の有無別にみると、「結婚している」人は約９割が「１．利点があると思う」と回答しています。



問１２で「利点があると思う」を選んだ方にお聞きします。

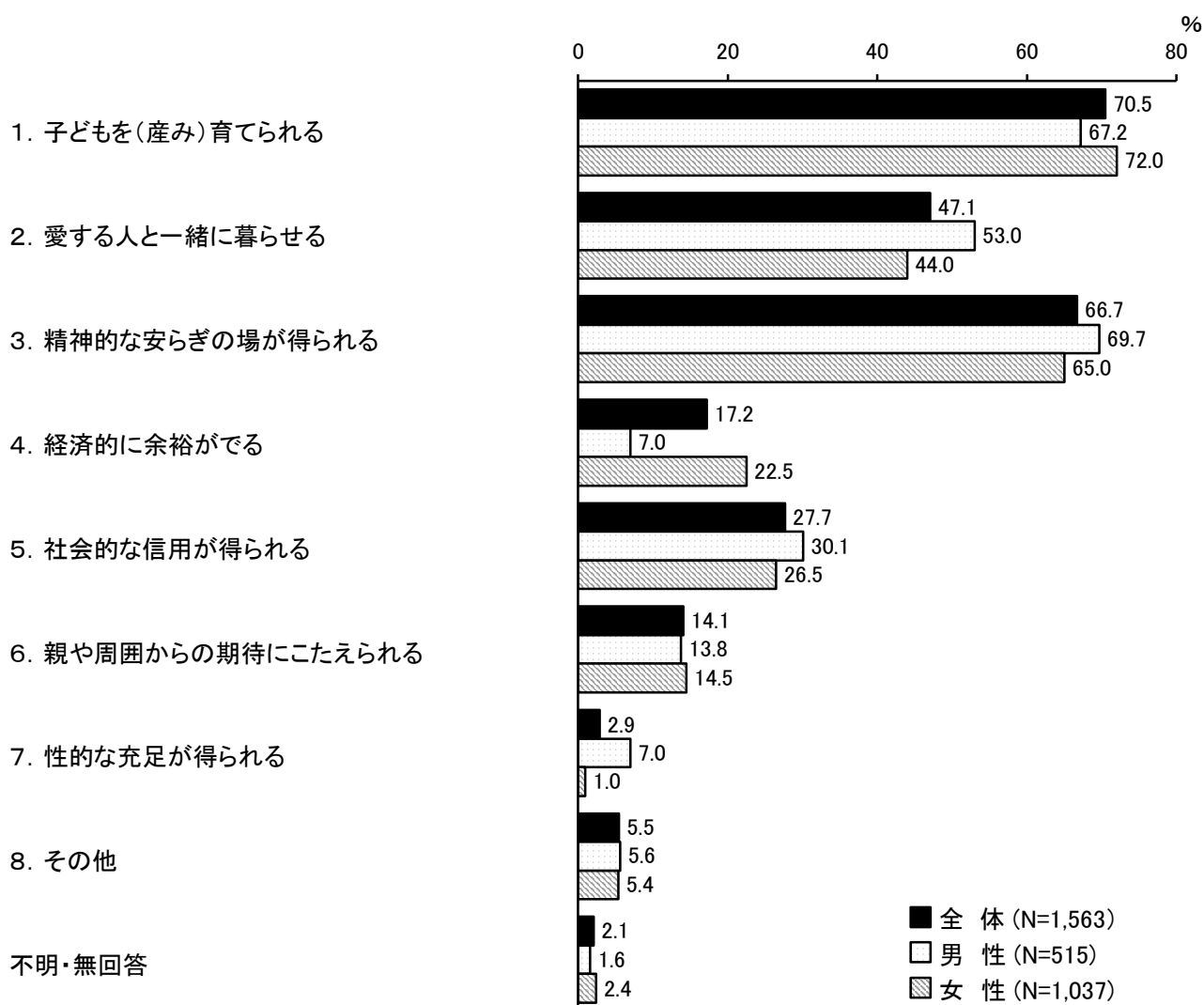
問１２－２ 具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号３つまでに○をつけてください。

「１．子どもを（産み）育てられる」の割合が70.5%と最も高く、次いで「３．精神的な安らぎの場が得られる」の割合が66.7%,「２．愛する人と一緒に暮らせる」の割合が47.1%となっています。

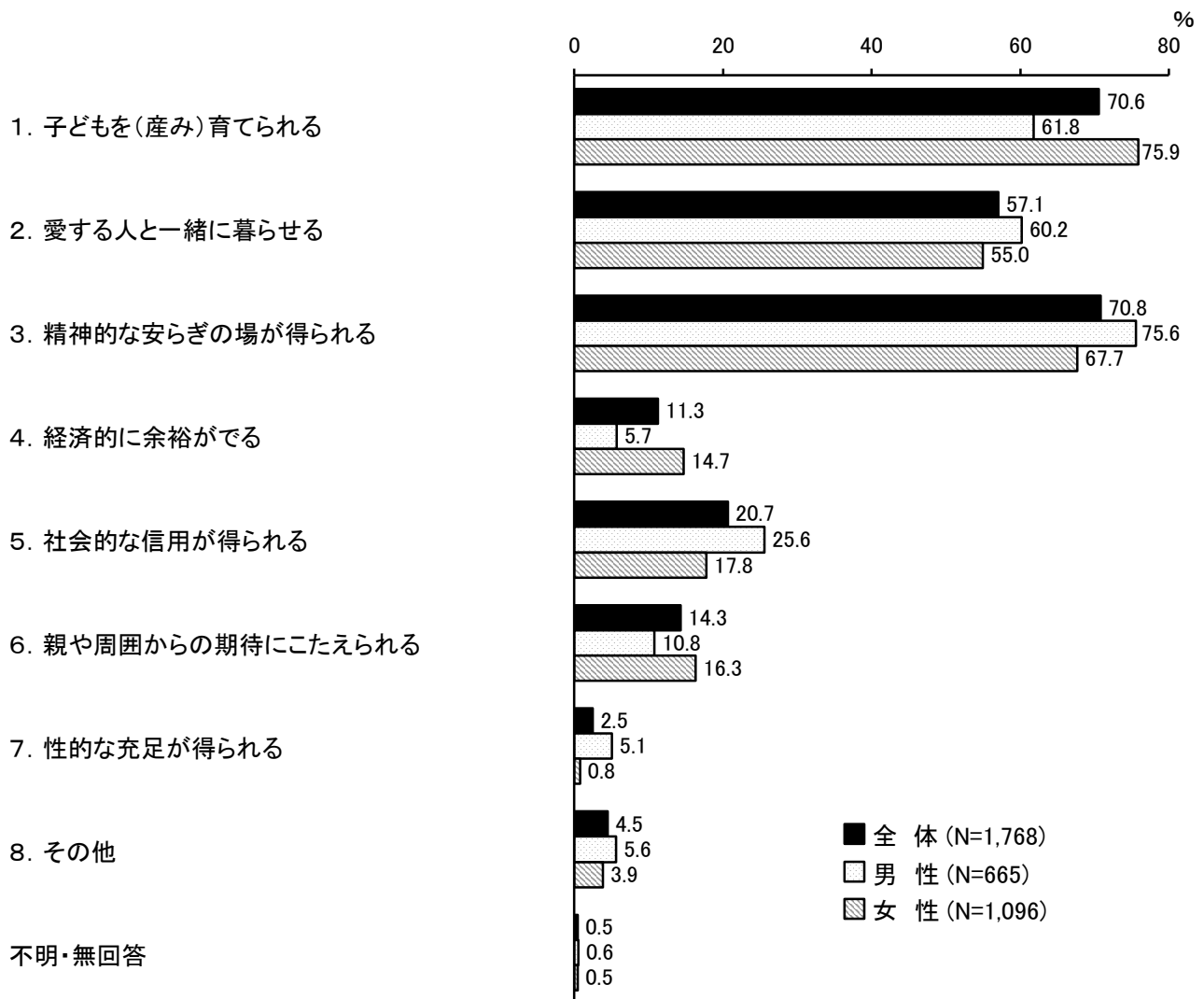
性別にみると、「２．愛する人と一緒に暮らせる」については、「男性」が53.0%に対し、「女性」が44.0%と9.0ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、男性で「１．子どもを（産み）育てられる」の割合が、女性で「４．経済的に余裕がでる」、「５．社会的な信用が得られる」の割合が高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



[結婚の有無別]

結婚の有無別にみると、「結婚している」、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」で「1. 子どもを(産み)育てられる」が7割を超えています。また、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」で「5. 社会的な信用が得られる」が約5割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもを(産み)育てられる	愛する人と一緒に暮らせる	精神的な安らぎの場が得られる	経済的に余裕がでる	社会的な信用が得られる	親や周囲からの期待にこたえられる	性的な充足が得られる	その他	不明・無回答
結婚している	1,067	74.3	42.5	67.0	16.7	29.3	15.1	1.0	5.7	2.7
結婚していたことはあるが、離(死)別した	72	72.2	18.1	66.7	31.9	45.8	9.7	9.7	0.0	0.0
結婚していない	424	60.6	63.4	65.8	16.0	20.5	12.5	6.6	5.9	0.9

問 1 3 独身生活に結婚生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「1. 利点があると思う」の割合が84.0%, 「2. 利点はないと思う」の割合が4.1%となっています。

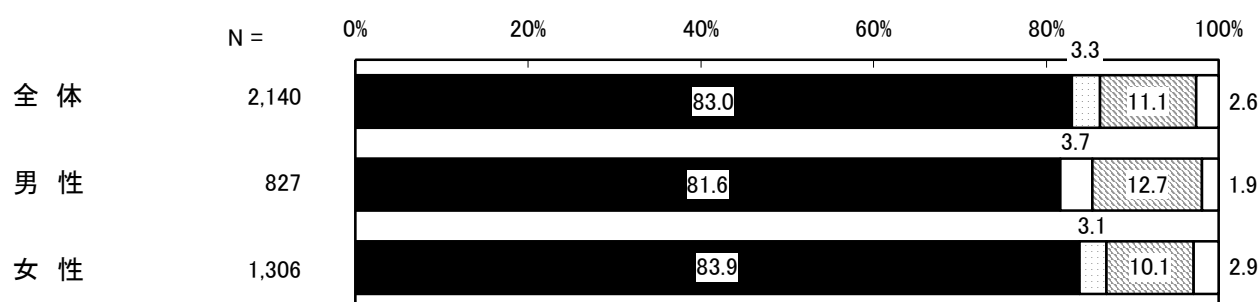
性別や平成20年調査との比較において、大きな差はみられません。

■ 1. 利点があると思う □ 2. 利点はないと思う ▨ 3. わからない
□ 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 1 3 - 2 は、問 1 3 で「利点があると思う」を選ばれた方にお聞きします。

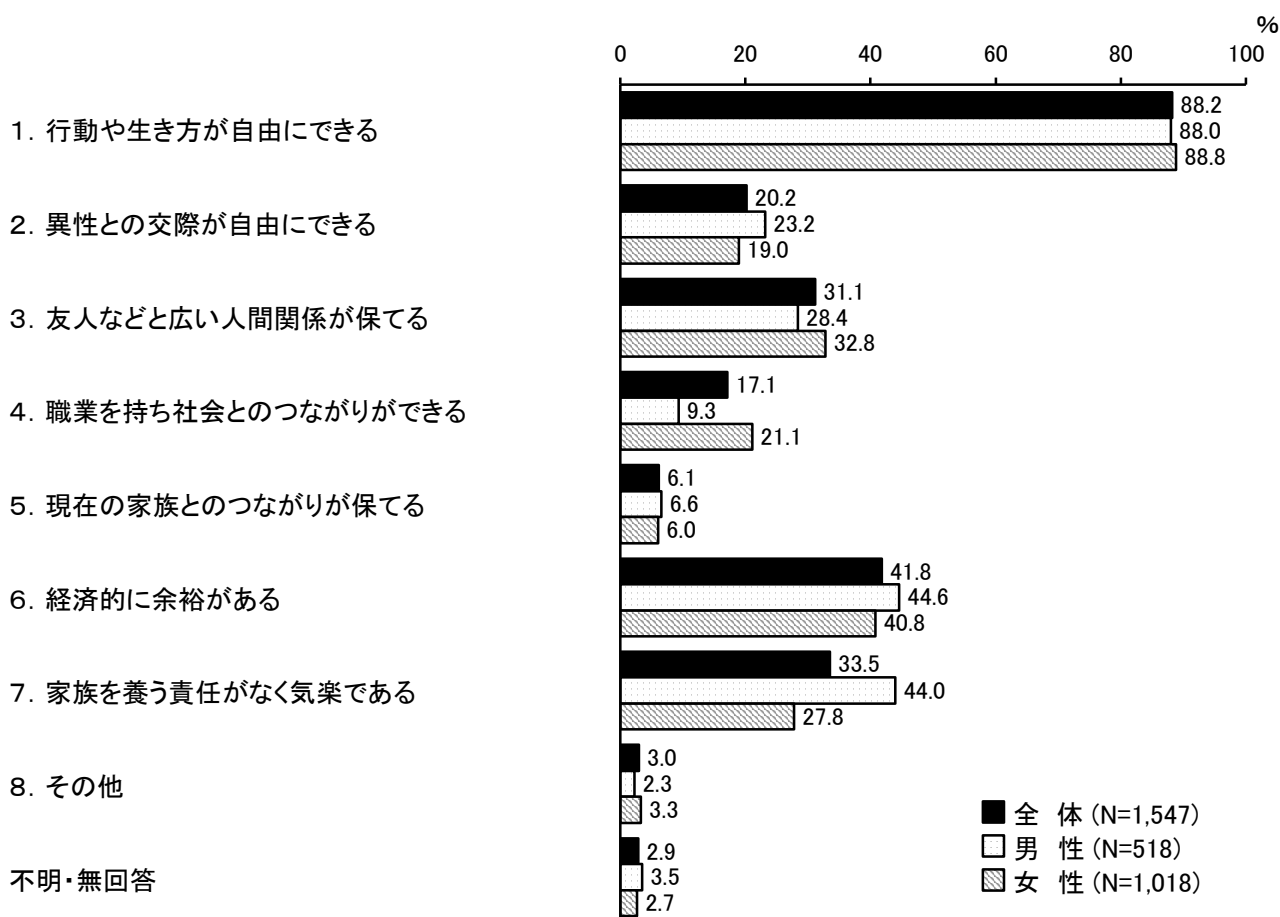
問 1 3 - 2 具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

「1. 行動や生き方が自由にできる」の割合が88.2%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」の割合が41.8%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」の割合が33.5%となっています。

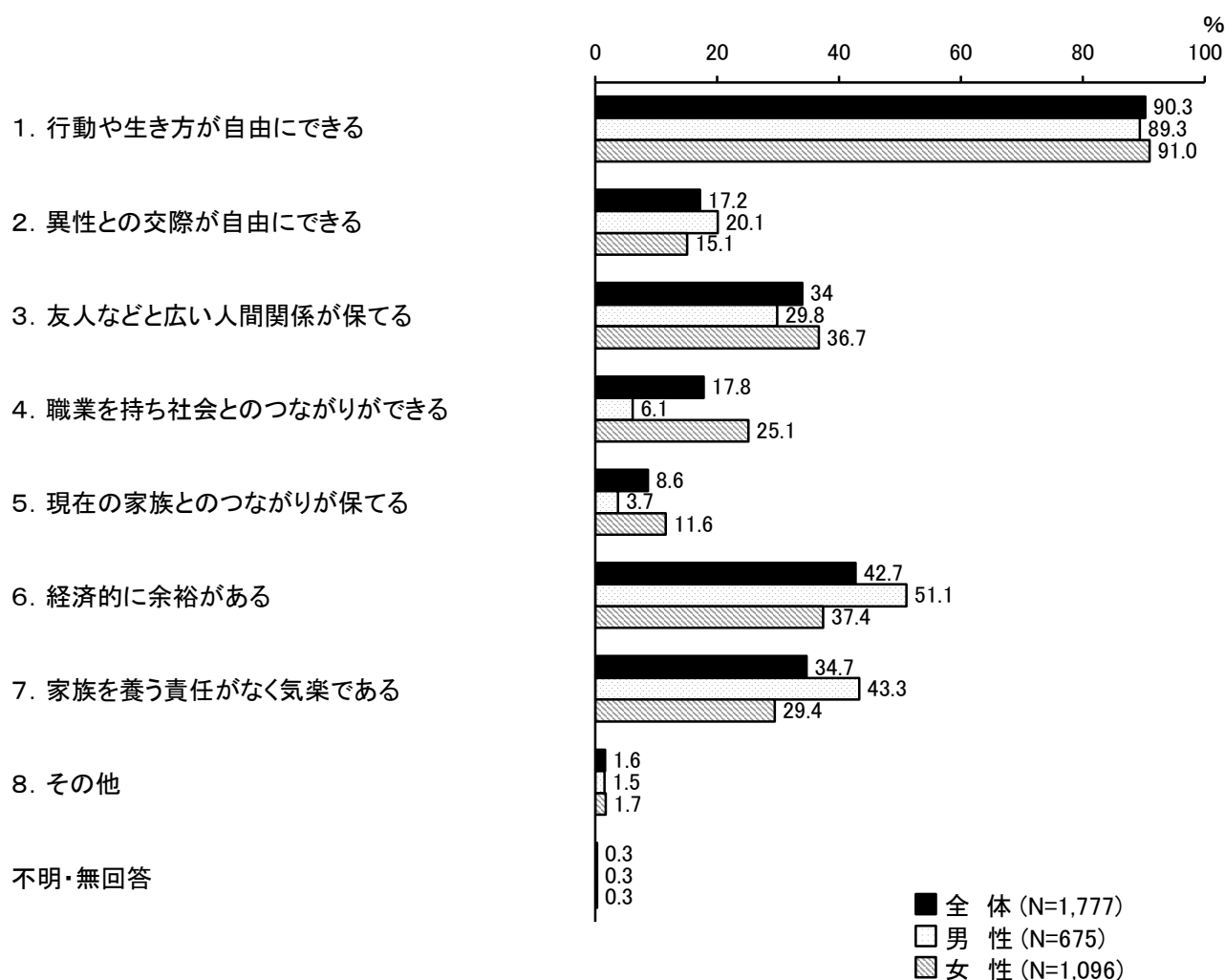
性別にみると、「男性」、「女性」ともに「1. 行動や生き方が自由にできる」が最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」となっています。

平成20年調査と比較すると、男性で「6. 経済的に余裕がある」の割合が6.5ポイント、女性で「5. 現在の家族とのつながりが保てる」の割合が5.6ポイント低くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



[結婚の有無別]

結婚の有無別にみると、「結婚している」で「3. 友人などと広い人間関係が保てる」、「職業を持ち社会とのつながりができる」の割合が他の区分に比べ高くなっています。また、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」、「結婚していない」で「2. 異性との交際が自由にできる」の割合が、「結婚していない」で「7. 家族を養う責任がなく気楽である」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

単位: %

区分	有効回答数(件)	行動や生き方が自由にできる	異性との交際が自由にできる	友人などと広い人間関係が保てる	職業を持ち社会とのつながりができる	現在の家族とのつながりが保てる	経済的に余裕がある	家族を養う責任がなく気楽である	その他	不明・無回答
結婚している	993	90.5	17.1	36.4	21.3	4.2	42.3	31.3	3.2	4.0
結婚していたことはあるが、離(死)別した	101	85.1	25.7	26.7	12.9	10.9	43.6	17.8	0.0	4.0
結婚していない	453	83.9	25.8	20.5	8.8	9.3	40.2	41.9	3.1	0.2

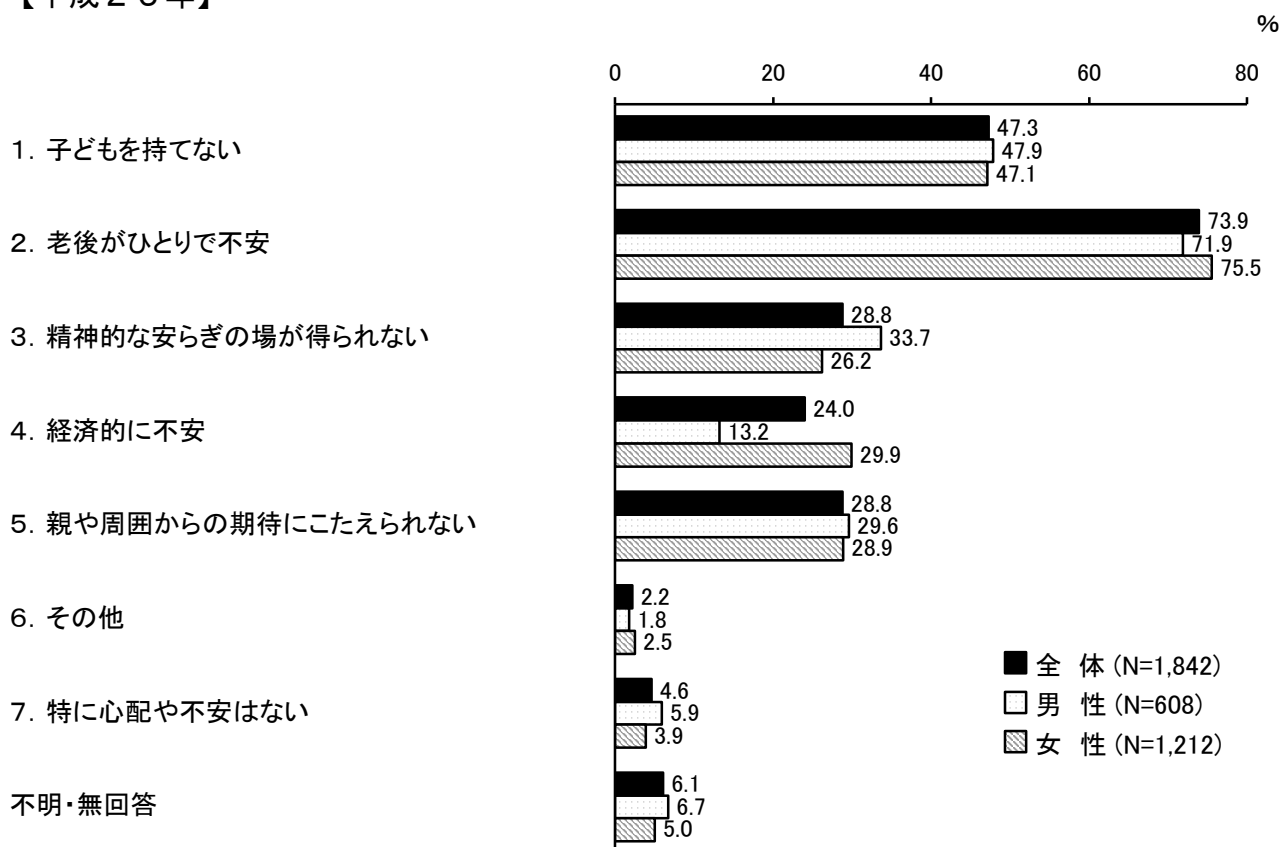
問 1 4 独身生活が続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

「2. 老後がひとりで不安」の割合が73.9%と最も高く、次いで「1. 子どもを持てない」の割合が47.3%, 「3. 精神的な安らぎの場が得られない」, 「5. 親や周囲からの期待にこたえられない」の割合が28.8%となっています。

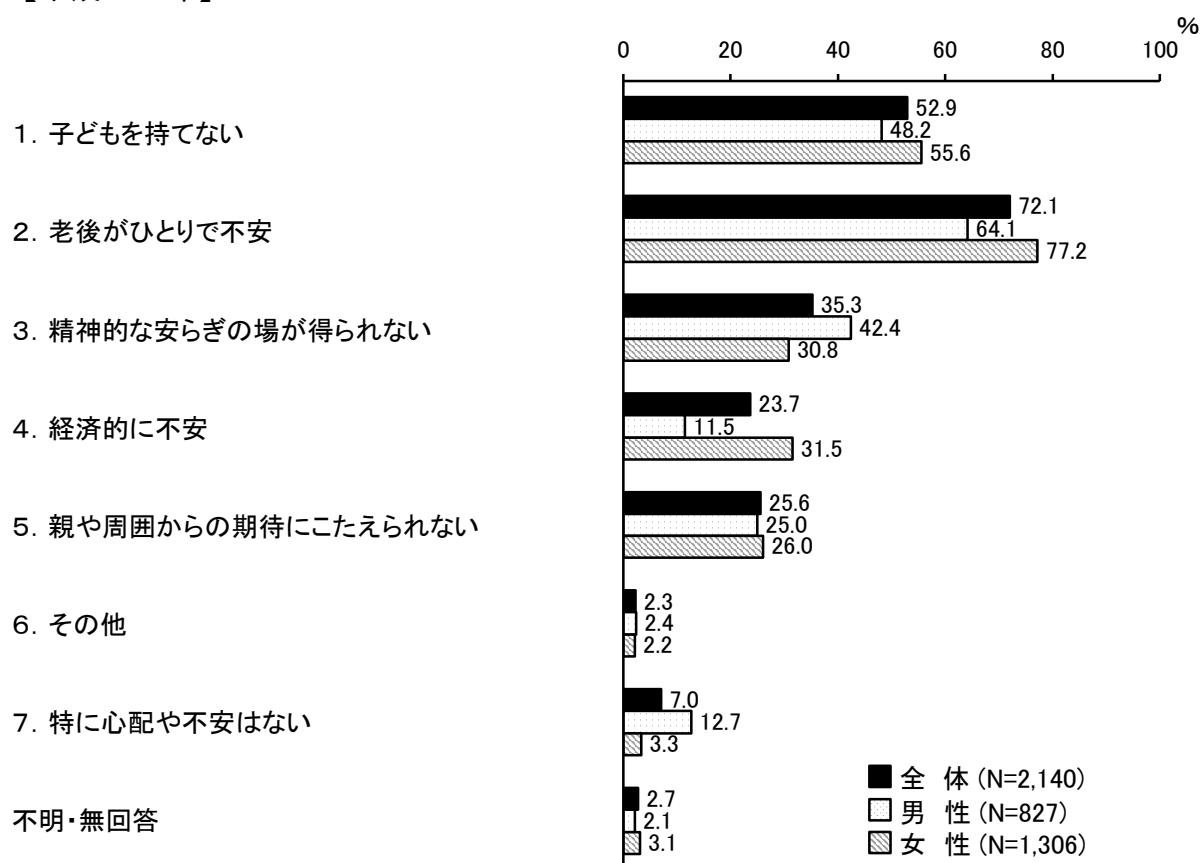
性別にみると, 「4. 経済的に不安」については, 「男性」が13.2%に対し, 「女性」が29.9%と16.7ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると, 「3. 精神的な安らぎの場が得られない」の割合が低くなっています。また, 女性で「1. 子どもを持てない」の割合が8.5ポイント低く, 男性で「2. 老後がひとりで不安」の割合が7.8ポイント高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



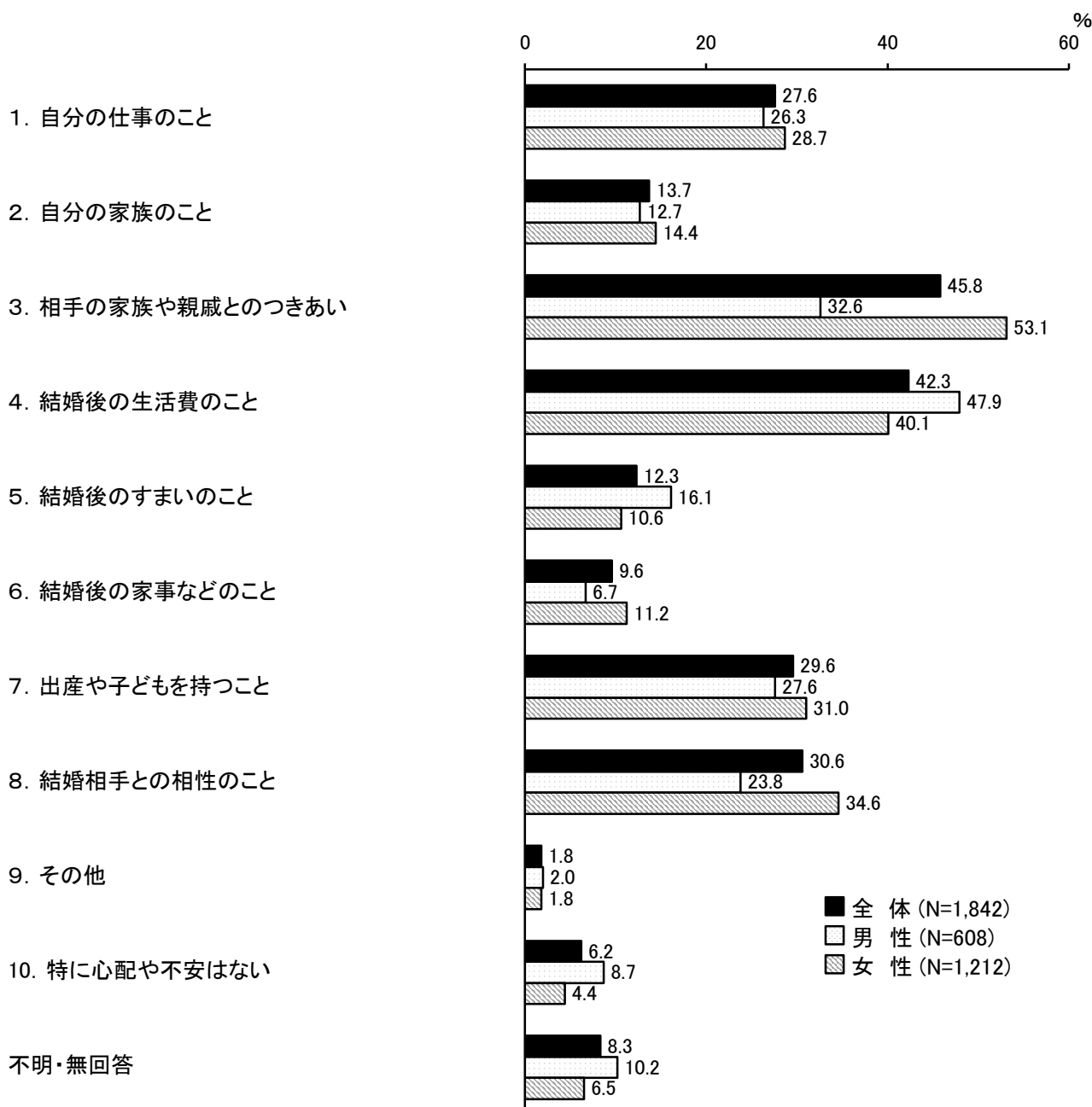
問 15 結婚を考える場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」の割合が45.8%と最も高く、次いで「4. 結婚後の生活費のこと」の割合が42.3%、「8. 結婚相手との相性のこと」の割合が30.6%となっています。

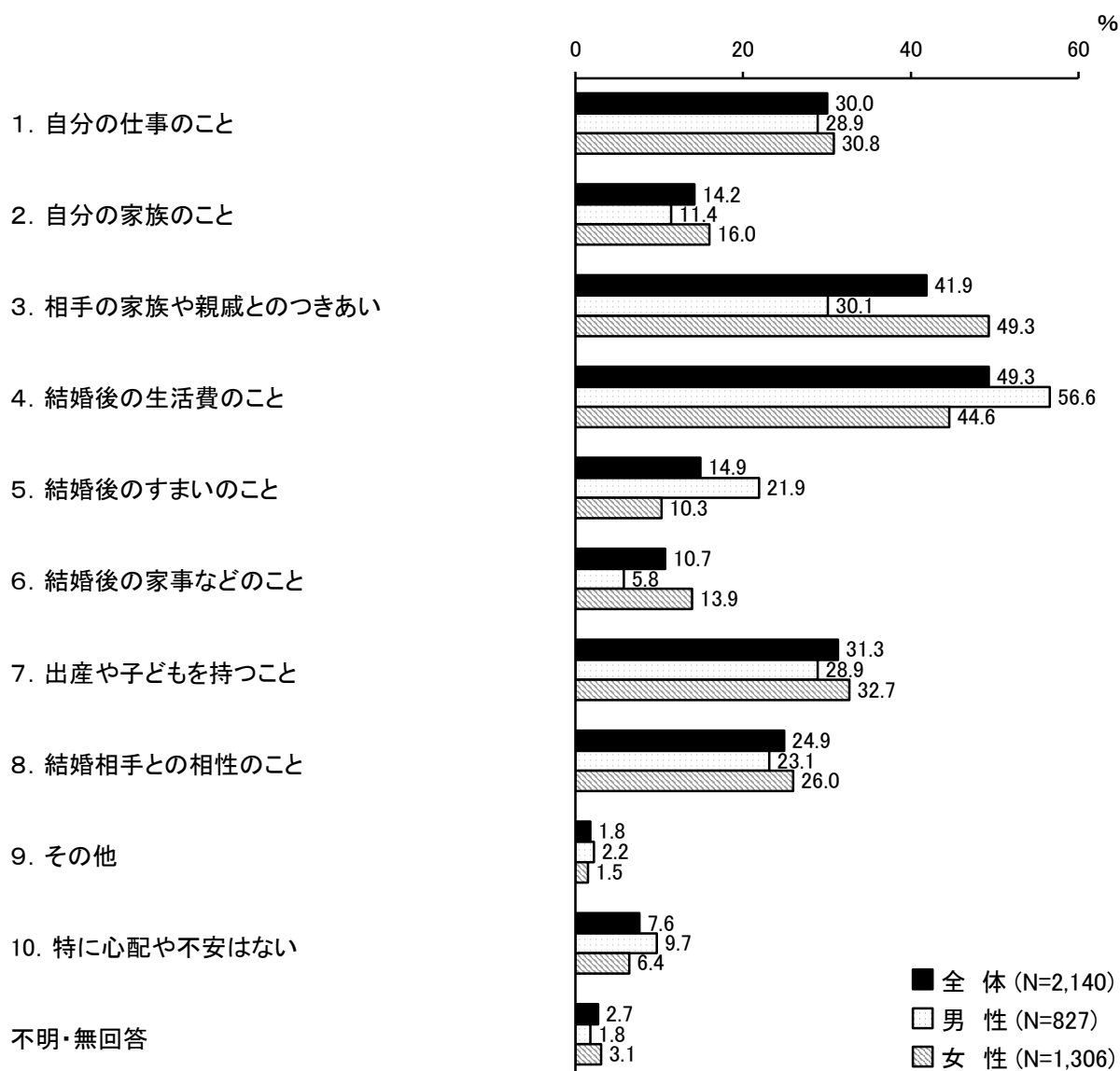
性別にみると、男性は「4. 結婚後の生活費のこと」、女性は「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」がそれぞれ最も高くなっています。

平成20年調査と比較すると、「4. 結婚後の生活費のこと」の割合が低くなっています。また、女性で「8. 結婚相手との相性のこと」の割合が高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



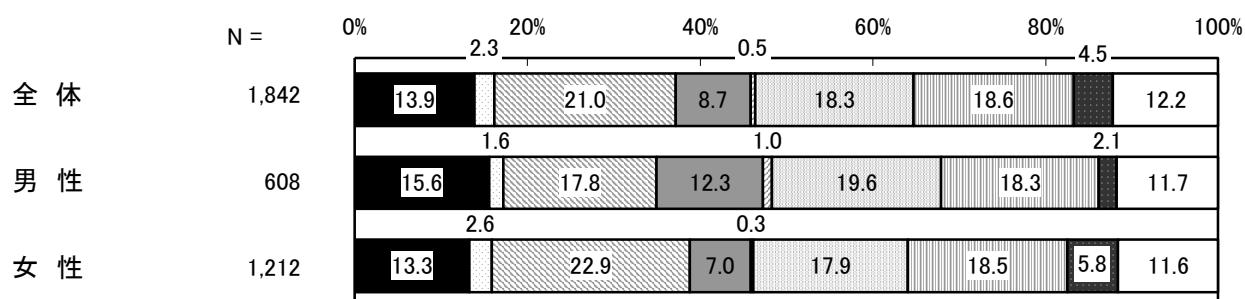
問 16 結婚生活を始めたとした場合、失いたくないものは何ですか。もっとも失いたくないものの番号 1 つだけに○をつけてください。

「3. 現在の生活水準」の割合が21.0%と最も高く、次いで「7. 特にない」の割合が18.6%、「6. 自由な時間」の割合が18.3%、「1. 現在の仕事」の割合が13.9%となっています。

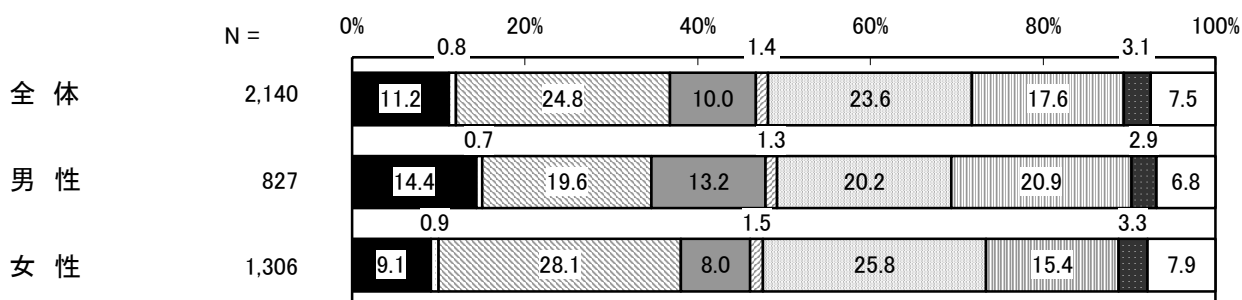
平成20年調査と比較すると、「6. 自由な時間」の割合が低くなっており、特に女性で7.9ポイント低くなっています。

■ 1. 現在の仕事 □ 2. 現在の住居 ▨ 3. 現在の生活水準
 ■ 4. 現在の趣味 □ 5. 自分の姓 ▨ 6. 自由な時間
 ▨ 7. 特にない ■ 8. その他 □ 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。各項目につき当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

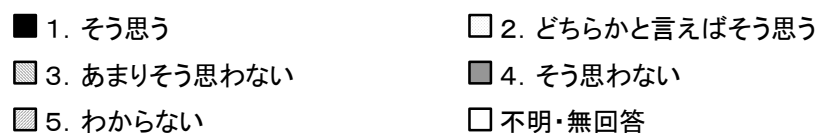
「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(6) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」が73.1%と最も高くなっています。

一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(2) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである」が75.4%と最も高くなっています。

性別にみると、「(8) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい」については、『そう思う』の割合が「男性」が60.7%に対し、「女性」が72.5%と11.8ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』で「子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい」、「結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」の割合が低くなっています。

一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』で「乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ」の割合が11.4ポイント高くなっています。

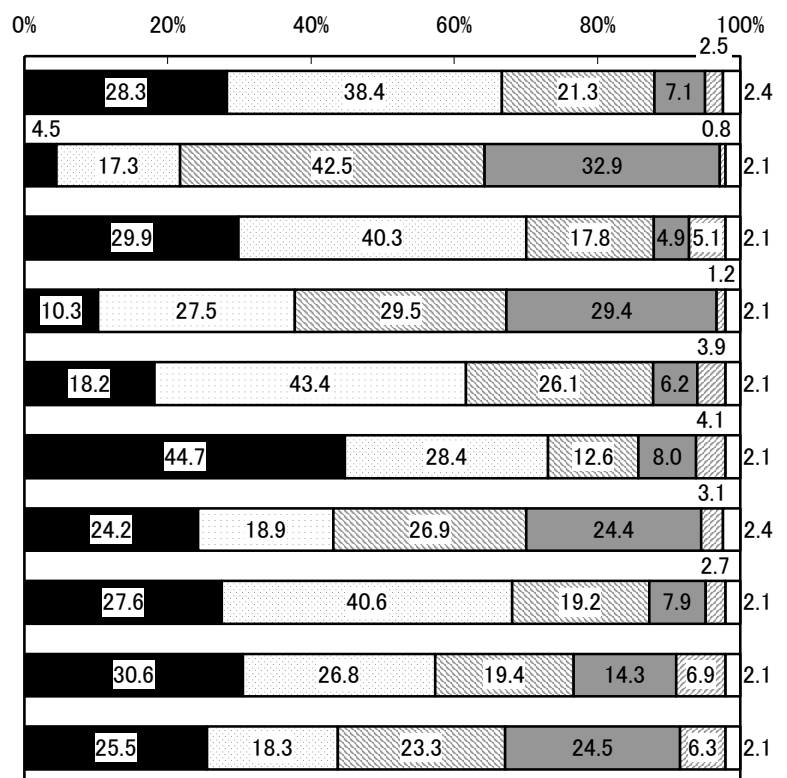


【平成25年】

〔全体〕

N=1,842

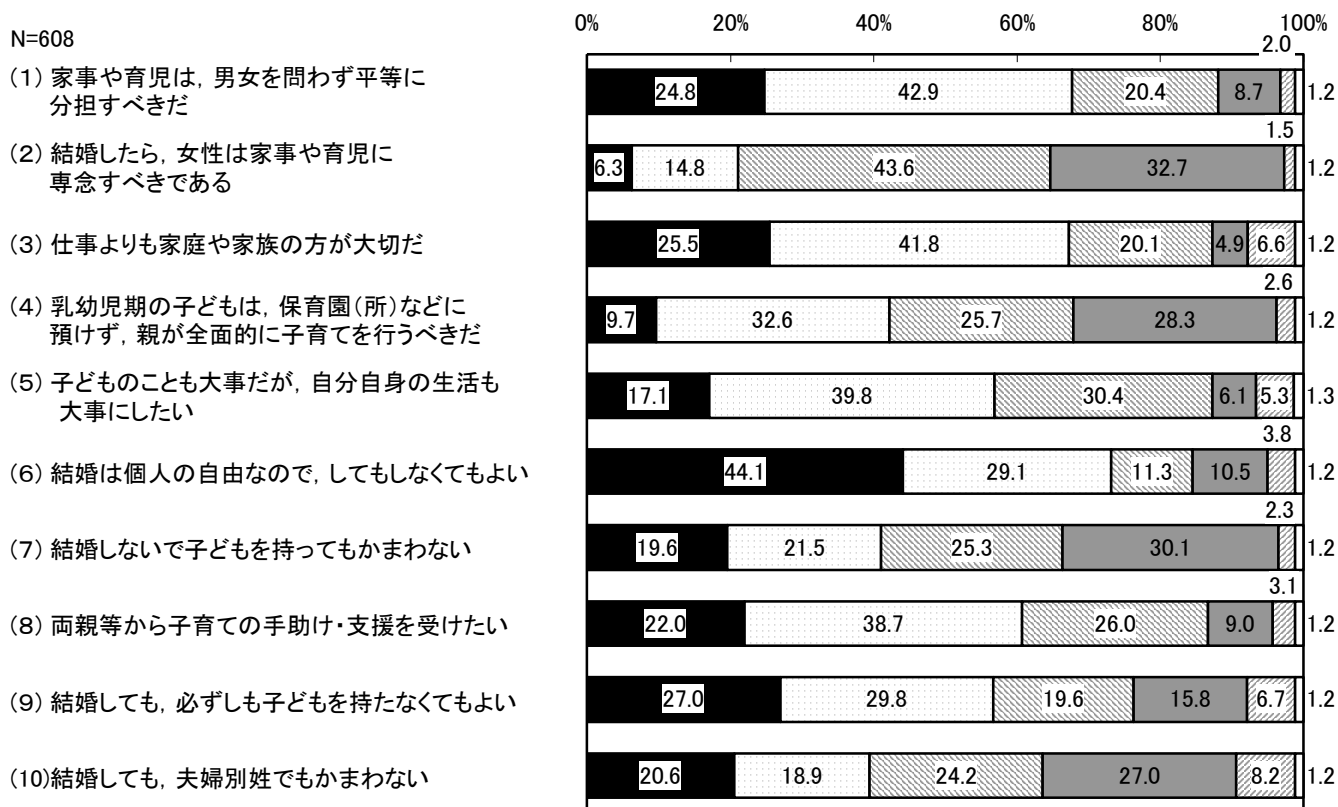
- (1) 家事や育児は、男女を問わず平等に
分担すべきだ
- (2) 結婚したら、女性は家事や育児に
専念すべきである
- (3) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ
- (4) 乳幼児期の子どもは、保育園(所)などに
預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ
- (5) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も
大事にしたい
- (6) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい
- (7) 結婚しないで子どもを持ってもかまわない
- (8) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい
- (9) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい
- (10) 結婚しても、夫婦別姓でもかまわない



- 1. そう思う
 ■ 3. あまりそう思わない
 ■ 5. わからない
 □ 2. どちらかと言えばそう思う
 ■ 4. そう思わない
 □ 不明・無回答

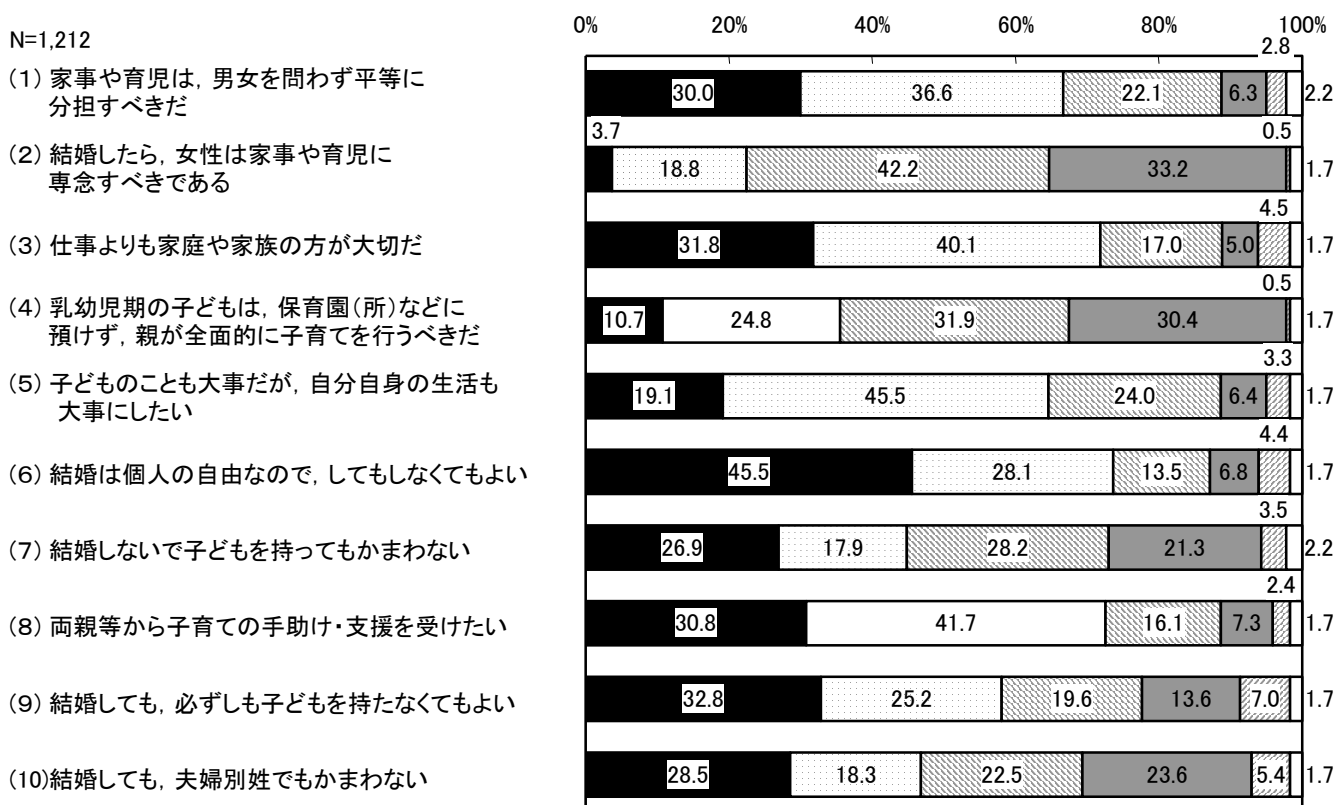
〔男性〕

N=608



〔女性〕

N=1,212

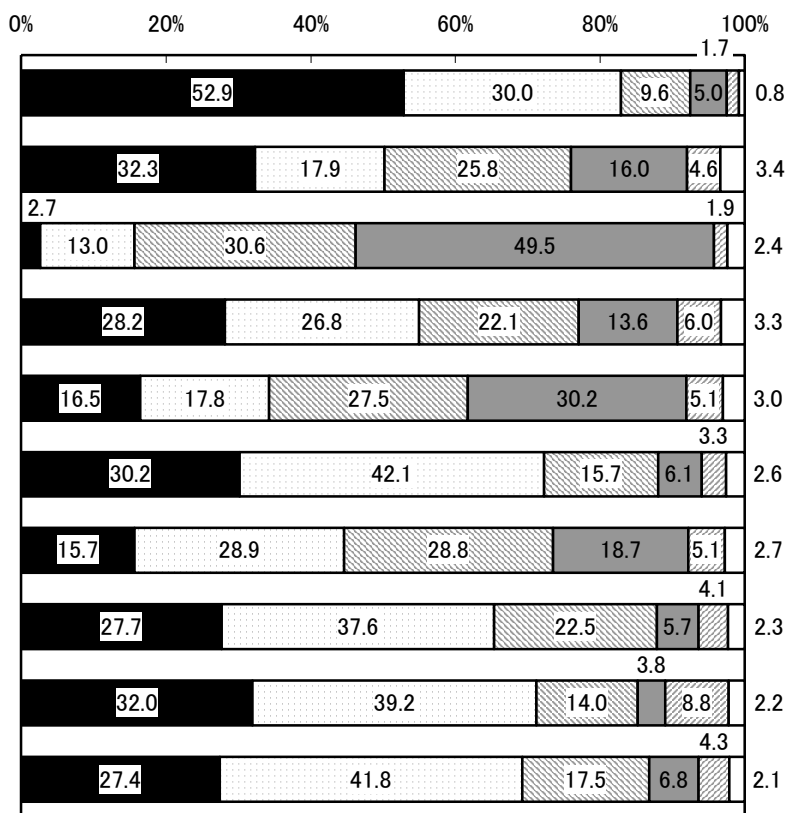


【平成20年】
〔全体〕

N=2140

- (1) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい
- (2) 夫婦別姓でもかまわない
- (3) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである
- (4) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい
- (5) 結婚しないで子どもを持ってもかまわない
- (6) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい
- (7) 乳幼児期の子どもは、保育所などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ
- (8) 男女は家事や育児を平等に分担すべきだ
- (9) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ
- (10) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい

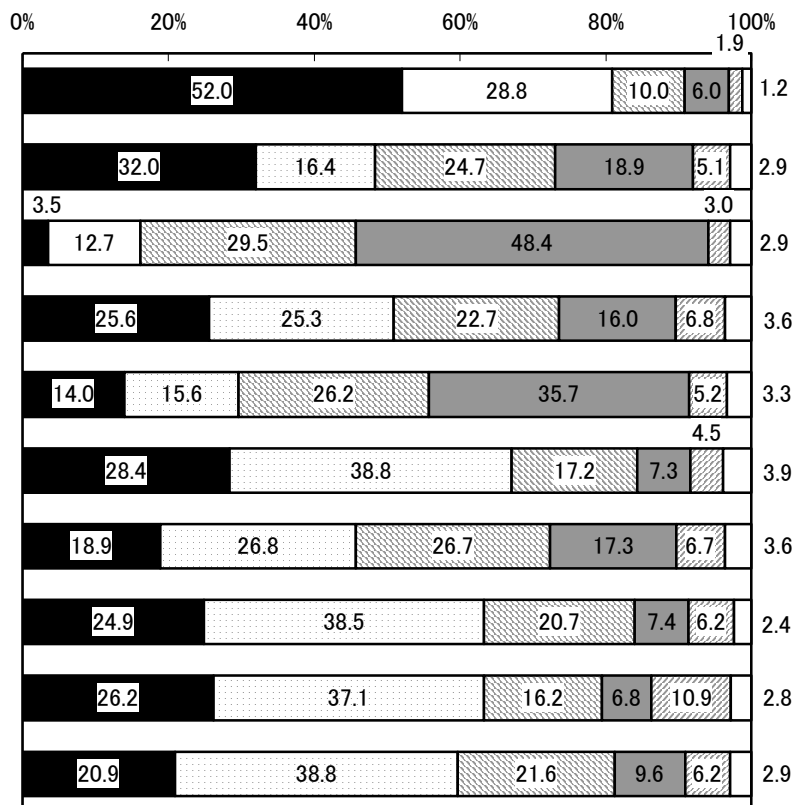
- 1. そう思う
□ 2. どちらかと言えばそう思う
■ 3. あまりそう思わない
■ 4. そう思わない
□ 5. わからない
□ 不明・無回答



〔男性〕

N=827

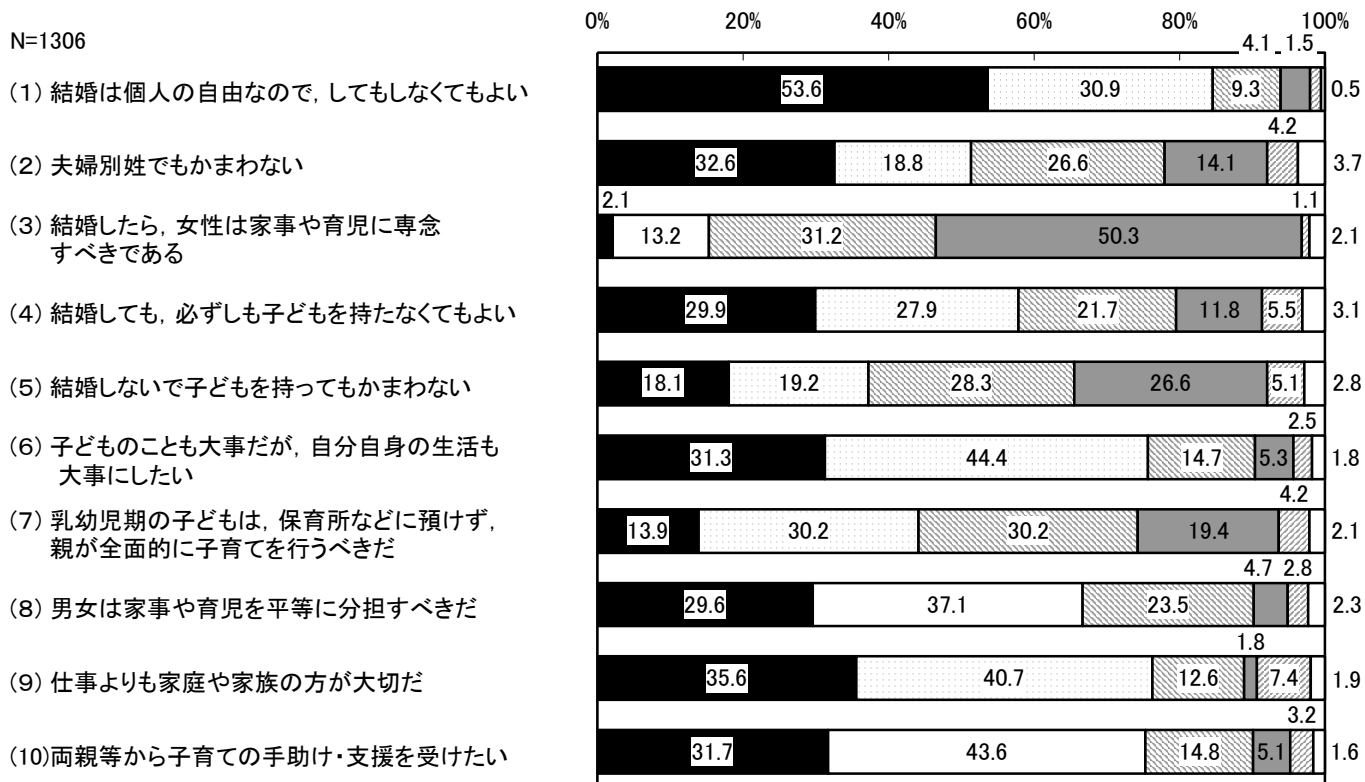
- (1) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい
- (2) 夫婦別姓でもかまわない
- (3) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである
- (4) 結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい
- (5) 結婚しないで子どもを持ってもかまわない
- (6) 子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい
- (7) 乳幼児期の子どもは、保育所などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ
- (8) 男女は家事や育児を平等に分担すべきだ
- (9) 仕事よりも家庭や家族の方が大切だ
- (10) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい



〔女性〕

- 1. そう思う
 □ 2. どちらかと言えばそう思う
 ■ 3. あまりそう思わない
 ■ 4. そう思わない
 ■ 5. わからない
 □ 不明・無回答

N=1306



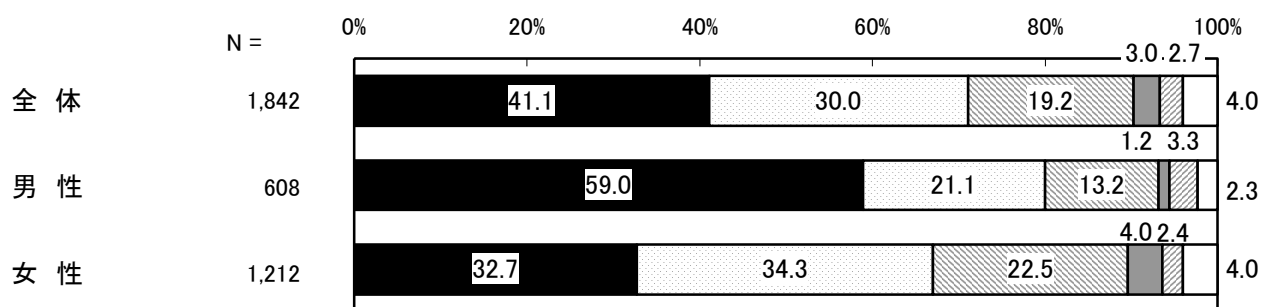
問 18 生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ、最も近いと思われるタイプの番号を選び、回答欄に記入してください。

【理想とする人生】

「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」の割合が41.1%と最も高く、次いで「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が30.0%、「3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない」の割合が19.2%となっています。

性別にみると、「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」については「男性」が59.0%に対し、「女性」が32.7%と26.3ポイント、「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」については「男性」が21.1%に対し、「女性」が34.3%と13.2ポイント、「3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない」については「男性」が13.2%に対し、女性が22.5%と9.3ポイントの差が生じています。

- 1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける
- 2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▨ 3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない
- 4. 結婚するが子どもは持たず、仕事は続ける
- 5. 結婚せず、仕事は続ける
- 6. その他
- 不明・無回答



単位：上段(件)/下段(%)

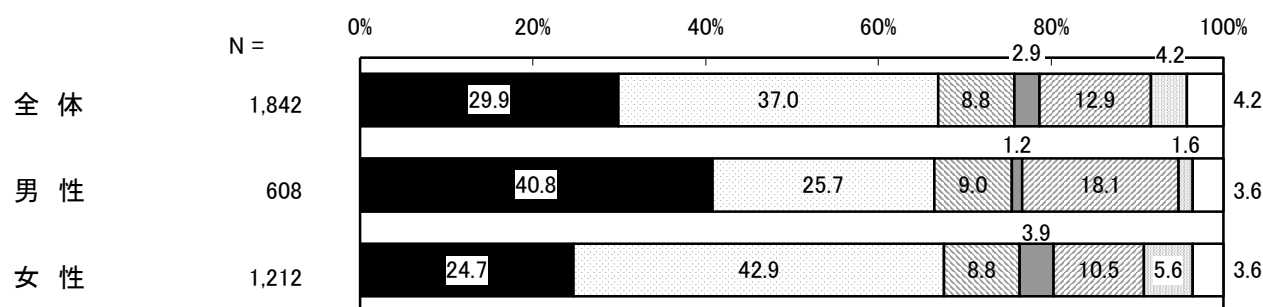
	全 体	結婚し子どもを持つが、仕事は続ける	結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ	結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)退職し、その後は仕事を持たない	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける	結婚せず、仕事を続ける	その他	不明・無回答
全 体	1,842 100.0	757 41.1	552 30.0	354 19.2	56 3.0	49 2.7	0 0.0	74 4.0
男性	608 100.0	359 59.0	128 21.1	80 13.2	7 1.2	20 3.3	0 0.0	14 2.3
女性	1,212 100.0	396 32.7	416 34.3	273 22.5	49 4.0	29 2.4	0 0.0	49 4.0

【実際の（実際になりそうな）人生】

「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が37.0%と最も高く、次いで「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」の割合が29.9%、「5. 結婚せず、仕事を続ける」の割合が12.9%となっています。

性別にみると、「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」については「男性」が40.8%に対し女性が24.7%と16.1ポイント、「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」については「男性」が25.7%に対し女性が42.9%と17.2ポイントの差が生じています。

- 1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける
- 2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▨ 3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に(回答者本人又は配偶者が)退職し、その後は仕事を持たない
- 4. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
- ▨ 5. 結婚せず、仕事を続ける
- 6. その他
- 不明・無回答



問 19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのように思いますか。各項目につき当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(3) 束縛されずに自由に生きたい人が増えてきたから」が最も高く 86.8% となっています。

一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(5) 結婚生活の失敗を恐れるから」が 58.8% と最も高くなっています。

平成 20 年調査と比較すると、「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合で、「(8) 女性の高収入化が進んでいるから」が 23.2 ポイント高くなっています。

- ☒ 1. そう思う
 ☐ 2. どちらかと言えばそう思う
☒ 3. あまりそう思わない
 ☒ 4. そう思わない
☒ 5. わからない
 ☐ 不明・無回答

【平成 25 年】

N=1,842

(1) 異性と知り合うゆとりや機会が少ないから

(2) ひとりでも十分に充実した生活が送れるから

(3) 束縛されずに自由に生きたい人が
増えてきたから

(4) 対人関係がわずらわしく、苦手な人が
増えているから

(5) 結婚生活の失敗を恐れるから

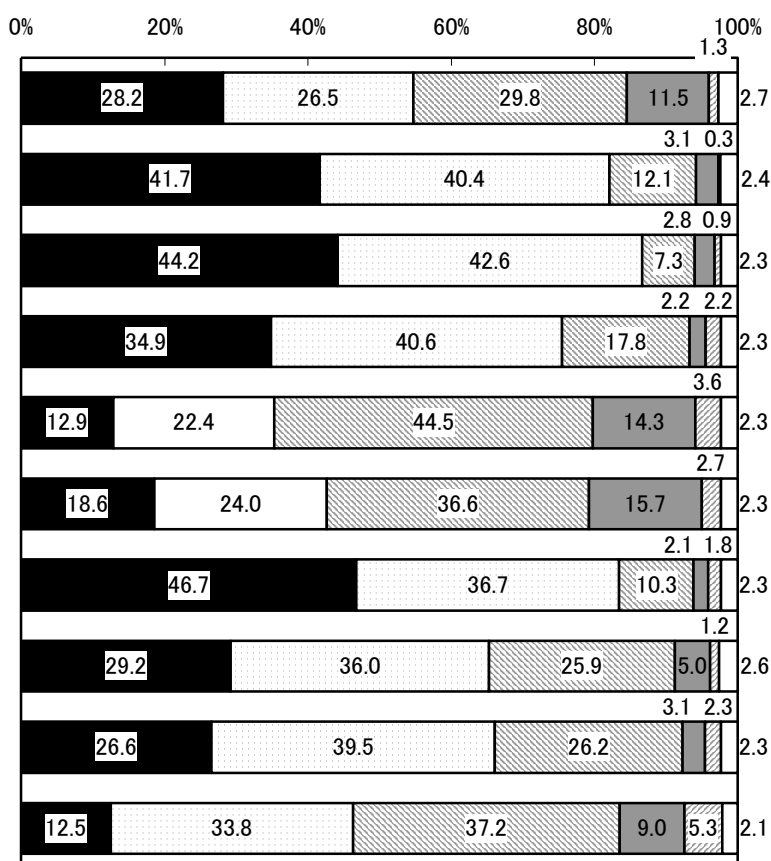
(6) 社会の動向や環境問題に対して不安を
感じるから

(7) フリーターなど所得が低い若者が
増えているから

(8) 女性の経済的自立が進んでいるから

(9) 親から自立ができていない人が増えているから

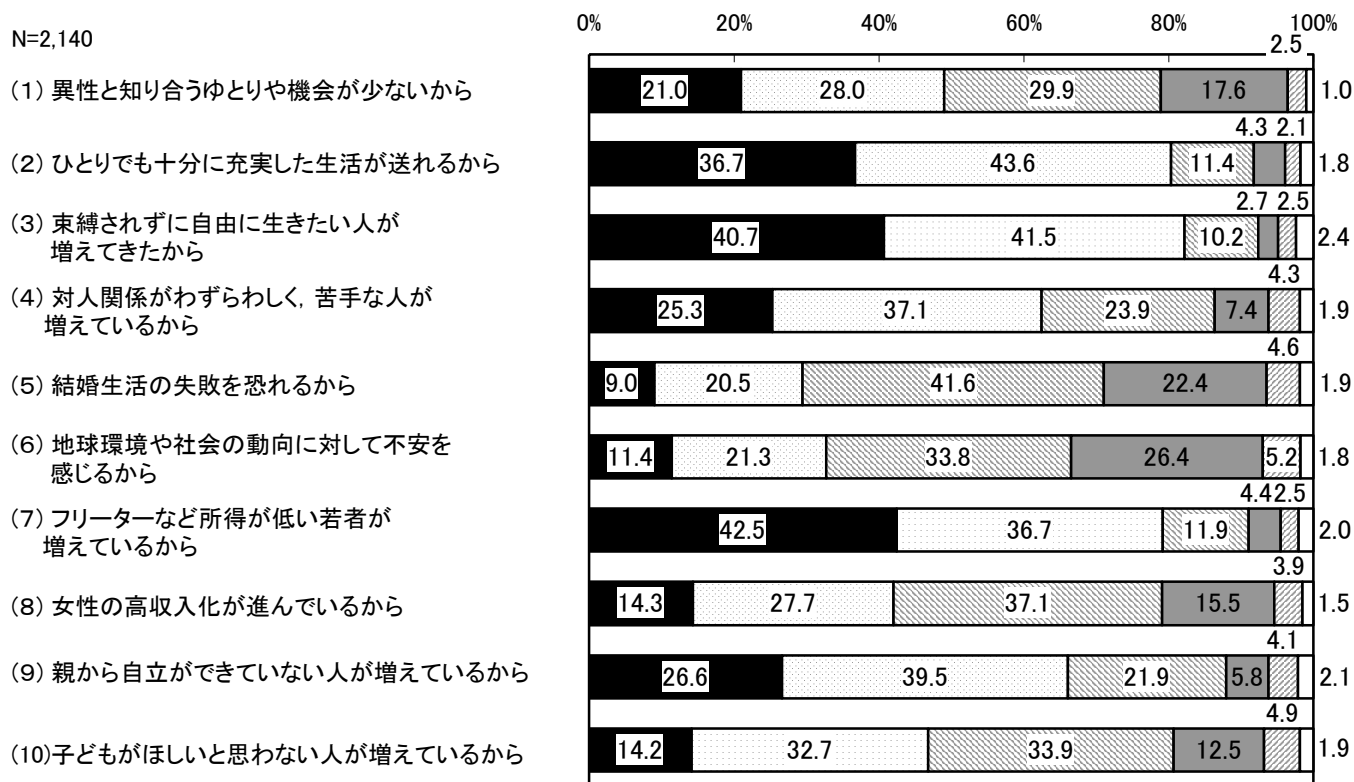
(10) 子どもがほしいと思わない人が増えているから



- 1. そう思う
 □ 2. どちらかと言えばそう思う
 ▨ 3. あまりそう思わない
 ▩ 4. そう思わない
 □ 5. わからない
 □ 不明・無回答

【平成20年】

N=2,140



問 2 0 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについてどう思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

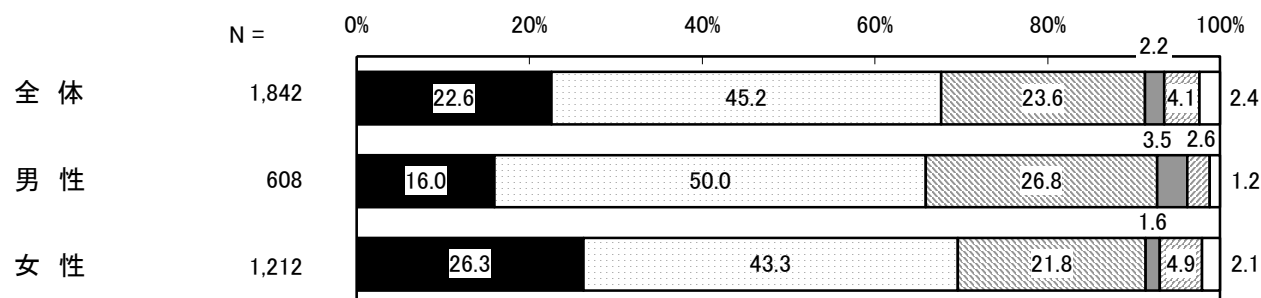
「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」の割合が45.2%と最も高く、次いで「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」の割合が23.6%、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」の割合が22.6%となっています。

性別にみると、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」については「男性」が16.0%に対し女性が26.3%と10.3ポイントの差が生じています。

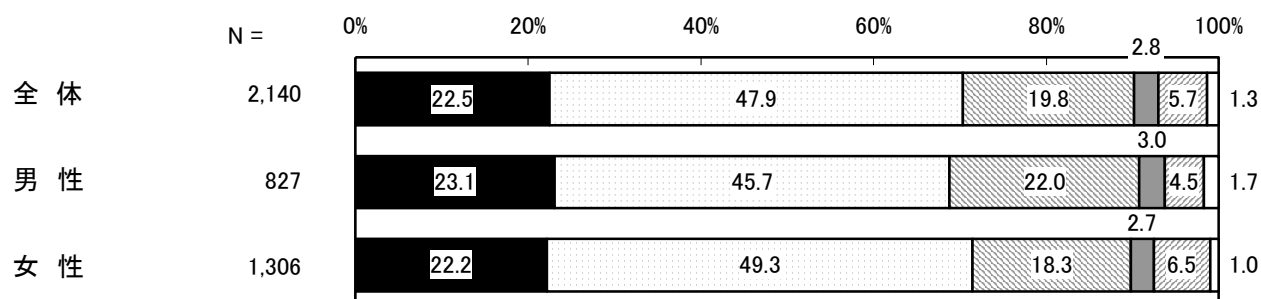
平成20年調査と比較すると、女性で「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」の割合が6.0ポイント低く、男性で「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」の割合が7.1ポイント低くなっています。

- 1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい
- 2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
- ▨ 3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである
- 4. その他
- ▨ 5. わからない
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 2 1 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのようなものと考えますか。もっとも望ましいと考える番号 1 つに○をつけてください。

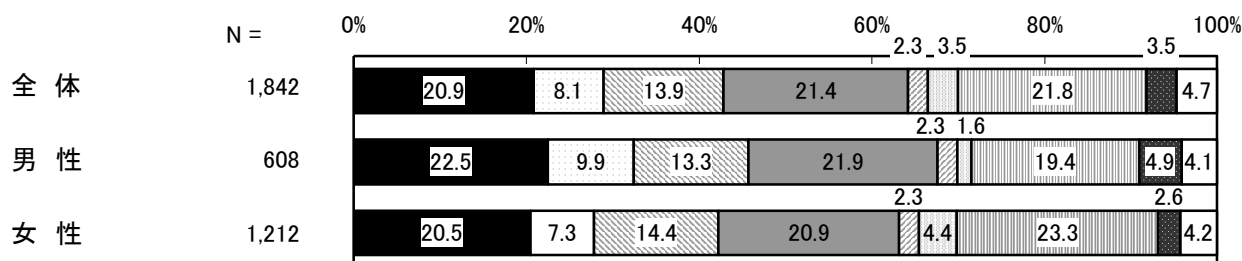
「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が21.8%と最も高く、次いで「4. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」の割合が21.4%、「1. 結婚したい男女の出会いの場づくり」の割合が20.9%となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

平成20年調査と比較すると、「1. 結婚したい男女の出会いの場づくり」の割合が高くなっており、特に女性で10.3ポイント高くなっています。

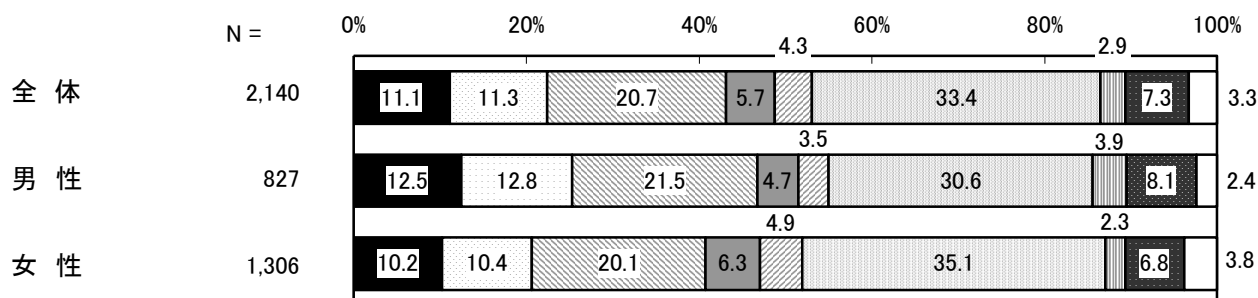
- 1. 結婚したい男女の出会いの場づくり
- 2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる
- ▨ 3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女共に育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める
- 4. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける
- ▨ 5. 男女が共に社会参加や自己実現できる意識改革を推進する
- 6. 男性の家事・育児への参加を促すための取組や啓発を進める
- ▨ 7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める
- 8. その他
- 不明・無回答

【平成25年】



- 1. 結婚したい男女の出会いの場づくり
- 2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる
- ▨ 3. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける
- 4. 男女が共に社会参加や自己実現できる意識改革を推進する
- ▨ 5. 男性の家事・育児への参加を推進する学習の場などを増やす
- 6. 子育てしやすい社会環境づくり
- ▨ 7. その他
- 8. 特にない
- 不明・無回答

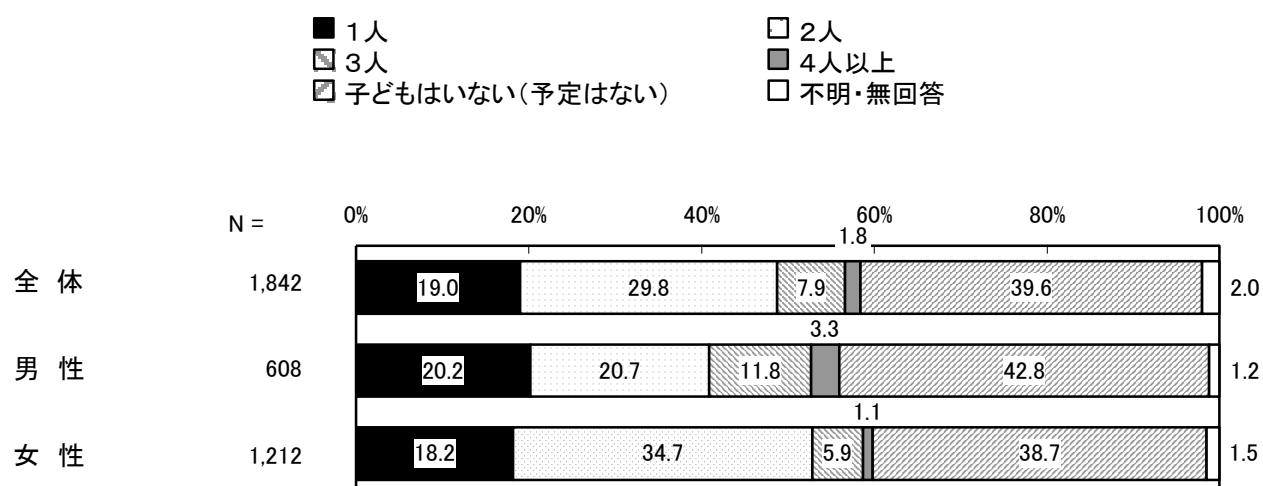
【平成20年】



4 出産について

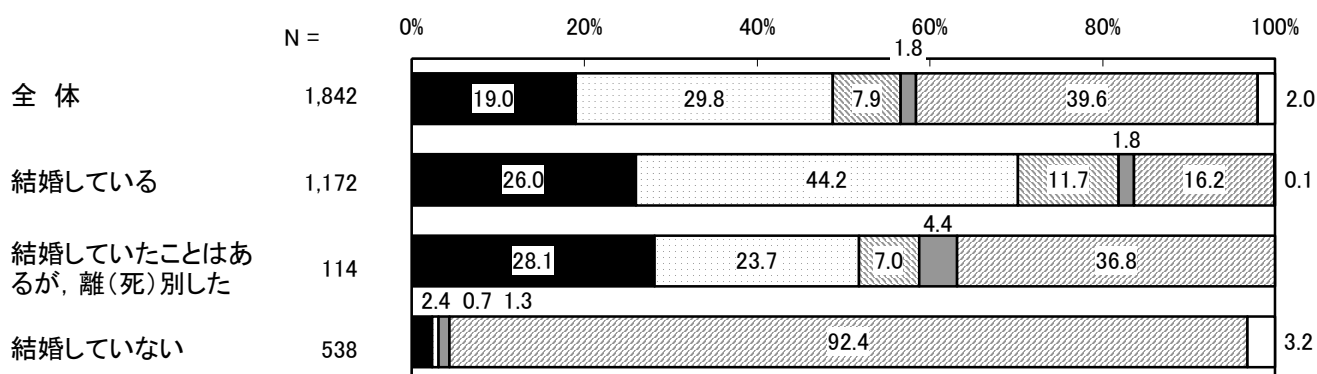
問22 あなたは何人のお子さんがいますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「子どもはいない（予定はない）」の割合が39.6%と最も高く、次いで「2人」の割合が29.8%、「1人」の割合が19.0%となっています。



[結婚の有無別]

結婚の有無別にみると、「結婚している」人で「2人の子どもがいる人」が44.2%と他の区分に比べ高くなっています。

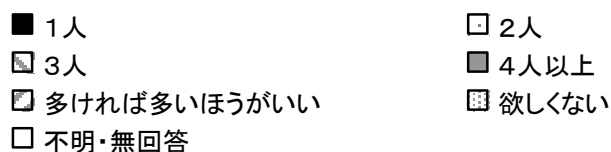


問 2 3 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子ども数は何人ですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

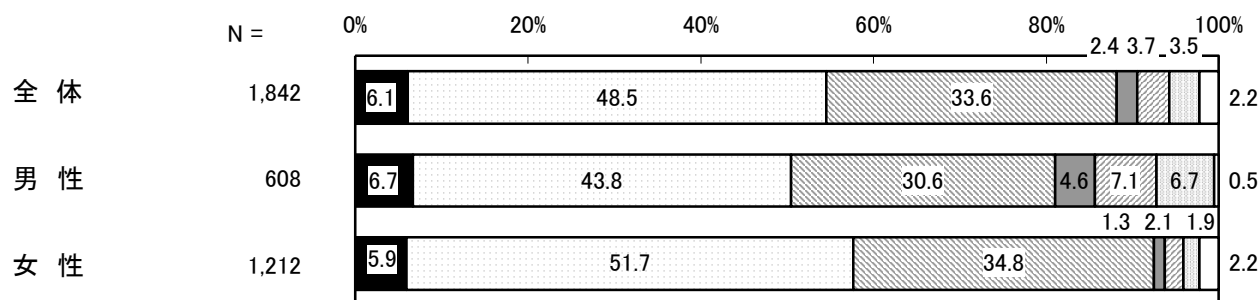
「2人」の割合が48.5%と最も高く、次いで「3人」の割合が33.6%、「1人」の割合が6.1%となっています。

性別にみると、「2人」については「男性」が43.8%に対し女性が51.7%と7.9ポイントの差が生じています。

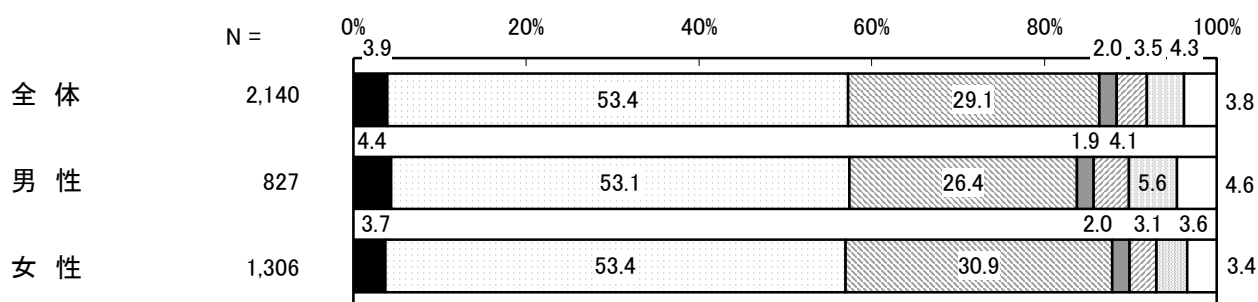
平成20年調査と比較すると、男性で「2人」の割合が低くなっており、特に9.3ポイント低くなっています。



【平成25年】

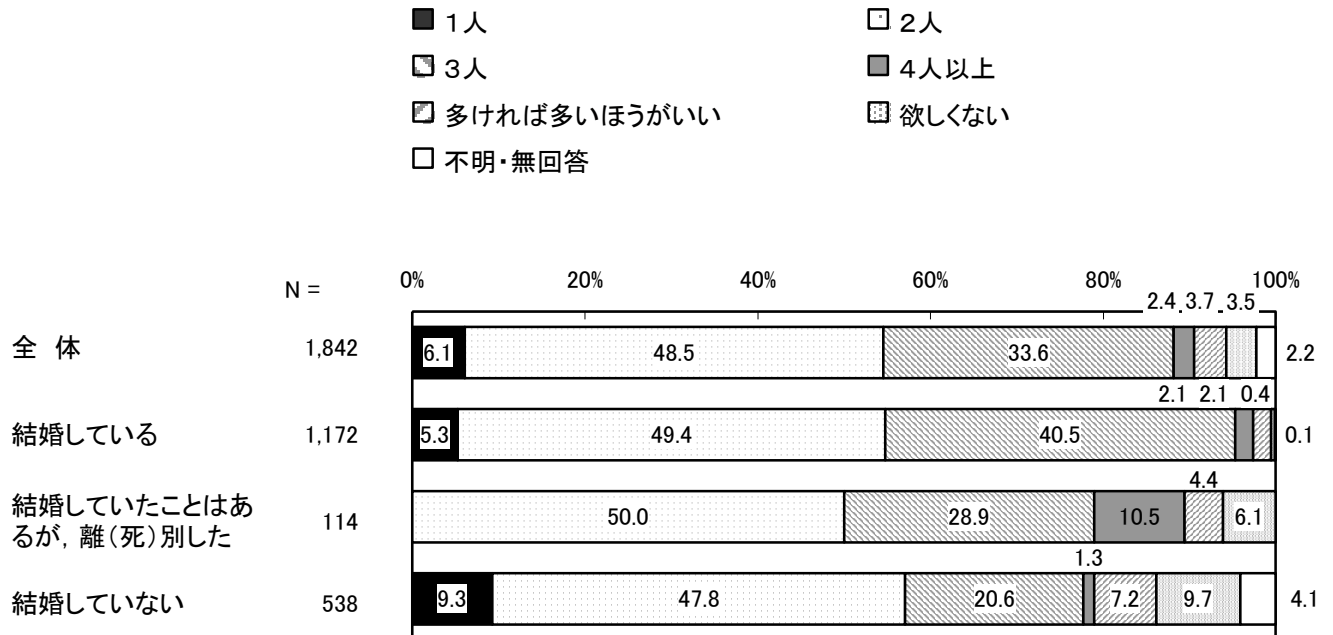


【平成20年】



〔結婚の有無別〕

結婚の有無別にみると、「結婚している人」で「3人の子どもの理想とする人」が40.5%と他の区分に比べ高くなっています。



問 2 4 現実にいる子どもの数, もしくは持とうと予定している子どもの数は理想と比べていかがですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

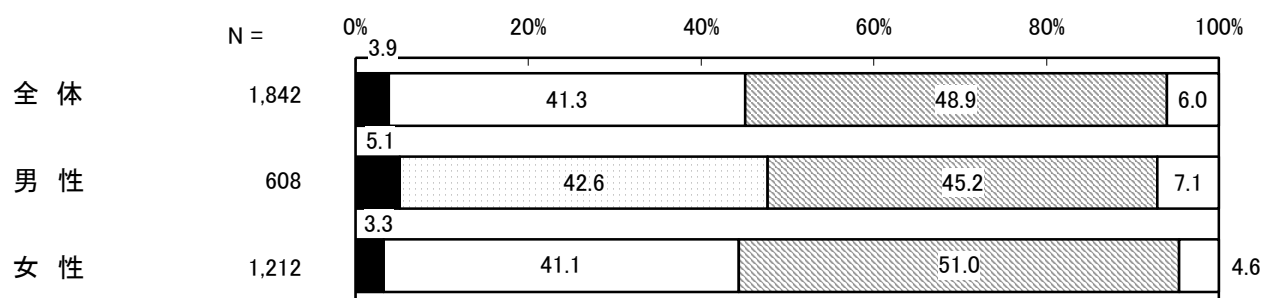
「3. 少ない」の割合が 48.9%と最も高く, 「2. 同じ」の割合が 41.3%, 「1. 多い」の割合が 3.9%となっています。

性別にみると, 「3. 少ない」については「男性」が 45.2%に対し女性が 51.0%と 5.8ポイントの差が生じています。

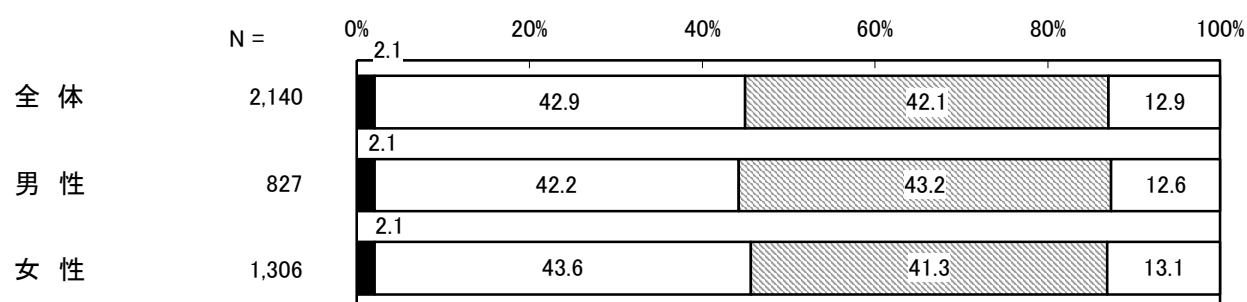
平成20年調査と比較すると, 「3. 少ない」の割合が高くなっており, 特に女性で 9.7ポイント高くなっています。

■ 1. 多い □ 2. 同じ ■ 3. 少ない □ 不明・無回答

【平成25年】

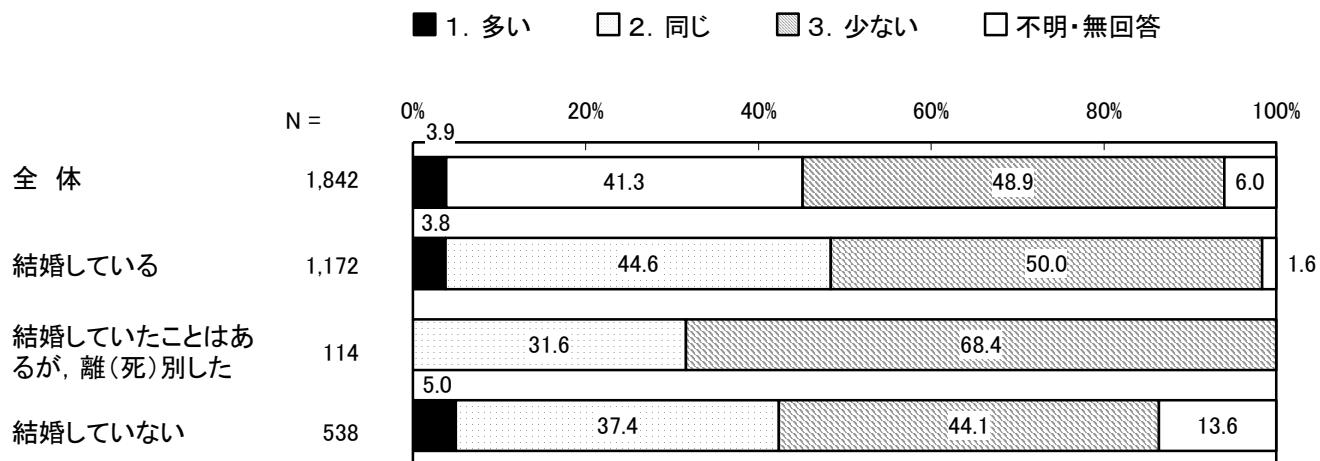


【平成20年】



〔結婚の有無別〕

結婚の有無別にみると、「結婚していたことはあるが、離（死）別した人」で「3. 少ない」が68.4%と他の区分に比べ高くなっています。



問25、問26は、問23で「欲しくない」または問24で「少ない」を選んだ方にお聞きします。

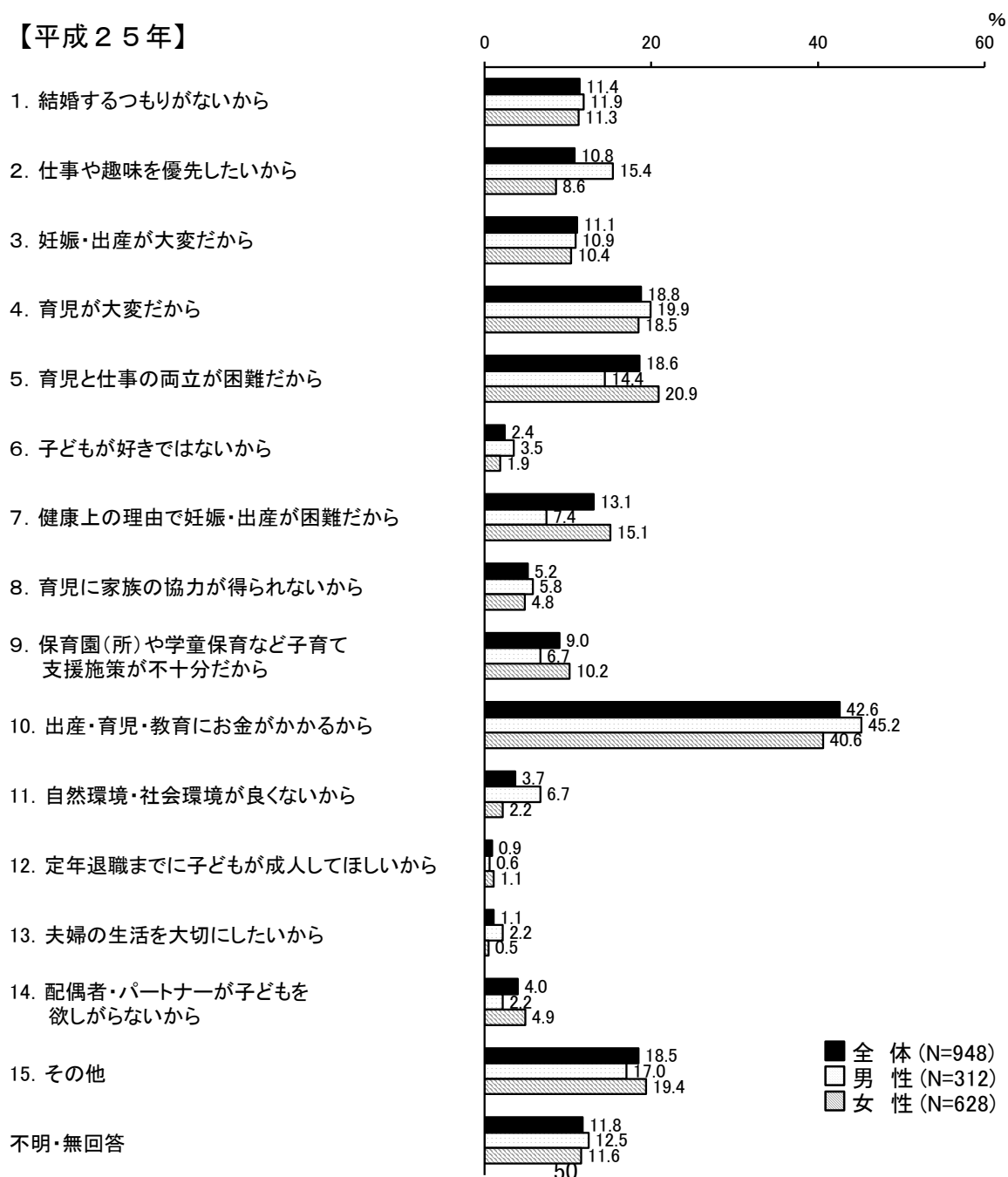
問25 子どもを持たない理由、あるいは実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」の割合が42.6%と最も高く、次いで「4. 育児が大変だから」の割合が18.8%、「5. 育児と仕事の両立が困難だから」の割合が18.6%となっています。

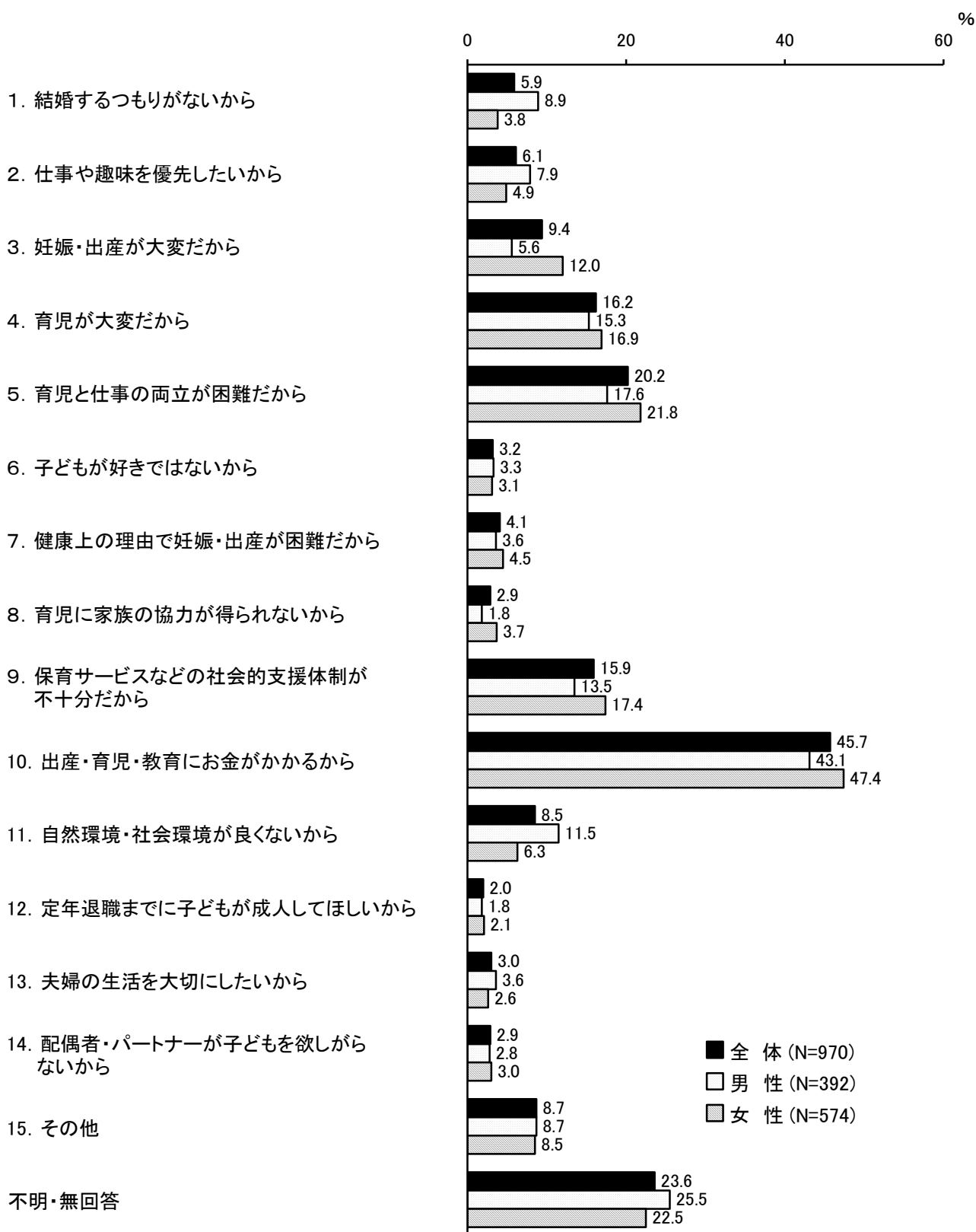
性別にみると、「2. 仕事や趣味を優先したいから」については「男性」が15.4%に対し女性が8.6%と6.8ポイント、「5. 育児と仕事の両立が困難だから」については「男性」が14.4%に対し女性が20.9%と6.5ポイント、「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」については「男性」が7.4%に対し女性が15.1%と7.7ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」、「1. 結婚するつもりがないから」の割合が高くなっており、特に女性で高くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



[結婚の有無別]

結婚の有無別にみると、「結婚している」、「結婚していない」で「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」が最も高くなっています。また、「結婚していない」で「1. 結婚するつもりがないから」、「2. 仕事や趣味を優先したいから」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	結婚するつもりがないから	仕事や趣味を優先したいから	妊娠・出産が大変だから	育児が大変だから	育児と仕事の両立が困難だから	子どもが好きではないから	健康上の理由で妊娠・出産が困難だから	育児に家族の協力が得られないから
結婚している	591	2.9	6.9	10.0	16.9	17.8	1.7	14.7	5.4
結婚していたことはあるが、離(死)別した	79	6.3	1.3	10.1	17.7	8.9	7.6	24.1	16.5
結婚していない	278	30.9	21.6	13.7	23.0	23.0	2.5	6.5	1.4

区分	保育園(所)や学童保育など子育て支援施策が不十分だから	出産・育児・教育にお金がかかるから	自然環境・社会環境が良くないから	定年退職までに子どもが成人してほしいから	夫婦の生活を大切にしたいから	配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから	その他	不明・無回答
結婚している	8.1	45.5	2.7	1.5	1.5	6.4	18.1	15.2
結婚していたことはあるが、離(死)別した	0.0	17.7	0.0	0.0	0.0	0.0	27.8	7.6
結婚していない	13.3	43.5	6.8	0.0	0.4	0.0	16.5	5.8

[性別と結婚の有無別]

性別と結婚の有無別にみると、「結婚していない男性」で「1. 結婚するつもりがないから」、「2. 仕事や趣味を優先したいから」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

単位: %

区分	有効回答数 (件)	結婚するつもりがないから	仕事や趣味を優先したいから	妊娠・出産が大変だから	育児が大変だから	育児と仕事の両立が困難だから	子どもが好きではないから	健康上の理由で妊娠・出産が困難だから	育児に家族の協力が得られないから
男性 結婚している	183	0.5	4.4	8.2	16.4	14.2	2.7	10.9	6.0
結婚していたことはあるが、離(死)別	26	0.0	0.0	0.0	26.9	0.0	0.0	7.7	26.9
結婚していない	103	35.0	38.8	18.4	24.3	18.4	5.8	1.0	0.0
女性 結婚している	400	4.0	8.3	9.5	17.5	19.8	1.3	15.3	5.0
結婚していたことはあるが、離(死)別	53	9.4	1.9	15.1	13.2	13.2	11.3	32.1	11.3
結婚していない	175	28.6	11.4	10.9	22.3	25.7	0.6	9.7	2.3

区分	保育園(所)や学童保育など子育て支援 施策が不十分だから	出産・育児・教育にお金がかかるから	自然環境・社会環境が良くないから	定年退職までに子どもが成人してほしいから	夫婦の生活を大切にしたいから	配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから	その他	不明・無回答
男性 結婚している	8.7	47.0	4.4	1.1	3.3	3.8	17.5	19.1
結婚していたことはあるが、離(死)別	0.0	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	15.4
結婚していない	4.9	46.6	12.6	0.0	1.0	0.0	14.6	0.0
女性 結婚している	8.0	43.8	2.0	1.8	0.8	7.8	18.8	13.8
結婚していたことはあるが、離(死)別	0.0	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	30.2	3.8
結婚していない	18.3	41.7	3.4	0.0	0.0	0.0	17.7	9.1

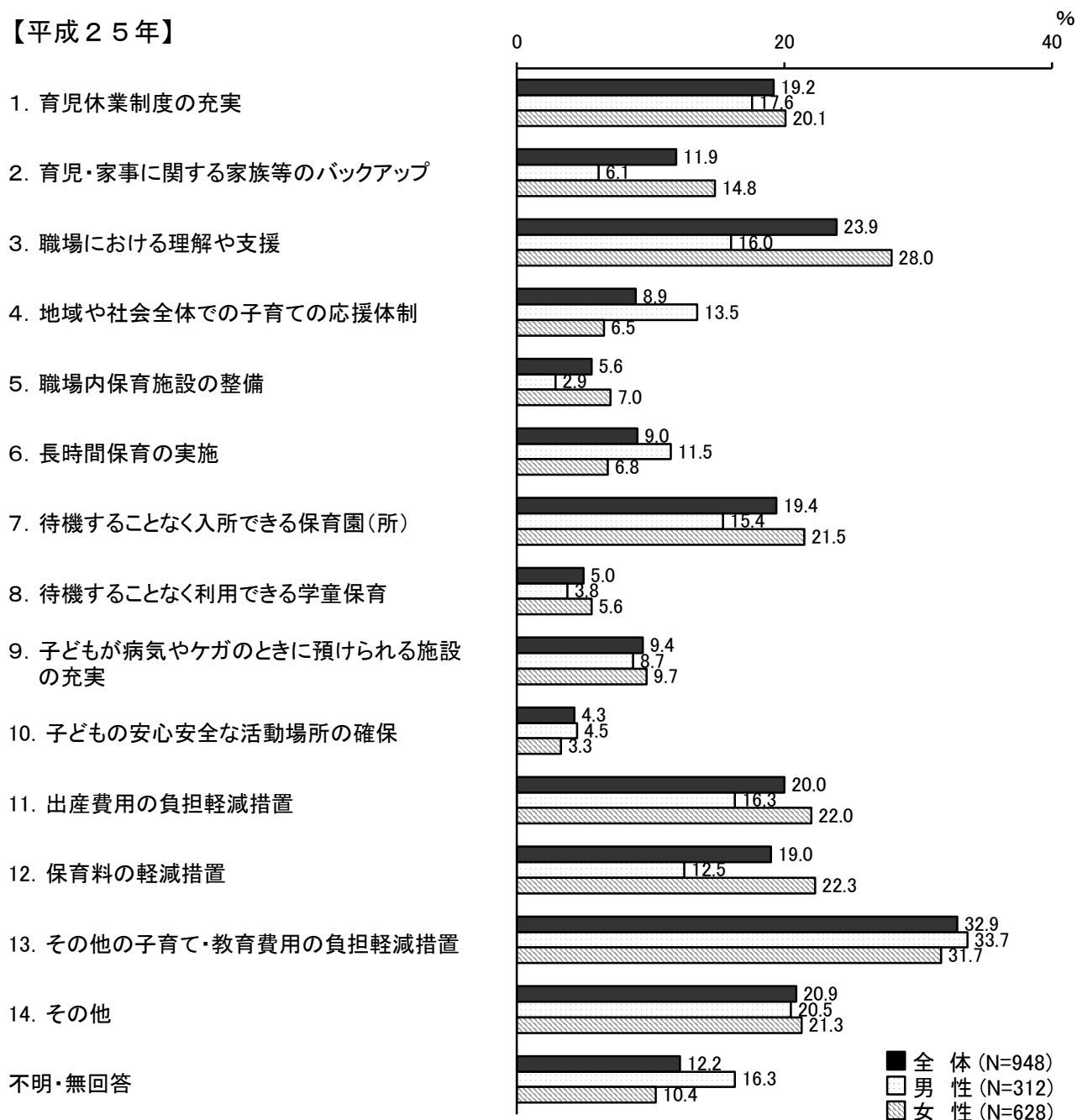
問 2 6 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもを持ったり、理想の子どもの数に近づいていたと思いますか。これだけあればできるかもしれないと思う最低限必要な項目に○をつけてください。

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」の割合が32.9%と最も高く、次いで「3. 職場における理解や支援」の割合が23.9%、「11. 出産費用の負担軽減措置」の割合が20.0%となっています。

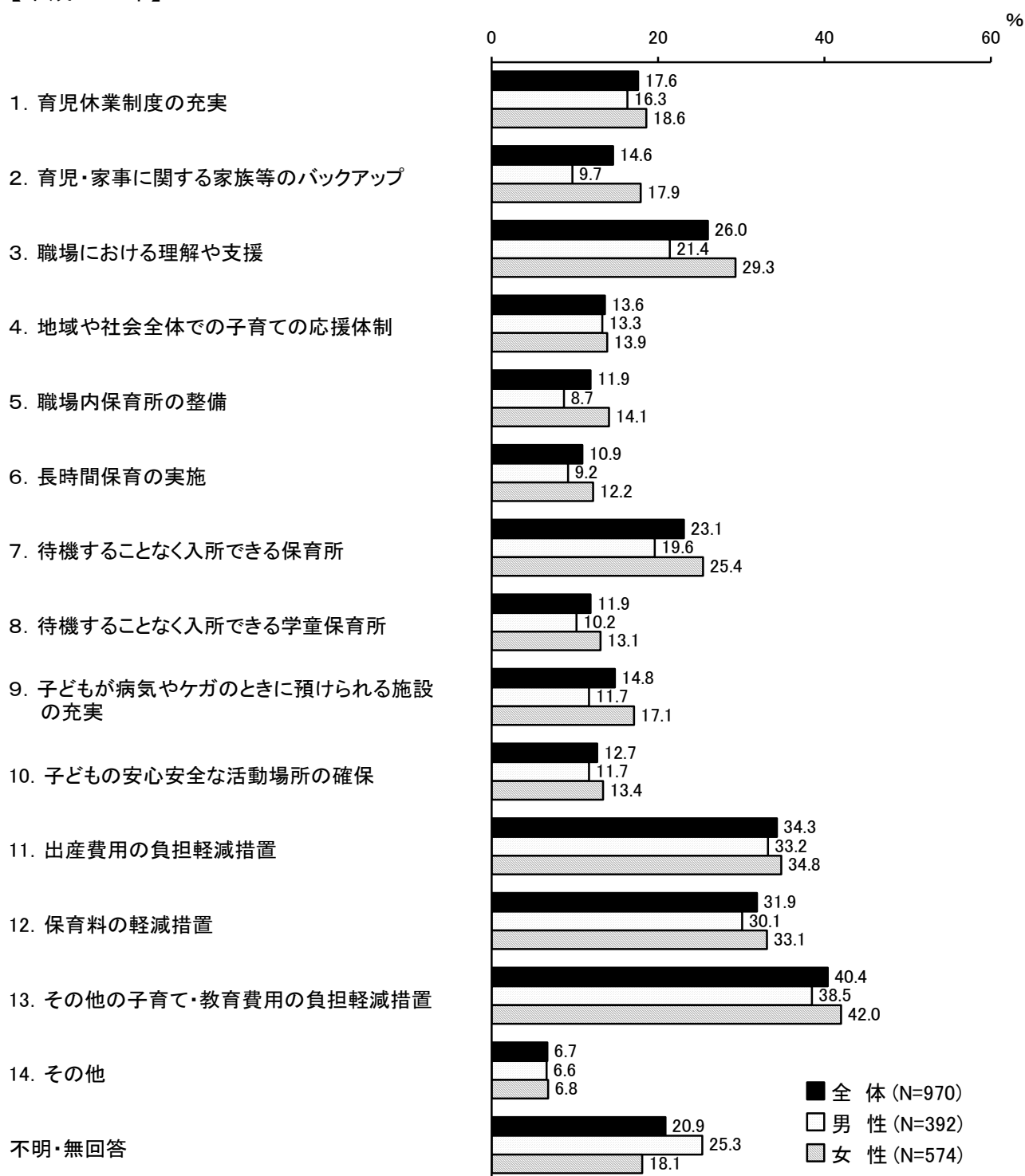
性別にみると、「2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ」については「男性」が6.1%に対し女性が14.8%と8.7ポイント、「3. 職場における理解や支援」については「男性」が16.0%に対し女性が28.0%と12.0ポイント、「7. 待機することなく入所できる保育園（所）」については「男性」が15.4%に対し女性が21.5%と6.1ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「11. 出産費用の負担軽減措置」、「12. 保育料の軽減措置」の割合が低くなっており、「12. 保育料の軽減措置」は男性で12.5ポイント低くなっています。

【平成25年】



【平成20年】



[結婚の有無別]

結婚の有無別にみると、「結婚している」で「1 2. 保育料の軽減措置」, 「1 3. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

単位: %

区分	有効回答数 (件)	育児休業制度の充実	育児・家事に関する家族等の バックアップ	職場における理解や支援	地域や社会全体での子育て の応援体制	職場内保育施設の整備	長時間保育の実施	待機することなく入所でき る保育園(所)
結婚している	591	17.3	8.5	20.6	9.8	5.1	6.8	17.6
結婚していたことはあるが、離(死)別した	79	8.9	24.1	12.7	1.3	8.9	5.1	39.2
結婚していない	278	26.3	15.8	34.2	9.0	5.8	14.7	17.6

区分	待機することなく利用できる 学童保育	子どもが病気やケガのときに 預けられる施設の充実	子どもの安心安全な活動場 所の確保	出産費用の負担軽減措置	保育料の軽減措置	その他の子育て・教育費用の 負担軽減措置	その他	不明・無回答
結婚している	5.4	8.8	4.6	20.0	21.3	39.9	21.2	12.7
結婚していたことはあるが、離(死)別した	0.0	7.6	0.0	16.5	13.9	17.7	20.3	7.6
結婚していない	5.4	11.2	5.0	21.2	15.5	22.3	20.5	12.6

[性別と結婚の有無別]

性別と結婚の有無別にみると、「結婚していない男性」で「4. 地域や社会全体での子育ての応援体制」が、また「結婚していたことはあるが、離（死）別した女性」で「2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	育児休業制度の充実	育児・家事に関する家族等の バックアップ	職場における理解や支援	地域や社会全体での子育て の応援体制	職場内保育施設の整備	長時間保育の実施	待機することなく入所でき る保育園（所）
男性 結婚している	183	19.7	6.0	13.7	9.3	1.1	10.9	14.8
結婚していたことはあるが、離（死）別	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8
結婚していない	103	18.4	7.8	24.3	24.3	6.8	15.5	12.6
女性 結婚している	400	16.3	9.5	24.0	10.0	7.0	3.5	19.0
結婚していたことはあるが、離（死）別	53	13.2	35.8	18.9	1.9	13.2	7.5	43.4
結婚していない	175	30.9	20.6	40.0	0.0	5.1	14.3	20.6

区分	待機することなく利用できる 学童保育	子どもが病気やケガのとき に預けられる施設の充実	子どもの安心安全な活動場 所の確保	出産費用の負担軽減措置	保育料の軽減措置	その他の子育て・教育費用の 負担軽減措置	その他	不明・無回答
男性 結婚している	6.0	4.4	4.4	16.9	18.6	37.7	18.6	19.1
結婚していたことはあるが、離（死）別	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.9	26.9	15.4
結婚していない	1.0	18.4	5.8	19.4	4.9	28.2	22.3	11.7
女性 結婚している	5.3	10.8	3.3	21.5	22.8	39.8	22.8	10.0
結婚していたことはあるが、離（死）別	0.0	11.3	0.0	24.5	20.8	13.2	17.0	3.8
結婚していない	8.0	6.9	4.6	22.3	21.7	18.9	19.4	13.1

すべての方にお聞きします。

問 2 7 あなたは出産後の実家との関わり方についてどう思っていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

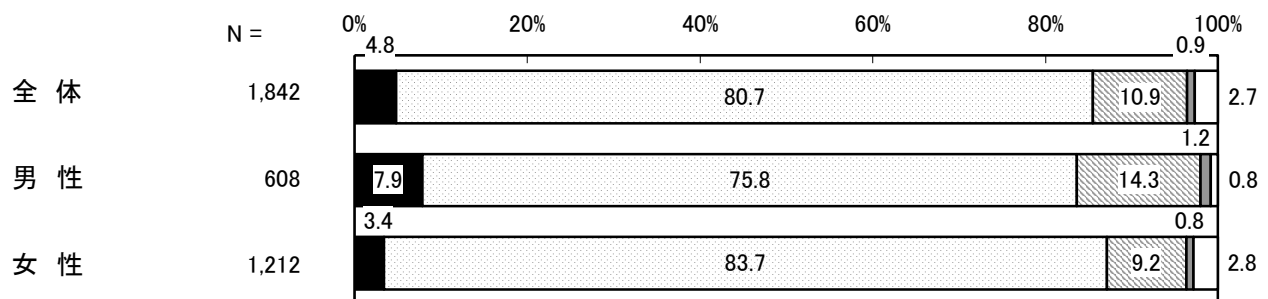
「2. 近くに住みたい」の割合が80.7%と最も高く、次いで「3. 近くに住みたくない」の割合が10.9%、「1. 同居したい」の割合が4.8%となっています。

性別にみると、「2. 近くに住みたい」については「男性」が75.8%に対し女性が83.7%と7.9ポイント、「3. 近くに住みたくない」については「男性」が14.3%に対し女性が9.2%と5.1ポイントの差が生じています。

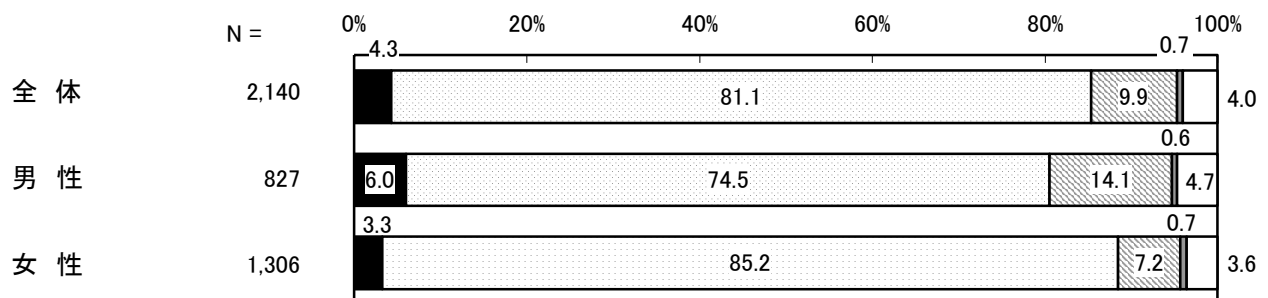
平成20年調査と大きな差はみられません。

- 1. 同居したい
- 2. 近くに住みたい
- ▨ 3. 近くに住みたくない
- 4. 両親はともに他界している
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



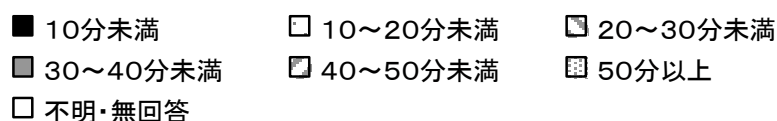
問27で「近くに住みたい」を選んだ方にお聞きします。

問27-2 実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

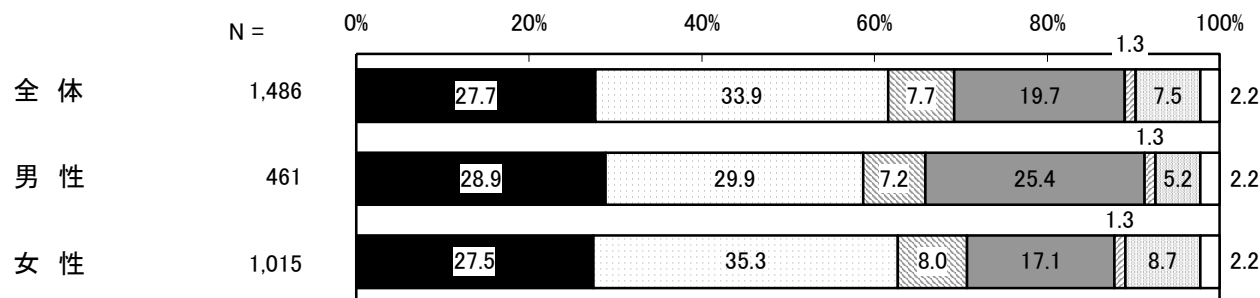
「10～20分未満」の割合が33.9%と最も高く、次いで「10分未満」の割合が27.7%、「30～40分未満」の割合が19.7%となっています。

性別にみると、「10～20分未満」については「男性」が29.9%に対し女性が35.3%と5.4ポイント、「30～40分未満」については「男性」が25.4%に対し女性が17.1%と8.3ポイントの差が生じています。

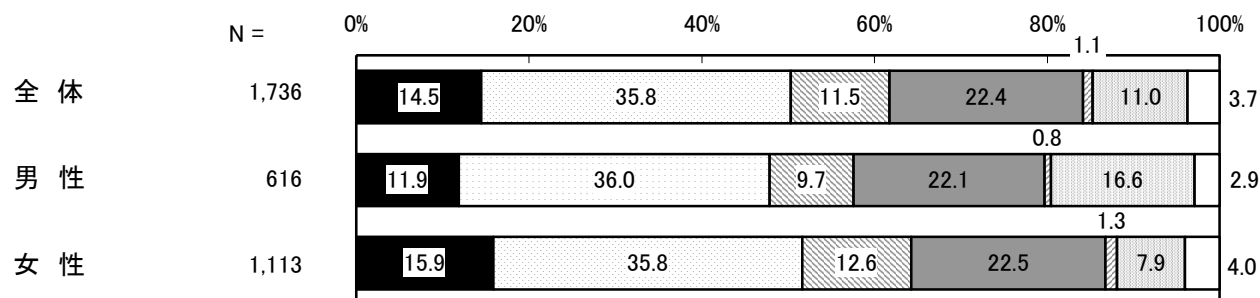
平成20年調査と比較すると、「10分未満」の割合が高くなっています。また、男性で「10～20分未満」、「50分以上」の割合が低くなっています。



【平成25年】



【平成20年】



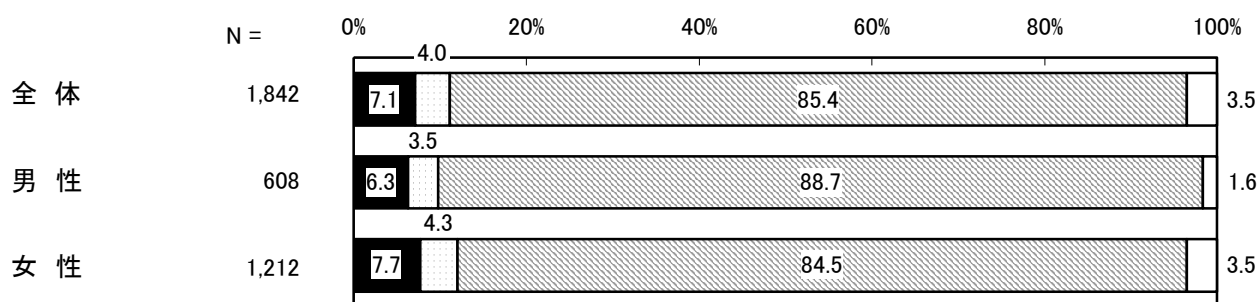
5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について

問28 あなたは、京都市が提案している「真のワーク・ライフ・バランス」について知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「3. 言葉も知らない」の割合が85.4%と最も高く、次いで「1. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉も意味も知っていた」の割合が7.1%, 「2. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉は知っていたが意味は知らなかった」の割合が4.0%となっています。

性別による大きな差はみられません。

- 1. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉も意味も知っていた
- 2. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉は知っていたが意味は知らなかった
- ▨ 3. 言葉も知らない
- 不明・無回答



問 2 9 あなたは、ご自身やご家族について、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和が希望どおりに図れていると思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

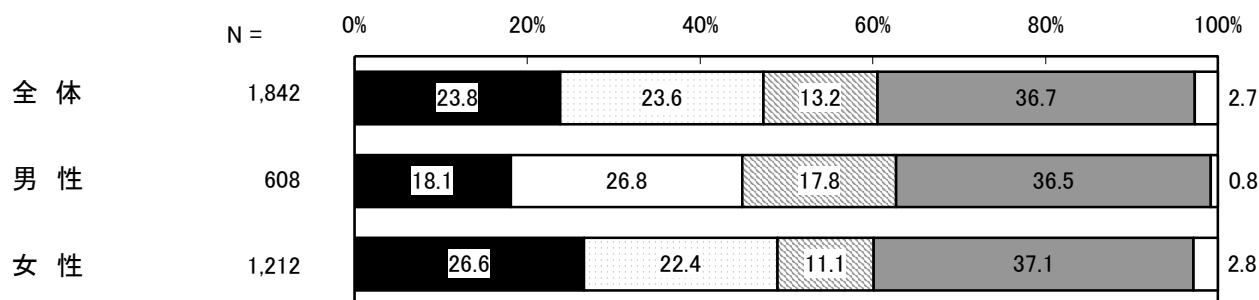
「4. 考えたこともない」の割合が36.7%と最も高く、次いで「1. 図れている」の割合が23.8%、「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」の割合が23.6%となっています。

性別にみると、「1. 図れている」については「男性」が18.1%に対し女性が26.6%と8.5ポイント、「3. 全く図れていない」については「男性」が17.8%に対し女性が11.1%と6.7ポイントの差が生じており、男性より女性の方が、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献との調和が図れているという状況が現れています。

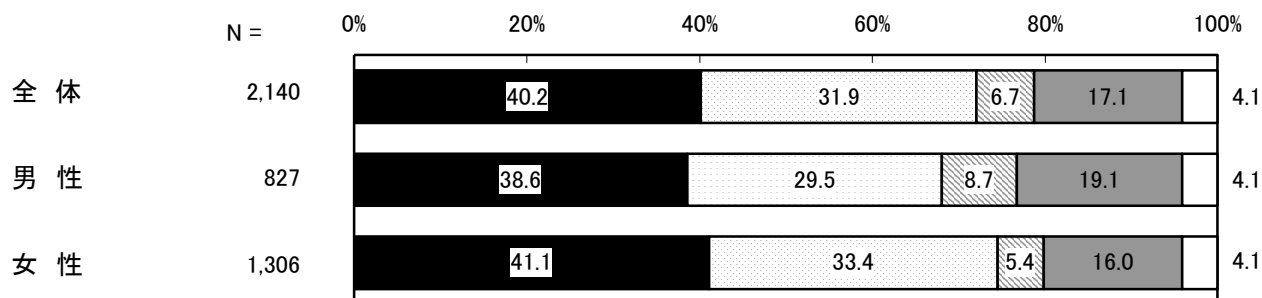
平成20年調査と比較すると、「3. 全く図れていない」、「4. 考えたこともない」の割合が高くなっています。

- 1. 図れている
- 2. 図ろうとしているがあまり図れていない
- ▨ 3. 全く図れていない
- 4. 考えたこともない
- 不明・無回答

【平成25年】



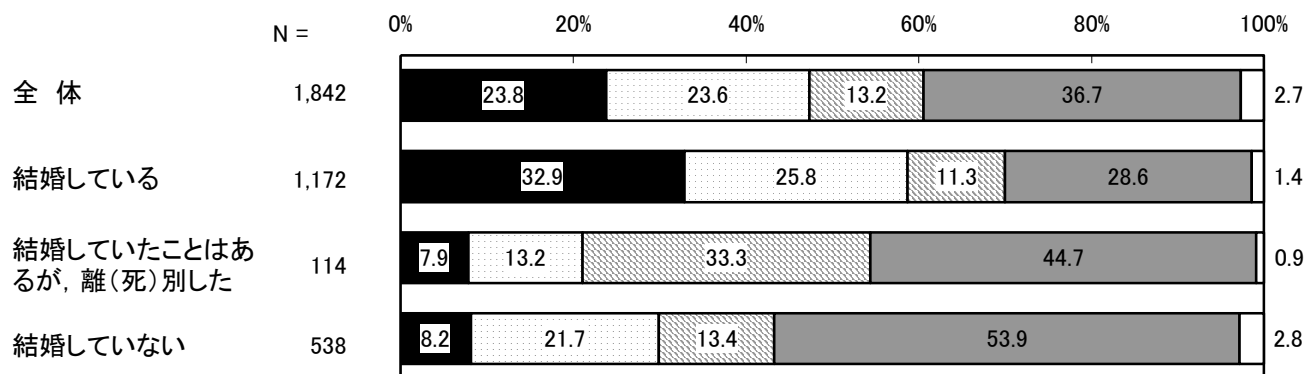
【平成20年】



〔結婚の有無別〕

結婚の有無別にみると、「結婚している人」で「1. 図れている」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

- 1. 図れている
- 2. 図ろうとしているがあまり図れていない
- ▨ 3. 全く図れていない
- 4. 考えたこともない
- 不明・無回答



問29で「図ろうとしているがあまり図れていない」または「全く図れていない」を選ばれた方にお聞きします。

問29-2 図れていない理由は何ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」の割合が60.7%と最も高く、次いで「2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから」の割合が7.1%、「3. 仕事以外にやるべき(やりたい)ことがないから」の割合が1.8%となっています。

性別にみると、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」については「男性」が70.1%に対し女性が54.4%と15.7ポイントの差が生じています。

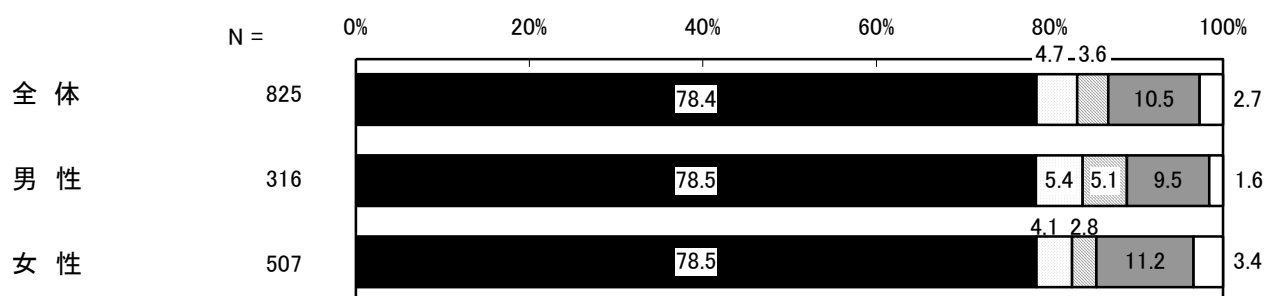
平成20年調査と比較すると、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」の割合が低くなっており、特に女性で24.1ポイント低くなっています。

- 1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない
- 2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから
- ▨ 3. 仕事以外にやるべき(やりたい)ことがないから
- 4. その他
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問30～問33は、結婚している方（入籍していないいわゆる事実婚を含む。）にお聞きます。

問30 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。本人と配偶者それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

【本人】

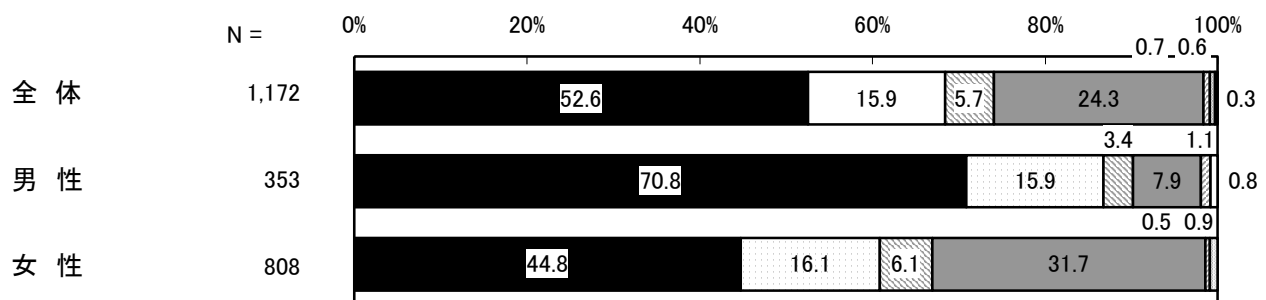
「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が52.6%と最も高く、次いで「4. 仕事を辞めた」の割合が24.3%、「2. 仕事を变えて働き続けた」の割合が15.9%となっています。

性別にみると、「1. 結婚前の仕事を続けた」については「男性」が70.8%に対し女性が44.8%と26ポイント、「4. 仕事を辞めた」については「男性」が7.9%に対し女性が31.7%と23.8ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が5.4ポイント高くなっています。

- 1. 結婚前の仕事を続けた
- 2. 仕事を变えて働き続けた
- ▨ 3. 新たに就職した
- 4. 仕事を辞めた
- ▨ 5. もともと仕事はしていない
- 6. その他
- 不明・無回答

【平成25年】

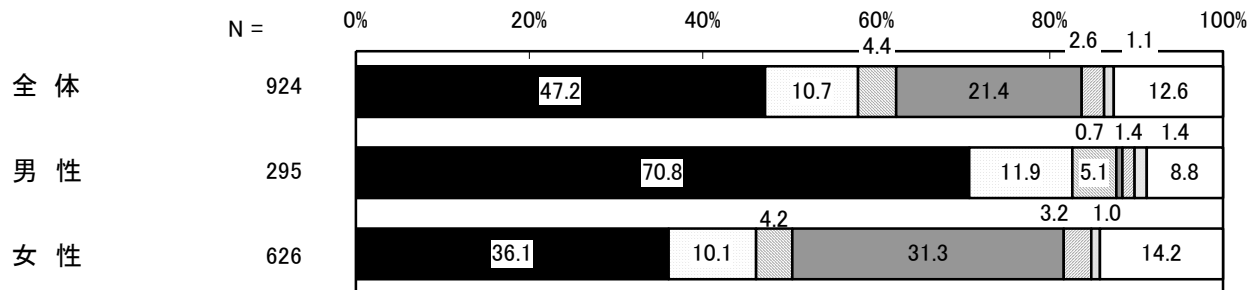


単位：上段(件)/下段(%)

	全 体	結婚前の仕事を続けた	仕事を变えて働き続けた	新たに就職した	仕事を辞めた	もともと仕事はしていない	その他	不明・無回答
全 体	1,172 100.0	616 52.6	186 15.9	67 5.7	285 24.3	8 0.7	7 0.6	3 0.3
男性	353 100.0	250 70.8	56 15.9	12 3.4	28 7.9	4 1.1	0 0.0	3 0.8
女性	808 100.0	362 44.8	130 16.1	49 6.1	256 31.7	4 0.5	7 0.9	0 0.0

- 1. 結婚前の仕事を続けた □ 2. 仕事を変えて働き続けた
 ■ 3. 新たに就職した ■ 4. 仕事を辞めた
 ■ 5. もともと仕事はしていない □ 6. その他
 □ 不明・無回答

【平成20年】



【配偶者】

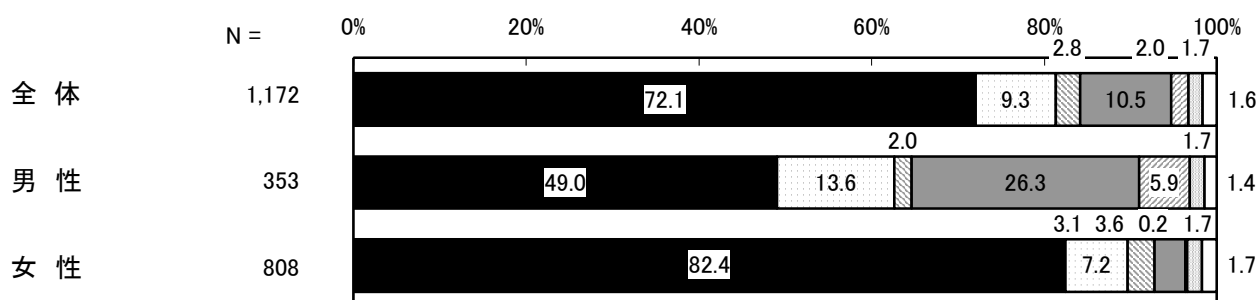
「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が72.1%と最も高く、次いで「4. 仕事を辞めた」の割合が10.5%、「2. 仕事を变えて働き続けた」の割合が9.3%となっています。

性別にみると、「1. 結婚前の仕事を続けた」については「男性」が49.0%に対し女性が82.4%と33.4ポイント、「4. 仕事を辞めた」については「男性」が26.3%に対し女性が10.5%と22.7ポイントの差が生じています。

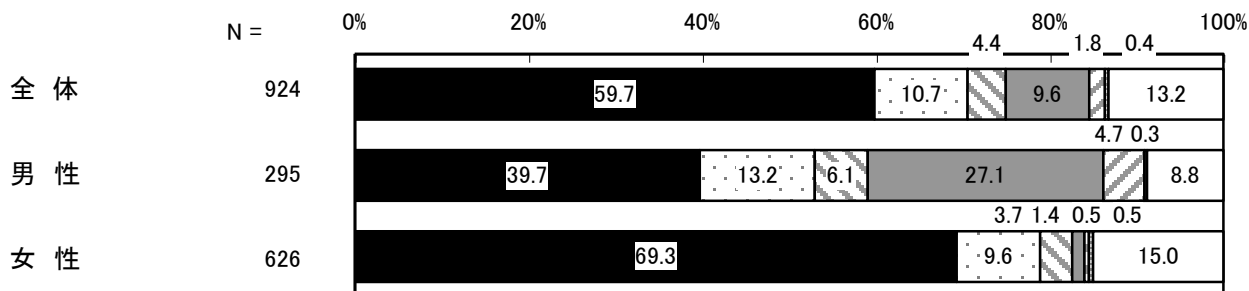
平成20年調査と比較すると、「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が高くなっており、特に女性で13.1ポイント高くなっています。

- | | |
|-------------------|------------------|
| ■ 1. 結婚前の仕事を続けた | □ 2. 仕事を变えて働き続けた |
| ▨ 3. 新たに就職した | ■ 4. 仕事を辞めた |
| ▨ 5. もともと仕事はしていない | □ 6. その他 |
| □ 不明・無回答 | |

【平成25年】



【平成20年】



問 3 1 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めた経験がありますか。
当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

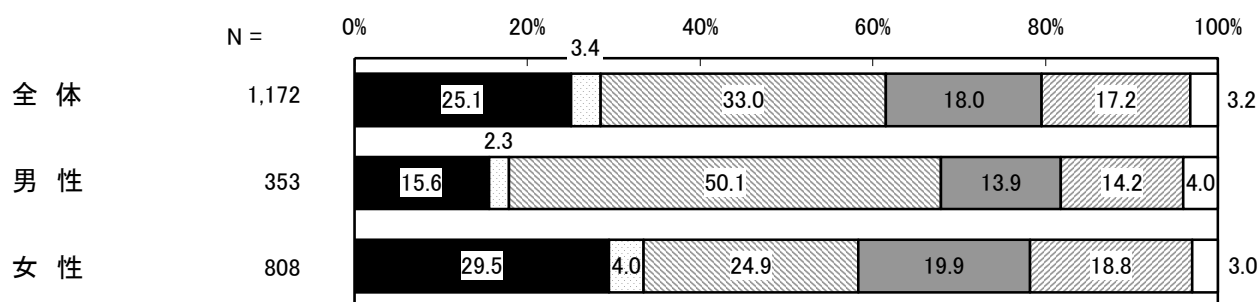
「3. 出産を機に仕事を辞めていない」の割合が33.0%と最も高く、次いで「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」の割合が25.1%、「4. 出産の時点では仕事をしていなかった」の割合が18.0%となっています。

性別にみると、「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」については「男性」が15.6%に対し女性が29.5%と13.9ポイント、「3. 出産を機に仕事を辞めていない」については「男性」が50.1%に対し女性が24.9%と25.2ポイントの差が生じています。

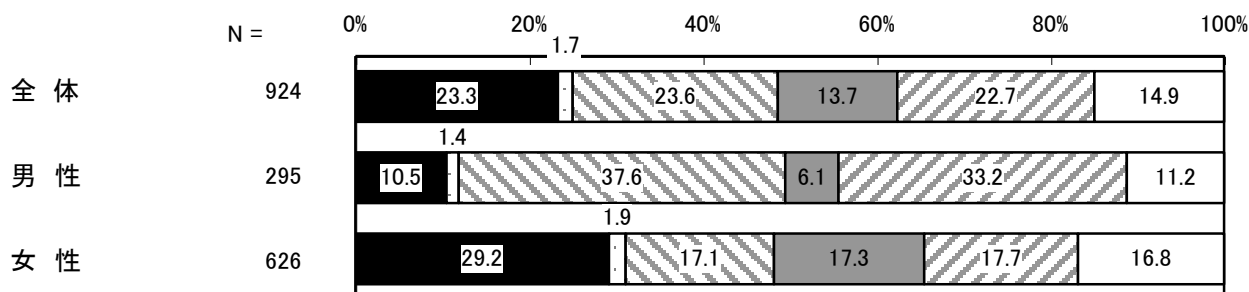
平成20年調査と比較すると、「3. 出産を機に仕事を辞めていない」の割合が高くなっています。また、男性で「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」、「4. 出産の時点では仕事をしていなかった」の割合が高くなっています。

- 1. 第1子出産を機に仕事を辞めた
- 2. 第2子以降の出産を機に仕事を辞めた
- ▨ 3. 出産を機に仕事を辞めていない
- 4. 出産の時点では仕事をしていなかった
- ▨ 5. 出産をしていない
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問3 1-2, 問3 1-3は, 問3 1で「第1子出産を機に仕事を辞めた」または「第2子以降の出産を機に仕事を辞めた」を選ばれた方にお聞きします。

問3 1-2 仕事を辞めた理由について, 当てはまる番号1つに○をつけてください。

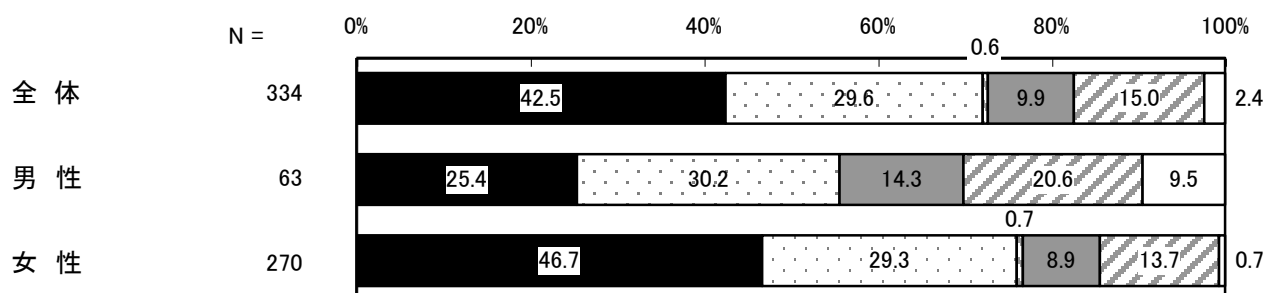
「1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった」の割合が42.5%と最も高く, 次いで「2. 職場が育児休業, 子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」の割合が29.6%, 「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」の割合が9.9%となっています。

性別にみると, 「1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった」については「男性」が25.4%に対し女性が46.7%と21.3ポイント, 「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」については「男性」が14.3%に対し女性が8.9%と5.4ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると, 「2. 職場が育児休業制度などを利用しづらい雰囲気であった」の割合が高く, 「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」の割合が低くなっています。また, 女性で「1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった」の割合が高くなっているのに対し, 男性では低くなっています。

- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった
- 2. 職場が育児休業, 子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった
- 3. 配偶者や家族が退職を望んだ
- 4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった
- 5. その他
- 不明・無回答

【平成25年】

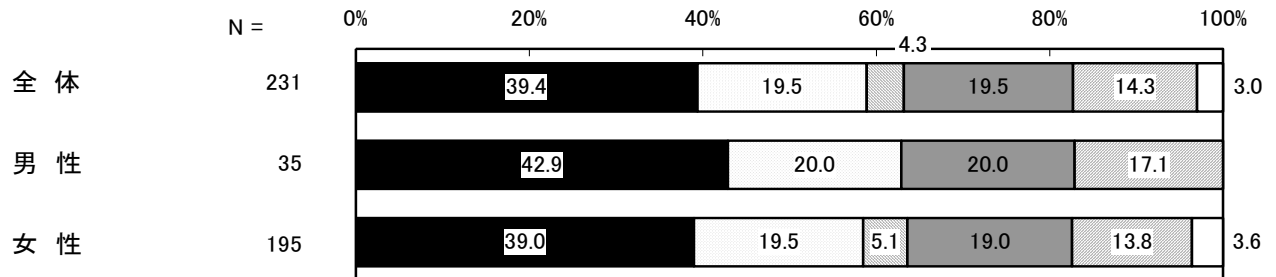


単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	家庭生活 (家事や子 育てなど) に専念し たかった	職場が育児 休業, 子の 看護休暇な どを利用し づらい雰 囲気であ った	配偶者や 家族が退 職を望ん だ	仕事と家 庭生活の 両立が困 難だった	その他	不明・ 無回答
全 体	334 100.0	142 42.5	99 29.6	2 0.6	33 9.9	50 15.0	8 2.4
男性	63 100.0	16 25.4	19 30.2	0 0.0	9 14.3	13 20.6	6 9.5
女性	270 100.0	126 46.7	79 29.3	2 0.7	24 8.9	37 13.7	2 0.7

- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった
 □ 2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気であった
 ▨ 3. 配偶者や家族が退職を望んだ
 ■ 4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった
 ▨ 5. その他
 □ 不明・無回答

【平成20年】



単位: 上段(件)/下段(%)

	全体	家庭生活 (家事や子 育てなど) に専念した かった	職場が育児 休暇制度な どを利用し づらい雰囲 気であった	配偶者や 家族が退 職を望んだ	仕事と家庭 生活の両 立が困難 だった	その他	不明・ 無回答
全体	231 100.0	91 39.4	45 19.5	10 4.3	45 19.5	33 14.3	7 3.0
男性	35 100.0	15 42.9	7 20.0	0 0.0	7 20.0	6 17.1	0 0.0
女性	195 100.0	76 39.0	38 19.5	10 5.1	37 19.0	27 13.8	7 3.6

問 3 1－3 仕事を辞めたあと、また働きはじめましたか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

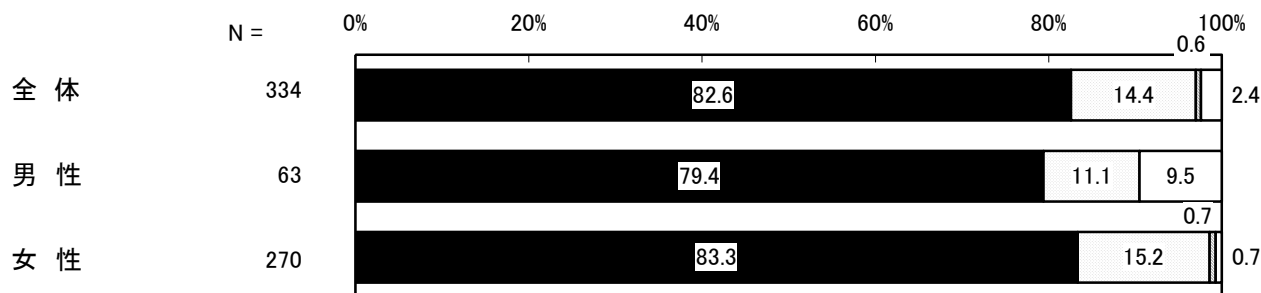
「1. 働きはじめた」の割合が82.6%と最も高く、次いで「2. 働いてないが、機会があれば働きたい」の割合が14.4%、「3. 働いていないし、これからも働くつもりはない」の割合が0.6%となっています。

性別による差はみられません。

平成20年調査と比較すると、「1. 働きはじめた」の割合が高く、特に女性で53.6ポイント高くなっています。

- 1. 働きはじめた
- 2. 働いてないが、機会があれば働きたい
- 3. 働いていないし、これからも働くつもりはない
- 不明・無回答

【平成25年】

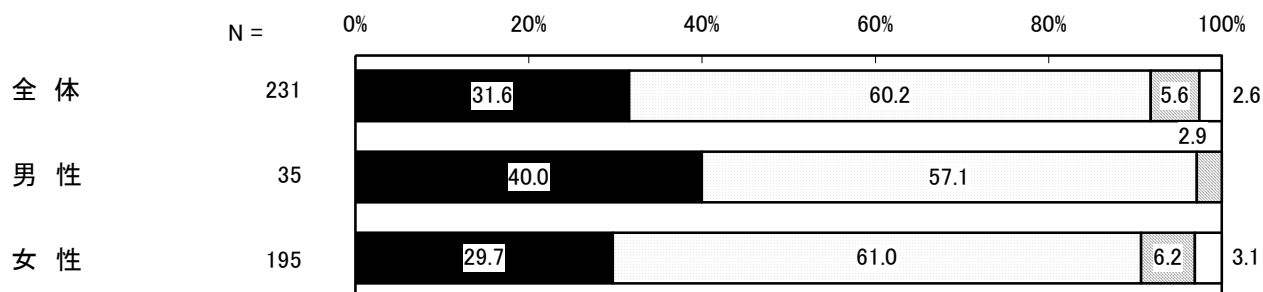


単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	働きはじめた	働いてないが、機会があれば働きたい	働いていないし、これからも働くつもりはない	不明・無回答
全 体	334 100.0	276 82.6	48 14.4	2 0.6	8 2.4
男性	63 100.0	50 79.4	7 11.1	0 0.0	6 9.5
女性	270 100.0	225 83.3	41 15.2	2 0.7	2 0.7

- ☒ 1. 働きはじめた
☐ 2. 働いてないが、機会があれば働きたい
☐ 3. 働いていないし、これからも働くつもりはない
☐ 不明・無回答

【平成20年】



単位：上段(件)/下段(%)

	全体	働きはじめた	働いていないが、機会があれば働きたい	働いていないし、これからも働くつもりはない	不明・無回答
全体	231 100.0	73 31.6	139 60.2	13 5.6	6 2.6
男性	35 100.0	14 40.0	20 57.1	1 2.9	0 0.0
女性	195 100.0	58 29.7	119 61.0	12 6.2	6 3.1

問3 1－3で「働きはじめた」または「働いてないが、機会があれば働きたい」を選んだ方にお聞きします。

問3 1－4 また働きはじめた、あるいは機会があれば働きたいと思ったきっかけは何でしたか。もっとも大きなきっかけとなったものの1つに○をつけてください。

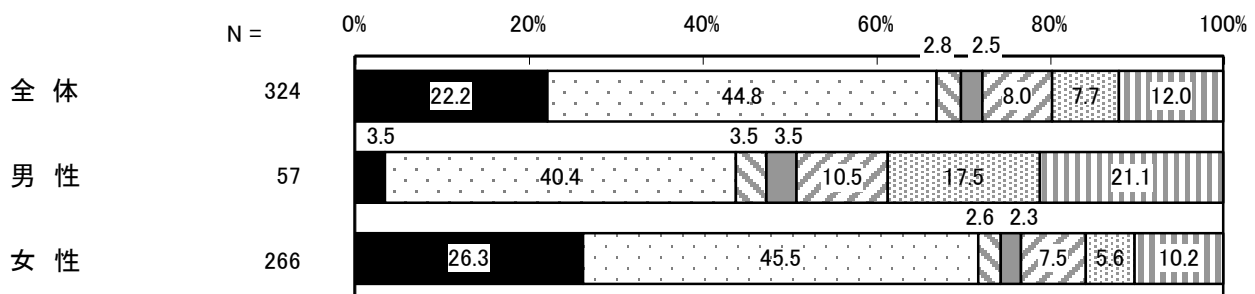
「2. 経済的な理由が発生したから」の割合が44.8%と最も高く、次いで「1. 子どもが大きくなったから」の割合が22.2%、「5. 元の職場から誘われたから」の割合が8.0%となっています。

性別にみると、「1. 子どもが大きくなったから」については「男性」が3.5%に対し女性が26.3%と22.8ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、男性で「6. 求人募集をみてやる気になったから」の割合が14.6ポイント高くなっています。

- 1. 子どもが大きくなったから
- 2. 経済的な理由が発生したから
- ▨ 3. 友人・知人に誘われたから
- 4. 配偶者から勧められたり、頼まれたから
- ▨ 5. 元の職場から誘われたから
- 6. 求人募集をみてやる気になったから
- ▨ 7. その他
- 不明・無回答

【平成25年】

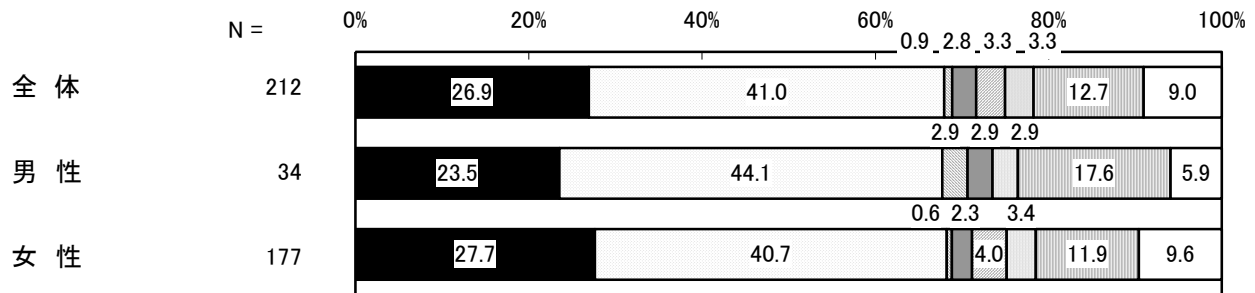


単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	子どもが 大きくなっ たから	経済的な 理由が発 生したから	友人・知人 に誘われ たから	配偶者か ら勧めら れたり、 頼まれた から	元の職場 から誘わ れたから	求人募集 をみてや る気にな ったから	その他	不明・ 無回答
全 体	324 100.0	72 22.2	145 44.8	9 2.8	8 2.5	26 8.0	25 7.7	39 12.0	0 0.0
男性	57 100.0	2 3.5	23 40.4	2 3.5	2 3.5	6 10.5	10 17.5	12 21.1	0 0.0
女性	266 100.0	70 26.3	121 45.5	7 2.6	6 2.3	20 7.5	15 5.6	27 10.2	0 0.0

- 1. 子どもが大きくなったから
- 2. 経済的な理由が発生したから
- 3. 友人・知人に誘われたから
- 4. 配偶者から勧められたり、頼まれたから
- 5. 元の職場から誘われたから
- 6. 求人募集をみてやる気になったから
- 7. その他
- 不明・無回答

【平成20年】



単位: 上段(件)/下段(%)

	全体	子どもが大きくなったから	経済的な理由が発生したから	友人・知人に誘われたから	配偶者から勧められたり、頼まれたから	元の職場から誘われたから	求人募集をみてやる気になったから	その他	不明・無回答
全体	212 100.0	57 26.9	87 41.0	2 0.9	6 2.8	7 3.3	7 3.3	27 12.7	19 9.0
男性	34 100.0	8 23.5	15 44.1	1 2.9	1 2.9	0 0.0	1 2.9	6 17.6	2 5.9
女性	177 100.0	49 27.7	72 40.7	1 0.6	4 2.3	7 4.0	6 3.4	21 11.9	17 9.6

問 3 1 で「出産をしていない」を選んだ方にお聞きします。

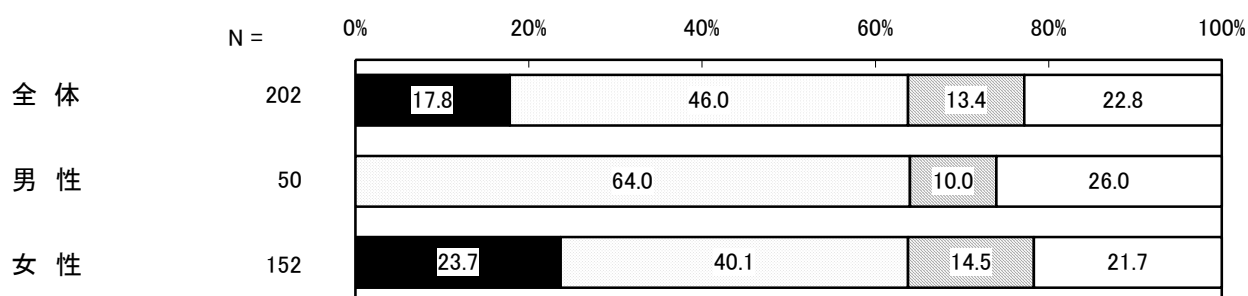
問 3 1－5 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めようと思いますか。
当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「2. 思わない」の割合が46.0%と最も高く、次いで「1. 思う」の割合が17.8%となっています。

性別にみると、「1. 思う」について「男性」で0.0%に対し「女性」で23.7%となっています。
平成20年調査と比較すると、女性で「2. 思わない」の割合が14.0ポイント高くなっています。

■ 1. 思う □ 2. 思わない ▨ 3. わからない □ 不明・無回答

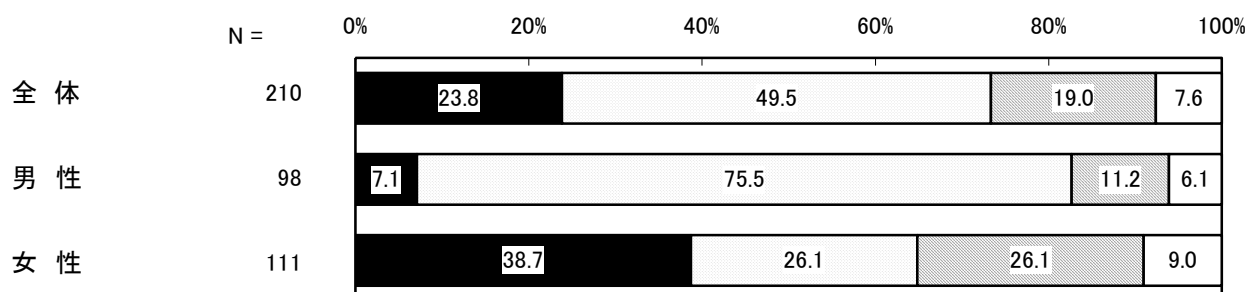
【平成25年】



単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	思 っ	思 っ	わ っ	不 明・ 無 回 答
全 体	202 100.0	36 17.8	93 46.0	27 13.4	46 22.8
男性	50 100.0	0 0.0	32 64.0	5 10.0	13 26.0
女性	152 100.0	36 23.7	61 40.1	22 14.5	33 21.7

【平成20年】



問3 1－5で「思う」を選んだ方にお聞きします。

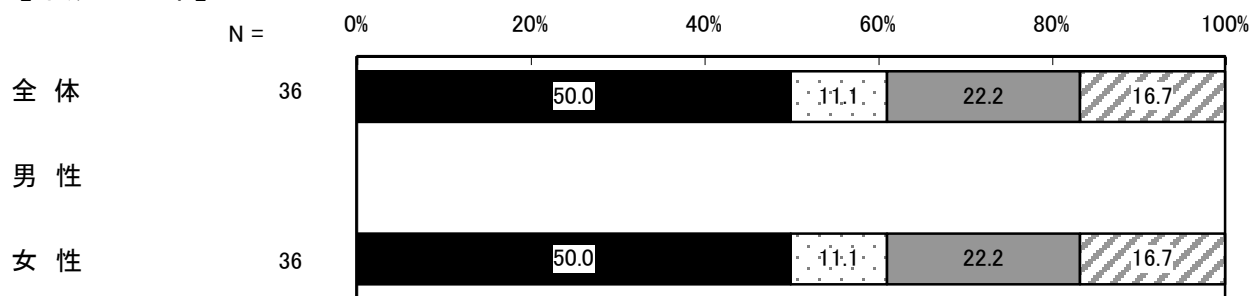
問3 1－6 その理由は何ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」の割合が50.0%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」の割合が22.2%, 「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」の割合が11.1%となっています。

平成20年調査と比較すると, 「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」の割合が20.0ポイント高くなっています。

- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したい
- 2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため
- 3. 配偶者や家族が退職を望みそうのため
- 4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため
- 5. その他
- 不明・無回答

【平成25年】



単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	家庭生活(家事や子育てなど)に専念したい	職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため	配偶者や家族が退職を望みそうのため	仕事と家庭生活の両立が難しそうのため	その他	不明・無回答
全 体	36 100.0	18 50.0	4 11.1	0 0.0	8 22.2	6 16.7	0 0.0
男性	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
女性	36 100.0	18 50.0	4 11.1	0 0.0	8 22.2	6 16.7	0 0.0

- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したい
 □ 2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気なため
 ■ 3. 配偶者や家族が退職を望みそうなため
 ■ 4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうなため
 ■ 5. その他
 □ 不明・無回答

【平成20年】



単位: 上段(件)/下段(%)

	全 体	家庭生活(家事や子育てなど)に専念したい	職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気なため	配偶者や家族が退職を望みそうなため	仕事と家庭生活の両立が難しそうなため	その他	不明・無回答
全 体	50 100.0	15 30.0	13 26.0	2 4.0	16 32.0	2 4.0	2 4.0
男性	7 100.0	4 57.1	2 28.6	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0
女性	43 100.0	11 25.6	11 25.6	2 4.7	15 34.9	2 4.7	2 4.7

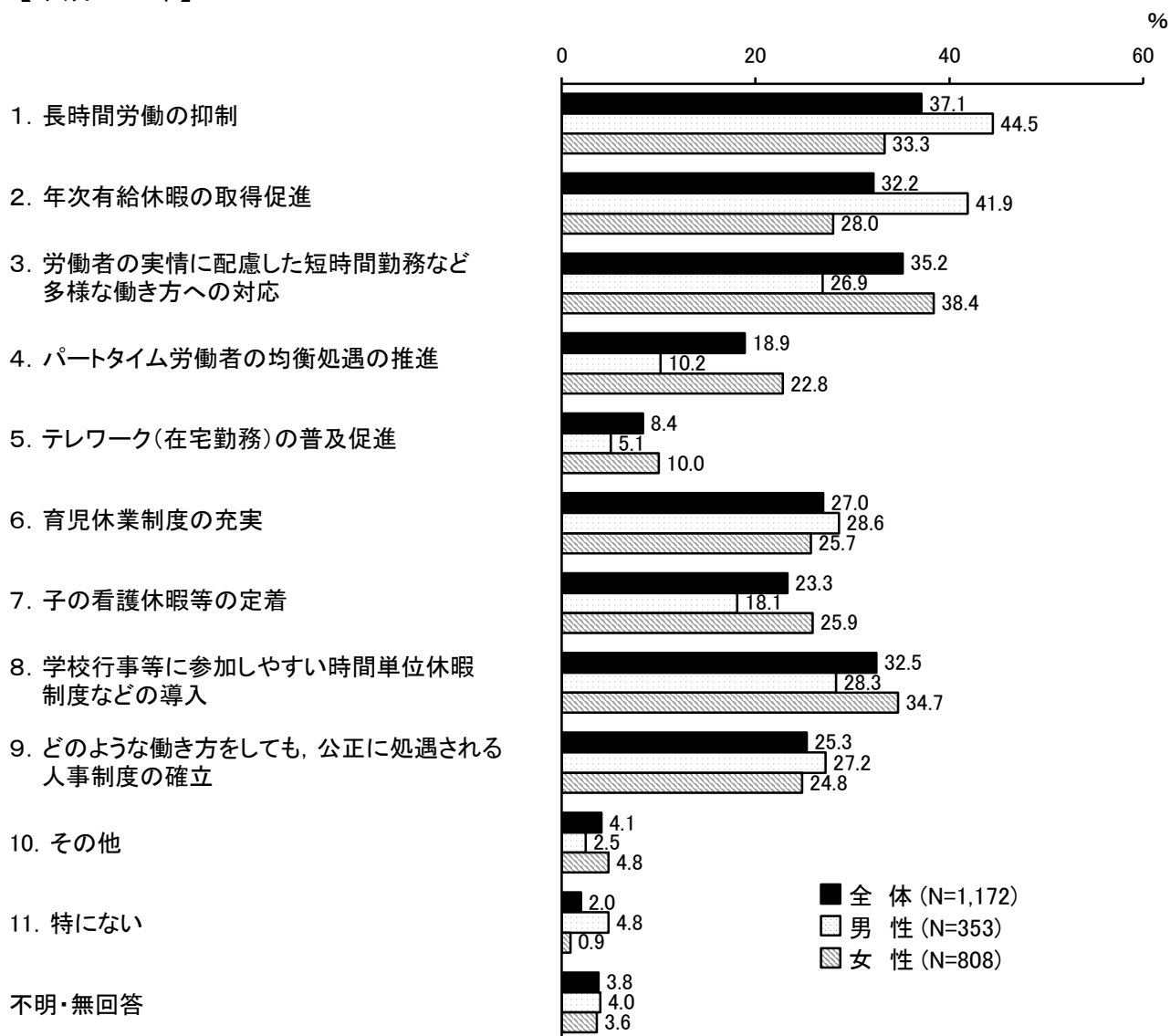
問３２ 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和の実現のために，企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いますか。当てはまる番号３つまでに○をつけてください。

「１．長時間労働の抑制」の割合が３７．１％と最も高く，次いで「３．労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が３５．２％，「８．学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」の割合が３２．５％となっています。

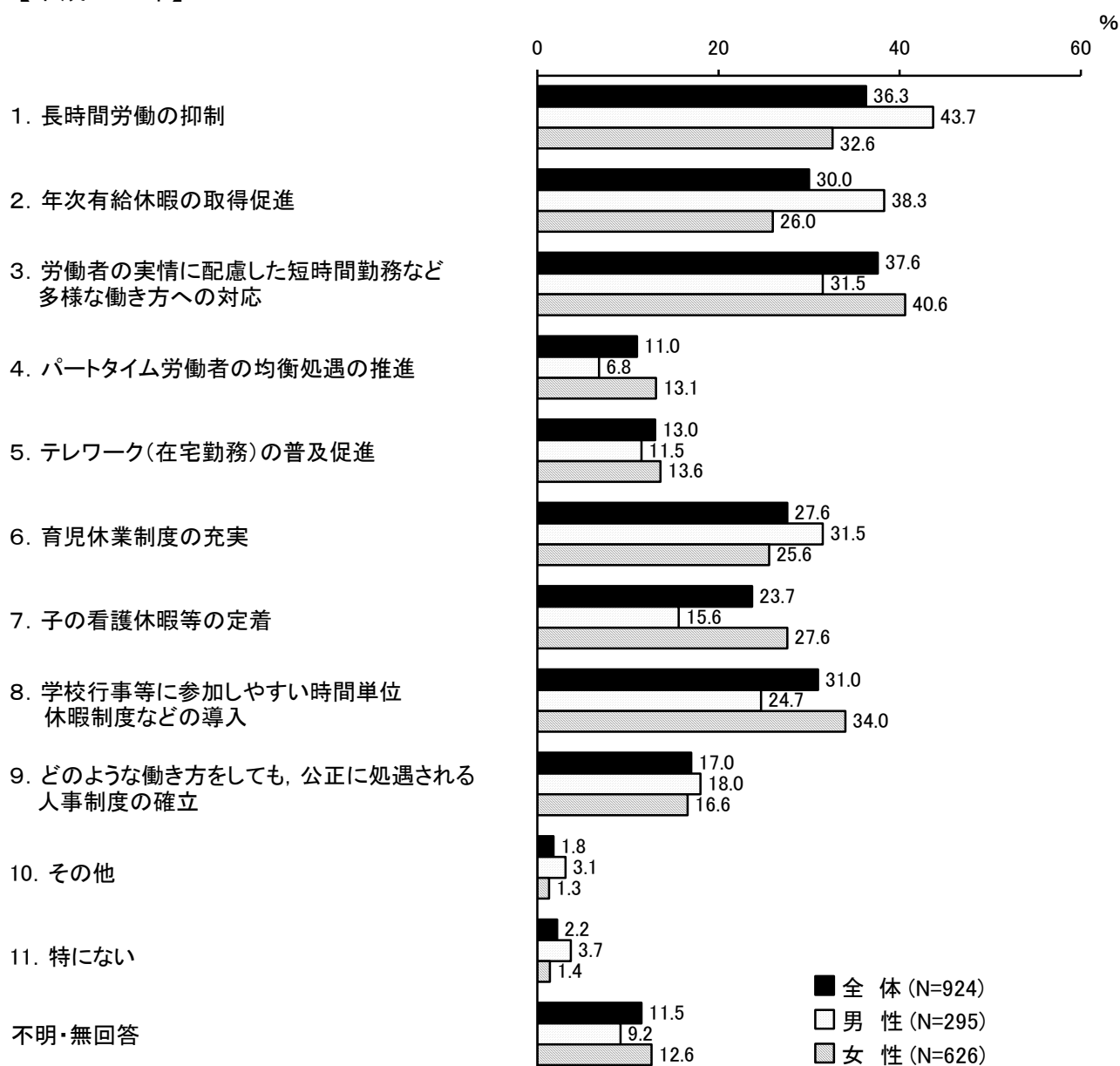
性別にみると，「２．年次有給休暇の取得促進」については「男性」が４１．９％に対し女性が２８．０％と１３．９ポイント，「４．パートタイム労働者の均衡処遇の推進」については「男性」が１０．２％に対し女性が２２．８％と１２．６ポイントの差が生じています。

平成２０年調査と比較すると，「４．パートタイム労働者の均衡処遇の推進」，「９．どのような働き方をしても，公正に処遇される人事制度の確立」の割合が高くなっており，「４．パートタイム労働者の均衡処遇の推進」は女性で９．７ポイント高くなっています。

【平成２５年】



【平成20年】



問 3 3 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和を積極的に推進したり，理解がある企業等についてどのように思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「1. 人材を大切にする企業等は，将来必ず発展すると思う」の割合が57.0%と最も高く，次いで「2. 企業等として信頼できるので，当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う」の割合が10.6%，「3. 自分自身や子どもが就職する際に，当該企業等を候補として是非検討したい」の割合が10.1%となっています。

性別による大きな差はありません。

平成20年調査と比較すると，男性で「1. 人材を大切にする企業等は，将来必ず発展すると思う」の割合が5.3ポイント高くなっています。

- 1. 人材を大切にする企業等は，将来必ず発展すると思う
- 2. 企業等として信頼できるので，当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う
- ▨ 3. 自分自身や子どもが就職する際に，当該企業等を候補として是非検討したい
- 4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う
- ▨ 5. 当該企業等は，競争社会では到底勝ち抜いていけないと思う
- 6. その他
- 不明・無回答

【平成25年】



【平成20年】



問 3 4 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和の実現のため、国や京都市にどのようなことを期待しますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「3. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」の割合が41.4%と最も高く、次いで「5. 法整備による取組の義務化」の割合が14.0%、「4. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成」の割合が12.9%となっています。

性別にみると、「1. 企業等への積極的な啓発」については「男性」が16.0%に対し女性が6.7%と9.3ポイントの差が生じています。

平成20年調査と比較すると、「5. 法整備による取組の義務化」の割合が低くなっており、特に男性で9.7ポイント低くなっています。また、男性で「1. 企業等への積極的な啓発」の割合が5.8ポイント高くなっています。

■ 1. 企業等への積極的な啓発

□ 2. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰

▨ 3. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）

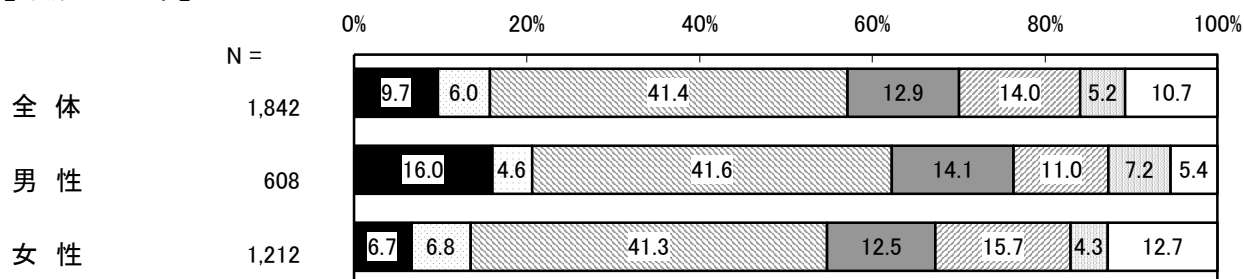
■ 4. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成

▨ 5. 法整備による取組の義務化

□ 6. その他

□ 不明・無回答

【平成25年】



■ 1. 企業等への積極的な啓発

□ 2. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰

▨ 3. 仕事と生活の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）

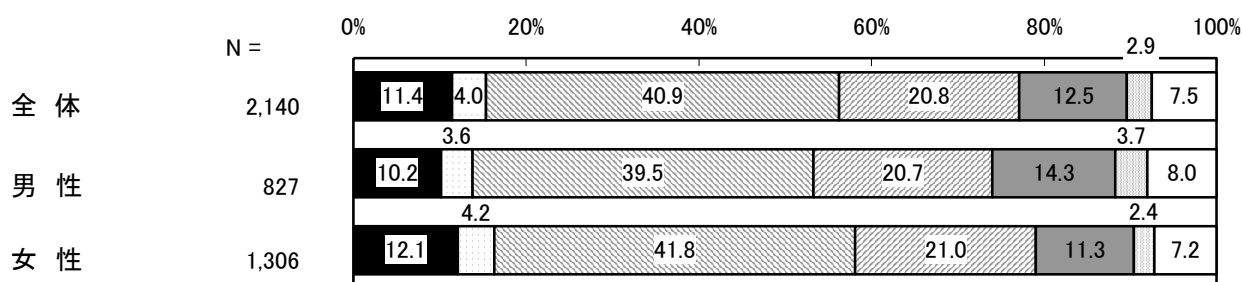
▨ 4. 法整備による取組の義務化

■ 5. 仕事と生活の調和を推進する社会的気運の醸成

□ 6. その他

□ 不明・無回答

【平成20年】



〔性別と子どもの有無別〕

性別と子どもの有無別にみると、「子どもがいる男性」では、「3. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税法上の優遇措置等）」や「4. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成」が、「子どもがいない男性」では「1. 企業等への積極的な啓発」の割合が他の区分に比べ高くなっています。

■ 1. 企業等への積極的な啓発

□ 2. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰

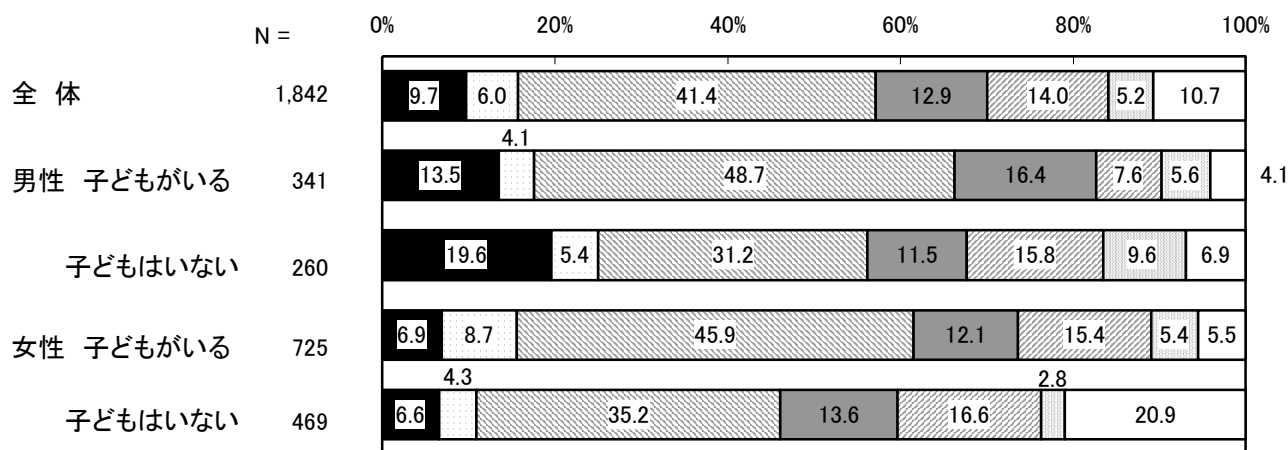
□ 3. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）

■ 4. 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成

■ 5. 法整備による取組の義務化

□ 6. その他

□ 不明・無回答



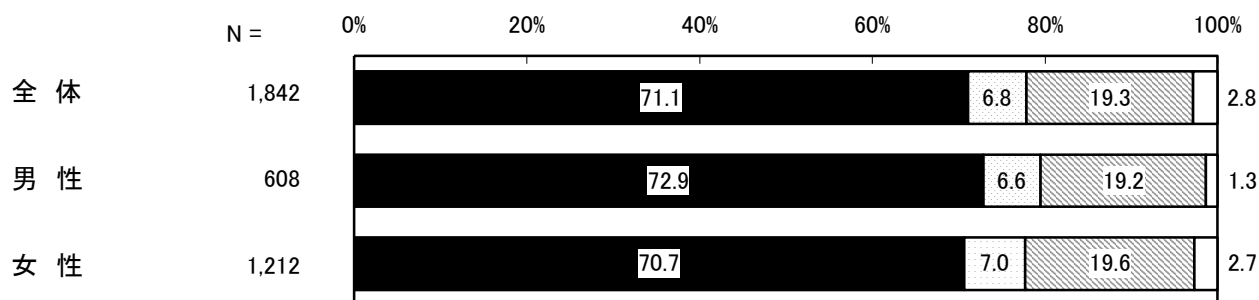
6 最後に

問35 あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 思う」の割合が71.1%と最も高く、次いで「2. 思わない」の割合が6.8%となっています。

■ 1. 思う □ 2. 思わない □ 3. わからない □ 不明・無回答

【平成25年】

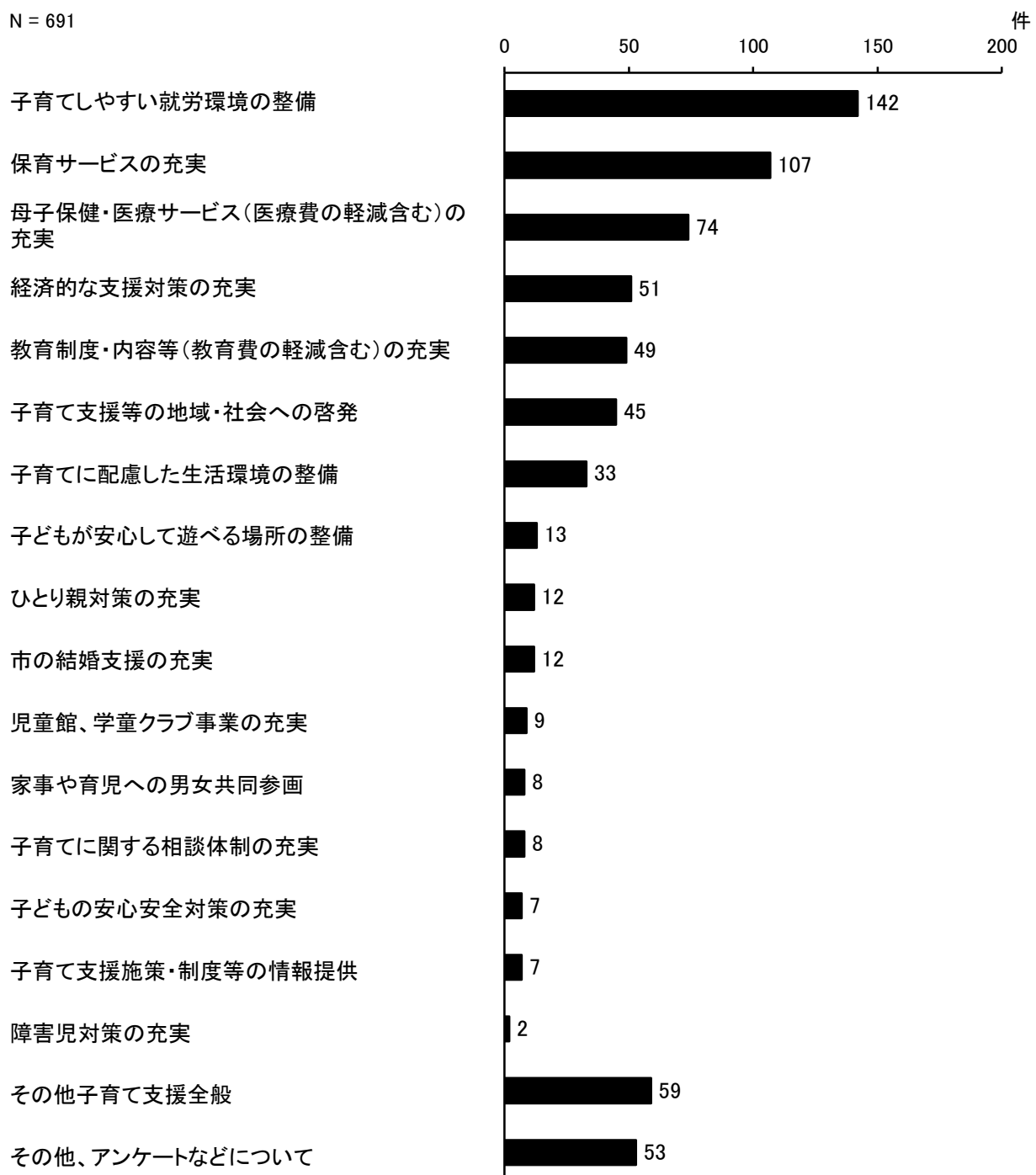


問36 安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、特に望むことやご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

【自由意見のまとめ】

安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、「子育てしやすい就労環境の整備」の件数が142件と最も多く、次いで「保育サービスの充実」の件数が107件となっています。

N = 691



IV 資料編

京都市 結婚と出産に関する意識調査

調査へのご協力をお願い

平素は、市政の推進にご協力をいただき、ありがとうございます。

京都市では、子育て支援の総合的な計画である「京都市未来こどもプラン」（計画期間：平成 22 年度～平成 26 年度）の次期計画（計画期間：平成 27 年度～平成 31 年度）の策定に向けた準備を進めています。

この調査は、市民の皆様に結婚と出産に関する意識などをお聞きし、一層進行する少子化について、社会全体でどのように対応していくべきなのか検討し、次期計画の策定やその後の子育て支援施策の推進に活用することを目的として行う大切な調査です。

今回、住民基本台帳から 18 歳から 49 歳までの方々を無作為に抽出し、この調査票をお送りしております。

本調査は、無記名方式で実施し、回収した調査票はすべて統計的に処理しますので、回答いただくことによってあなたにご迷惑をお掛けすることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 25 年 10 月

京都市長 門川 大作

【ご記入に当たってのお願い】

- 1 このアンケートのご回答は、原則として封筒の宛名の方ご本人にお願いします。ご事情により、ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方などがご本人の立場で、意思を反映してご記入ください。
- 2 ご回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、数字などをご記入いただく場合がございます。
- 3 選択肢をお選びいただく場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。また「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 4 設問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がございます。ことわり書きや矢印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は、次の設問にお進みください。
- 5 ご記入後は、**平成 25 年 11 月 13 日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れて、ポストに投かんしてください。

【調査に関する問合せ先】

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課 結婚と出産に関する意識調査担当
電話：075-251-2380 FAX：075-251-2322

※ 返送先は、京都市が調査・集計業務を委託している『株式会社 名豊』宛てとなっています。

■あなたご自身のことをお聞きします。

問1 あなたの性別と年齢をお聞きします（年齢は平成25年10月1日現在）。

1. 男性 2. 女性 () 歳

問2 お住まいの区等はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 北 区 | 2. 上京区 | 3. 左京区 |
| 4. 中京区 | 5. 東山区 | 6. 山科区 |
| 7. 下京区 | 8. 南 区 | 9. 右京区（京北地域除く） |
| 10. 右京区（京北地域） | 11. 西京区（洛西支所管内除く） | 12. 西京区（洛西支所管内） |
| 13. 伏見区（深草・醍醐支所管内除く） | 14. 伏見区（深草支所管内） | 15. 伏見区（醍醐支所管内） |

問3 あなたの職業をお聞きします。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 常勤（正規職員等） | 2. パート・アルバイト | 3. 自営業 |
| 4. 在宅勤務・内職 | 5. 無職・家事専業 | 6. 大学生・大学院生 |

問4 あなたの最終学歴をお聞きします。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|----------|-----------|--------------------------------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校 | 3. 高等専門学校 | 4. 専門学校、専修学校 |
| 5. 短期大学 | 6. 4年制大学 | 7. 大学院 | 8. その他（ ） |

問5 同居しているご家族全員の総収入（世帯の年収）はいくらくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください（事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた金額）。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 200万円未満 | 2. 200万～300万円未満 |
| 3. 300万～400万円未満 | 4. 400万～500万円未満 |
| 5. 500万～700万円未満 | 6. 700万～1,000万円未満 |
| 7. 1,000万円以上 | |

問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態及び心身の状況について、下記の選択肢番号を記入してください（年齢は平成25年10月1日現在）。

＜記入例＞ あなたに、小学1年生で7歳の子がいて、健康状態に問題がなく、心身に障害がない場合

続柄	職業等	年齢	健康状態	心身の状況
10	8	7	1	2

＜記入欄＞

続柄	職業等	年齢	健康状態	心身の状況

＜選択肢＞

【続柄】

- | | | | | | |
|-------|------|------|-------|----------|------|
| 1. 本人 | 2. 父 | 3. 母 | 4. 祖父 | 5. 祖母 | 6. 兄 |
| 7. 姉 | 8. 弟 | 9. 妹 | 10. 子 | 11. その他（ | ） |

【職業等】

- | | | |
|-----------------------------------|----------------|-------------|
| 1. 常勤（正規職員等） | 2. パート・アルバイト | 3. 自営業 |
| 4. 在宅勤務・内職 | 5. 無職・家事専業 | 6. 大学生・大学院生 |
| 7. 中学生・高校生 | 8. 小学生 | 9. 幼稚園に通園 |
| 10. 保育園（所）・昼間里親～京（みやこ）・ベビーハウス～に通園 | 11. 認可外保育施設に通園 | |
| 12. その他（ | | ） |

【健康状態】

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 1. 健康 | 2. どちらかといえば健康 | 3. あまり健康でない |
| 4. 現在、病気療養中 | 5. 介護が必要な状態 | |

【心身の状況】

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 心身に障害がある | 2. 心身に障害は無い |
|-------------|-------------|

■少子化についてお聞きします。

問7 少子化が社会に与える影響として、どのようなものがあると思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる
2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる
3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる
4. 地域に住む若い世代が減少し、地域の活気がなくなる
5. 人口の減少により、様々な需要が減少し、産業が衰退する
6. 就労人口が減少し、女性や高齢者の社会進出の機会が増加する
7. 女性の就労が促進され、男女が協力し合って生活や社会を築く風潮が強まる
8. その他（ ）
9. 影響はない
10. わからない

問8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 結婚して子育てをすること以外に、生きがいや価値観を見出す人が増えたから
2. 子育てよりも仕事に生きがいを見出す人が増えたから
3. 結婚年齢が高くなったから
4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから
5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから
6. 住宅や遊び場など、子育てに望ましい住環境が整っていないから
7. 保育園（所）や学童保育など子育て支援施策が十分でないから
8. 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから
9. 社会の動向や環境問題に対して、将来への不安を感じる人が増えているから
10. その他（ ）
11. わからない

問9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 何としても増加させる必要がある | 2. 増加させたほうがよい |
| 3. 増加させなくてもよい | 4. わからない |

問10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

	かなり 効果が ある	少しは 効果が ある	あまり 効果は ない	全く 効果は ない	わから ない
(1)男女ともが育児休業を取得しやすい環境づくり	1	2	3	4	5
(2)育児休業中の賃金保障の引上げ	1	2	3	4	5
(3)育児休業中の代替要員の確保	1	2	3	4	5
(4)育児休業後復職時の前職保障	1	2	3	4	5
(5)育児休業期間の長期化・弾力化	1	2	3	4	5
(6)保育園（所）に入所しやすい環境づくり	1	2	3	4	5
(7)学童保育を利用しやすい環境づくり	1	2	3	4	5
(8)保育料の軽減	1	2	3	4	5
(9)長時間保育の拡充	1	2	3	4	5
(10)職場内保育施設の拡充	1	2	3	4	5
(11)子どもが病気のときの看護休暇	1	2	3	4	5
(12)病児・病後児の保育受入れ施設の拡充	1	2	3	4	5
(13)親が病気のときに子どもを預けられる施設の整備	1	2	3	4	5
(14)労働時間の短縮	1	2	3	4	5
(15)男性の育児・家事への参加の啓発	1	2	3	4	5
(16)出産施設の受入れ体制の充実	1	2	3	4	5
(17)妊婦健康診査費用の助成充実	1	2	3	4	5
(18)分娩費用の助成充実	1	2	3	4	5
(19)児童手当など子育て家庭への給付施策の充実	1	2	3	4	5
(20)扶養控除など税制による優遇措置の拡充	1	2	3	4	5
(21)子どもの教育費の軽減	1	2	3	4	5
(22)子どもたちに社会で生きる力を育む学校教育の充実	1	2	3	4	5
(23)授乳室の確保など子連れで出かけやすいまちづくり	1	2	3	4	5
(24)子どもの遊び場や子育てサークルの活動の場の確保	1	2	3	4	5
(25)気軽に育児の相談ができる場の確保	1	2	3	4	5
(26)地域の交流・支援のネットワークづくり	1	2	3	4	5
(27)一時保育やファミリーサポート事業など、家庭での子育て支援策の整備	1	2	3	4	5
(28)幼稚園での預かり保育の促進	1	2	3	4	5
(29)男女の出会いの場づくりの支援	1	2	3	4	5
(30)安価で良好な住宅の供給	1	2	3	4	5
(31)子連れで安全・快適に移動できる交通システムの整備	1	2	3	4	5

■結婚についてお聞きします。

問 11 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 結婚している 2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した 3. 結婚していない

問 11-2～問 11-4 は、問 11 で「2」または「3」を選ばれた方にお聞きします。

問 11-2 今後、結婚したいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. すぐにでもしたい 2. いずれはしたい 3. 結婚したくない

問 11-3 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 18～19 歳 2. 20～24 歳 3. 25～29 歳 4. 30～34 歳
5. 35～39 歳 6. 40～44 歳 7. 45 歳以上 8. わからない

問 11-4 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をお聞きします。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1. まだ若いから | 2. 必要性を感じないから |
| 3. 仕事に集中したいから | 4. 趣味に集中したいから |
| 5. 独身生活のほうが気楽で自由だから | 6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから |
| 7. 異性との付き合いが苦手だから | 8. 周囲の同意が得られない（と思う）から |
| 9. 結婚資金がないから | 10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから |
| 11. 前回の結婚でもう十分だから | 12. その他（ ） |

問 12～問 16 までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問 12 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 利点があると思う 2. 利点はないと思う 3. わからない

問 12-2 問 12 で「1」を選んだ方にお聞きします。具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| 1. 子どもを（産み）育てられる | 2. 愛する人と一緒に暮らせる |
| 3. 精神的な安らぎの場が得られる | 4. 経済的に余裕がでる |
| 5. 社会的な信用が得られる | 6. 親や周囲からの期待にこたえられる |
| 7. 性的な充足が得られる | 8. その他（ ） |

問13 独身生活に結婚生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 利点があると思う | 2. 利点はないと思う | 3. わからない |
|-------------|-------------|----------|

問13-2 は、問13で「1」を選ばれた方にお聞きします。

問13-2 具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 行動や生き方が自由にできる | 2. 異性との交際が自由にできる |
| 3. 友人などと広い人間関係が保てる | 4. 職業を持ち社会とのつながりができる |
| 5. 現在の家族とのつながりが保てる | 6. 経済的に余裕がある |
| 7. 家族を養う責任がなく気楽である | 8. その他（ ） |

問14 独身生活を続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 子どもを持ってない | 2. 老後がひとりで不安 |
| 3. 精神的な安らぎの場が得られない | 4. 経済的に不安 |
| 5. 親や周囲からの期待にこたえられない | 6. その他（ ） |
| 7. 特に心配や不安はない | |

問15 結婚を考える場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 自分の仕事のこと | 2. 自分の家族のこと |
| 3. 相手の家族や親戚とのつきあい | 4. 結婚後の生活費のこと |
| 5. 結婚後のすまいのこと | 6. 結婚後の家事などのこと |
| 7. 出産や子どもを持つこと | 8. 結婚相手との相性のこと |
| 9. その他（ ） | 10. 特に心配や不安はない |

問16 結婚生活を始めるとした場合、失いたくないものは何ですか。もっとも失いたくないものの番号1つだけに○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1. 現在の仕事 | 2. 現在の住居 | 3. 現在の生活水準 |
| 4. 現在の趣味 | 5. 自分の姓 | 6. 自由な時間 |
| 7. 特にない | 8. その他（ ） | |

問17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらか と言えば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない
(1)家事や育児は、男女を問わず平等に分担すべきだ	1	2	3	4	5
(2)結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである	1	2	3	4	5
(3)仕事よりも家庭や家族の方が大切だ	1	2	3	4	5
(4)乳幼児期の子どもは、保育園（所）などに預けず、親が全面的に子育てを行うべきだ	1	2	3	4	5
(5)子どものことも大事だが、自分自身の生活も大事にしたい	1	2	3	4	5
(6)結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
(7)結婚しないで子どもを持ってもかまわない	1	2	3	4	5
(8)両親等から子育ての手助け・支援を受けたい	1	2	3	4	5
(9)結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい	1	2	3	4	5
(10)結婚しても、夫婦別姓でもかまわない	1	2	3	4	5

問18 下の選択肢の中に生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ、最も近いと思われるタイプの番号を選び、回答欄に記入してください。

回答欄	(1)理想とする人生	(2)実際の（実際になりそうな）人生

選択肢 （上の回答欄に 番号を記入）	1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける 2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ 3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない 4. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 5. 結婚せず、仕事を続ける 6. その他（ ）
---------------------------------	--

問19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのように思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらか と言えば そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	わから ない
(1)異性と知り合うゆとりや機会が少ないから	1	2	3	4	5
(2)ひとりでも十分に充実した生活が送れるから	1	2	3	4	5
(3)束縛されずに自由に生きたい人が増えてきたから	1	2	3	4	5
(4)対人関係がわずらわしく、苦手な人が増えているから	1	2	3	4	5
(5)結婚生活の失敗を恐れるから	1	2	3	4	5
(6)社会の動向や環境問題に対して不安を感じるから	1	2	3	4	5
(7)フリーターなど所得が低い若者が増えているから	1	2	3	4	5
(8)女性の経済的自立が進んでいるから	1	2	3	4	5
(9)親から自立ができていない人が増えているから	1	2	3	4	5
(10)子どもがほしいと思わない人が増えているから	1	2	3	4	5

問20 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについてどう思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい
2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである
4. その他（ ）
5. わからない

問21 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのようなものと考えますか。もっとも望ましいと考える番号1つに○をつけてください。

1. 結婚したい男女の出会いの場づくり
2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる
3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女共に育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める
4. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける
5. 男女が共に社会参加や自己実現できる意識改革を推進する
6. 男性の家事・育児への参加を促すための取組や啓発を進める
7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める
8. その他（ ）

■出産についてお聞きします。

問22 あなたは何人のお子さんがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|-------------------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人以上 | 5. 子どもはいない（予定はない） | |

問23 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子どもの数は何人ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|----------------|----------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人以上 | 5. 多ければ多いほうがいい | 6. 欲しくない |

問24 現実にいる子どもの数、もしくは持とうと予定している子どもの数は理想と比べていかがですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 多い | 2. 同じ | 3. 少ない |
|-------|-------|--------|

問25、問26は、問23で「6」または問24で「3」を選んだ方にお聞きします。

問25 子どもを持たない理由、あるいは実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 結婚するつもりがないから | 2. 仕事や趣味を優先したいから |
| 3. 妊娠・出産が大変だから | 4. 育児が大変だから |
| 5. 育児と仕事の両立が困難だから | 6. 子どもが好きではないから |
| 7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから | 8. 育児に家族の協力が得られないから |
| 9. 保育園（所）や学童保育など子育て支援施策が不十分だから | 10. 出産・育児・教育にお金がかかるから |
| 11. 自然環境・社会環境が良くないから | 12. 定年退職までに子どもが成人してほしいから |
| 13. 夫婦の生活を大切にしたいから | 14. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらないから |
| 15. その他（ | ） |

問26 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもを持ったり、理想の子どもの数に近づいていたと思いますか。これだけあればできるかもしれないと思う最低限必要な項目に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 育児休業制度の充実 | 2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ |
| 3. 職場における理解や支援 | 4. 地域や社会全体での子育ての応援体制 |
| 5. 職場内保育施設の整備 | 6. 長時間保育の実施 |
| 7. 待機することなく入所できる保育園（所） | 8. 待機することなく利用できる学童保育 |
| 9. 子どもが病気やケガのときに預けられる施設の充実 | 10. 子どもの安心安全な活動場所の確保 |
| 11. 出産費用の負担軽減措置 | 12. 保育料の軽減措置 |
| 13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置 | |
| 14. その他（ | ） |

すべての方にお聞きします。

問27 あなたは出産後の実家との関わり方についてどう思っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 同居したい 2. 近くに住みたい
3. 近くに住みたくない 4. 両親はともに他界している

問 27-2 問 27 で「2」を選んだ方にお聞きします。実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

() 分

■「真のワーク・ライフ・バランス」の実現(仕事、家庭生活、地域活動や社会貢献の調和)についてお聞きます。

※ 京都市が提案する「真のワーク・ライフ・バランス」の実現とは

「仕事」か「仕事以外の生活」という二者選択ではなく、仕事や家庭生活、地域活動や社会貢献などにおいて、自分を取り巻く様々な「つながり」を大切にし、そこで求められる役割や責任を果たすことで、生きがいと充実感を得て心豊かな生活が送れていることです。

問 28 あなたは、京都市が提案している「真のワーク・ライフ・バランス」について知っていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉も意味も知っていた。
2. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉は知っていたが意味は知らなかった。
3. 言葉も知らない。

問29 あなたは、ご自身やご家族について、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和が希望どおりに図れていると思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 図れている
2. 図ろうとしているがあまり図れていない
3. 全く図れていない
4. 考えたこともない

問 29-2 問 29 で「2」または「3」を選ばれた方にお聞きします。図れていない理由は何ですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない
2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから
3. 仕事以外にやるべき（やりたい）ことがないから
4. その他（

問 30～問 33 は、結婚している方（入籍していないいわゆる事実婚を含む。）にお聞きします。

問30 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。本人と配偶者それぞれ当
てはまる番号1つに○をつけてください。

<本人>

1. 結婚前の仕事を続けた 2. 仕事を変えて働き続けた 3. 新たに就職した
4. 仕事を辞めた 5. もともと仕事はしていない 6. その他（ ）

＜配偶者＞

1. 結婚前の仕事を続けた 2. 仕事を変えて働き続けた 3. 新たに就職した
4. 仕事を辞めた 5. もともと仕事はしていない 6. その他（ ）

問 31 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めた経験がありますか。当
てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 第1子出産を機に仕事を辞めた } (→ 問 31-2, 3へ)
2. 第2子以降の出産を機に仕事を辞めた }
3. 出産を機に仕事を辞めていない
4. 出産の時点では仕事をしていなかった
5. 出産をしていない (→ 問 31-5へ)

問 31-2、問 31-3 は、問 31 で「1」または「2」を選ばれた方にお聞きします。

問 31-2 仕事を辞めた理由について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したかった
2. 職場が育児休業、子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった
3. 配偶者や家族が退職を望んだ
4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった
5. その他（ ）

問31-3 仕事を辞めたあと、また働きははじめましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 働きはじめた
2. 働いてないが、機会があれば働きたい
3. 働いてないし、これからも働くつもりはない

問 31-4 問 31-3 で「1」または「2」を選んだ方にお聞きします。また働きはじめた、あるいは機会があれば働きたいと思ったきっかけは何でしたか。もっとも大きなきっかけとなったもの1つに○をつけてください。

1. 子どもが大きくなったから
2. 経済的な理由が発生したから
3. 友人・知人に誘われたから
4. 配偶者から勧められたり、頼まれたから
5. 元の職場から誘われたから
6. 求人募集をみてやる気になったから
7. その他（ ）

問 31-5 問 31 で「5」を選んだ方にお聞きます。あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めようと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問 31-6 問 31-5 で「1」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい
2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気なため
3. 配偶者や家族が退職を望みそうなため
4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうなため
5. その他（ ）

問32 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和の実現のために、企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

1. 長時間労働の抑制
2. 年次有給休暇の取得促進
3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応
4. パートタイム労働者の均衡処遇の推進
5. テレワーク（在宅勤務）の普及促進
6. 育児休業制度の充実
7. 子の看護休暇等の定着
8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入
9. どのような働き方をしても、公正に処遇される人事制度の確立
10. その他（
11. 特になし

問33 仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和を積極的に推進したり、理解がある企業等についてどのように思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 人材を大切にする企業等は、将来必ず発展すると思う
2. 企業等として信頼できるので、当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う
3. 自分自身や子どもが就職する際に、当該企業等を候補として是非検討したい
4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う
5. 当該企業等は、競争社会では到底勝ち抜いていけないと思う
6. その他（ ）

問 34 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和の実現のため，国や京都市にどのようなことを期待しますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 企業等への積極的な啓発
2. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰
3. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）
4. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成
5. 法整備による取組の義務化
6. その他（ ）

■最後にお聞きます。

問 35 あなたは，結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 思う

2. 思わない

3. わからない

問 36 安心して子どもを産み，子どもを健やかに育てていくための行政の施策や，社会の制度のあり方について，特に望むことやご意見がありましたら，ご自由にお書きください。

お忙しいところ，アンケートにご協力いただきありがとうございました。

この調査票は，平成 25 年 11 月 13 日（水）までに，
同封の返信用封筒に入れて，ポストに投かんしてください。

京都市 結婚と出産に関する意識調査 【結果報告書】

発行年月 平成26年10月

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課

〒604-8171

京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町 566-1 井門明治安田生命ビル3階

電話：075-251-2380 FAX：075-251-2322

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0.html>

京都市印刷物 第263109号



この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。

コミュニティ回収や古紙回収等にお出してください。

